

対 象 病 害 虫 名 コナガ *Plutella xylostella*

試験場名 愛知県農業総合試験場

担当者氏名 石川博司、上田直人

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 試験場内

対象病害虫発生状況 少発生 (放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培 (ビニルハウス・雨除け・トンネルなど) の区別を記載)

品種: CRもちばな 播種: 2020 年 3 月 5 日 定植: 4 月 1 日

栽植距離: 畝幅 80 cm × 株間 15 cm、2 条植え

土性: 砂壤土、施設栽培 (ビニルハウス) 施肥・一般管理は慣行に準じた。試験期間中の防除薬剤はなし。

3-I	2-II	1-III
1-I	3-II	2-III
2-I	1-II	3-III

1: ZI-2901 20SC 4000 倍 2: デルフィン顆粒水和剤 1000 倍

3: 無処理 I, II, III は連制を示す

区制・面積 1 区 2.2 m² (0.8m × 2.7m) 36 株 3 連制

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020 年 4 月 20 日 (作物のステージ) 展開期 (本葉 6~8 枚)

(処理方法) 各剤所定濃度の薬液を、肩掛け噴霧器を用いて十分量 (約 200L/10a) 散布した。展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨) 施設栽培のため降雨の影響はなかった。

月日	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27
平均気温 (°C)	16.2	16.1	14.5	14.4	14.4	17.6	19.7	20.4

観測地: 愛知県農業試験場内ビニルハウス

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 2020 年 4 月 20 日 (散布前)、4 月 23 日 (散布 3 日後)、4 月 27 日 (散布 7 日後)

(調査方法) 薬効は、各区中央付近の 24 株についての生息している幼虫数と蛹数を調査した。

なお、幼虫数は齢期別に計数した。

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼観察した。

ー: 薬害を認めない。+ 軽微な薬害症状を認める。++ : 中程度の薬害症状を認める。

+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他 4 月 17 日に 2, 3 齢幼虫 (愛知農総試験飼育個体群、2020 年 3 月に場内キャベツから採取) を区当たり 40 頭放虫した。

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍率	連制	24株当たりの生息虫数												補正密度指数		薬害				
			散布前(4/20)					散布3日後(4/23)					散布7日後(4/27)					散布 3日後	散布 7日後	散布 3日後	散布 7日後
			若齢	中齢	老齢	蛹	合計	若齢	中齢	老齢	蛹	合計	若齢	中齢	老齢	蛹	合計				
13)ZI-2901 20SC ジクロメゾチアズ 20.0%(w/v) Lot. NAC731	4000	I	6	13	1	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-		
		II	8	14	1	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-		
		III	2	9	6	0	17	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	-	-		
		合計	16	36	8	0	60	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2.7	0.0		
対)デルフィン顆粒水和剤 パチルス チューリングゲンシス菌の生芽胞 及び産生結晶毒素(BT) 10.0%	1000	I	12	13	2	0	27	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	-	-		
		II	8	9	3	0	20	1	2	0	0	3	0	0	0	0	0	-	-		
		III	6	15	1	0	22	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	-	-		
		合計	26	37	6	0	69	1	7	0	0	8	0	0	0	0	0	19.0	0.0		
無 処 理		I	7	21	1	0	29	4	7	0	0	11	0	2	2	2	6				
		II	7	3	3	0	13	1	13	4	0	18	0	2	2	2	6				
		III	4	10	3	0	17	2	4	1	0	7	0	1	2	1	4				
		合計	18	34	7	0	59	7	24	5	0	36	0	5	6	5	16	100	100		

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

判定は散布 3 日後の補正密度指数で行った。

13) ZI-2901 20SC 4000 倍 AAA-

本剤 4000 倍散布は、対照のデルフィン顆粒水和剤 1000 倍散布と比較して防除効果は高く、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 ハイマダラノメイガ・*Helhula undalis*

試験場名 愛知県農業総合試験場

担当者氏名 上田直人

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 試験場内

対象病害虫発生状況 多発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:CRもちばな 育苗:128 穴セルトレイ 播種日:2020 年8月3日 定植日:2020 年9月3日

栽植距離:畝幅 150cm×株間 15cm 2 条植え 土性:埴埴土 育苗期:ガラス温室 定植後:露地栽培

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1 区 3.0 m² (1.5m×2.0m) 26 株 3 連制

2-Ⅱ	3-Ⅰ	1-Ⅲ
1-Ⅰ	2-Ⅲ	3-Ⅱ
3-Ⅲ	1-Ⅱ	2-Ⅰ

1:ZI-2901 20SC 2:フェニックス顆粒水和剤 3:無処理 I II IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020 年 9 月 14 日

(処理時の作物のステージ) 展葉期(本葉 6~7 枚)

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、200L/10aの割合で加圧式噴霧機を用いて散布した。展着剤はグラミンS10000 倍を加用した。

(処理前後の降雨影響) 処理前後に降雨はなかったため影響はなかった。

試験期間中の気象条件

日付	9/14	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21
平均気温 (°C)	22.8	22.5	24.0	24.6	25.5	22.7	20.5	21.8
降水量 (mm)	0.0	0.0	0.0	2.5	3.0	0.5	0.0	0.0

観測地点:愛知県農業総合試験場内

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 2020 年 9 月 14 日(散布前)、9 月 17 日(散布 3 日後)、9 月 21 日(散布 7 日後)。

(調査方法) 1 区あたり 20 株について、生息する幼虫数及び芯止まり株数を調査した。幼虫は若齢・中齢・老齢の別に調査した。芯止まり株数は9月 14 日(散布前)に芯止まりしていない 20 株を選定し、9 月 17 日(散布 3 日後)、9 月 21 日(散布 7 日後)に調査した。

散布被害は、薬効調査時に葉の被害症状の有無を以下の基準により肉眼で観察した。

-:被害を認めない。+:軽微な被害症状を認める。++:中程度の被害症状を認める。

+++ :重度の被害症状を認める。

対象病害虫名・学名 ハイマダラノメイガ・*Hellula undalis*

試験場名 愛知県農業総合試験場

3. 試 験 成 績

供試薬剤	希釈倍率	連制	20株あたりの生息虫数											
			散布前 (9/14)				散布3日後 (9/17)				散布7日後 (9/21)			
			若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計
13) ZI-2901 20SC ジ'クロロメ'チ'アス' 20% (w/v) Lot. 111893619	4000倍	I	11	5	1	17	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	8	7	6	21	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	15	12	5	32	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	34	24	12	70	0	0	0	0	0	0	0	0
対) フェニックス顆粒水和剤 フル'ン'ジ'アミド' 20.0%	2000倍	I	12	4	1	17	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	11	11	4	26	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	9	7	4	20	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	32	22	9	63	0	0	0	0	0	0	0	0
無処理		I	8	4	3	15	20	18	3	41	23	16	10	49
		II	22	4	4	30	20	11	9	40	4	8	7	19
		III	14	11	3	28	9	16	8	33	8	17	3	28
		合計	44	19	10	73	49	45	20	114	35	41	20	96

供試薬剤	希釈倍率	連制	補正密度指数		芯止まり株率 (%)		葉害 9/17, 9/21
			散布 3日後	散布 7日後	散布 3日後	散布 7日後	
13) ZI-2901 20SC ジ'クロロメ'チ'アス' 20% (w/v) Lot. 111893619	4000倍	I			15.0	15.0	-
		II			15.0	15.0	-
		III			0.0	0.0	-
		合計	0.0	0.0	平均 10.0	10.0	
対) フェニックス顆粒水和剤 フル'ン'ジ'アミド' 20.0%	2000倍	I			25.0	25.0	-
		II			5.0	10.0	-
		III			25.0	25.0	-
		合計	0.0	0.0	平均 18.3	20.0	
無処理		I			55.0	100.0	-
		II			75.0	100.0	-
		III			90.0	100.0	-
		合計	100	100	平均 73.3	100.0	

4. 考 察

判定は散布3,7日後の補正密度指数で行った。

13) ZI-2901 20SC 4000 倍 散布 BAA-

本剤は、対照のフェニックス顆粒水和剤 2000 倍散布と比較してほぼ同等の効果を示し、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 アオムシ(モンシロチョウ) *Pieris rapae crucivora*

試験場名 愛知県農業総合試験場

担当者氏名 石川博司、上田直人

1. 試 験 目 的 (依 頼 事 項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 試験場内

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別を記載)

品種:CRもちばな 播種:2020年3月5日 定植:4月1日

栽植距離:畝幅 80 cm×株間 15 cm、2条植え

土性:砂壤土、施設栽培(ビニルハウス) 施肥・一般管理は慣行に準じた。試験期間中の防除薬剤はなし。

区制・面積 1区 2.2 m² (0.8m×2.7m) 36株 3連制

3-I	2-II	1-III
1-I	3-II	2-III
2-I	1-II	3-III

1: ZI-2901 20SC 4000倍 2: デルフィン顆粒水和剤 1000倍

3: 無処理 I, II, IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年4月20日 (作物のステージ) 展開期(本葉6~8枚)

(処理方法) 各剤所定濃度の薬液を、肩掛け噴霧器を用いて十分量(約200L/10a)散布した。展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨) 施設栽培のため降雨の影響はなかった。

月日	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27
平均気温(℃)	16.2	16.1	14.5	14.4	14.4	17.6	19.7	20.4

観測地: 愛知県農業総合試験場内ビニルハウス

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 2020年4月20日(散布前)、4月23日(散布3日後)、4月27日(散布7日後)

(調査方法) 薬効は、各区中央付近の24株についての生息している幼虫数と蛹数を調査した。

なお、幼虫数は齢期別に計数した。

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼観察した。

ー: 薬害を認めない。+ 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。

+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

3. 試 験 成 績

供 試 薬 剤	希釈倍率	連制	24株当たりの生息虫数												補正密度指数		薬害				
			散布前(4/20)					散布3日後(4/23)					散布7日後(4/27)					散布 3日後	散布 7日後	散布 3日後	散布 7日後
			若齢	中齢	老齢	蛹	合計	若齢	中齢	老齢	蛹	合計	若齢	中齢	老齢	蛹	合計				
13)ZI-2901 20SC ジクロロメゾチアズ 20.0%(w/v) Lot NAC731	4000	I	9	3	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	
		II	21	21	0	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	
		III	6	4	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	
		合計	36	28	0	0	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	
対)デルフィン顆粒水和剤 パチルス チューリンゲンシス菌の生芽胞 及び産生結晶毒素(BT) 10.0%	1000	I	11	6	0	0	17	3	2	0	0	5	0	0	0	0	0	0	-	-	
		II	16	5	0	0	21	4	4	0	0	8	0	0	0	0	0	0	-	-	
		III	6	0	0	0	6	1	3	0	0	4	0	0	0	0	0	0	-	-	
		合計	33	11	0	0	44	8	9	0	0	17	0	0	0	0	0	0	44.0	0.0	
無 処 理		I	15	4	0	0	19	9	8	0	0	17	0	13	0	0	13				
		II	14	14	0	0	28	1	30	0	0	31	0	7	18	0	25				
		III	23	4	0	0	27	3	14	0	0	17	0	14	2	0	16				
		合計	52	22	0	0	74	13	52	0	0	65	0	34	20	0	54	100	100		

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

判定は散布3、7日後の補正密度指数で行った。

13) ZI-2901 20SC 4000倍 BAA-

本剤4000倍散布は、対照のデルフィン顆粒水和剤1000倍散布と比較して同等の防除効果はあり、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 キスジノミハムシ(成幼虫) *Phyllotreta striolata*

試験場名 長野県野菜花き試験場

担当者氏名 金子政夫

1. 試 験 目 的 (依 頼 事 項) 防除効果及び被害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 長野県塩尻市大字宗賀字床尾 1066-1 長野県野菜花き試験場内 露地圃場

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 甚発生(自然発生)

耕種概要(品種・施肥・一般管理) 品種:「CRもちばな」、播種:2020年7月29日、露地栽培

栽植距離:条間 20 cm × 株間 20 cm 千鳥(白黒マルチ使用)、土性:埴壤土

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

試験期間中の薬剤防除:コナガ及びアブラムシ類が発生したため、8月28日にBT剤1,000倍液＋フロニカミド4,000倍液(かぶ登録なし)を散布。

区制・面積・試験区の構成 1区3m²(1m×3m) 60株(4条千鳥×15株) 3連制

北	1-I	2-II	3-III	1:ZI-2901 20SC 2:対)アルバリン顆粒水溶剤
	3-I	1-II	2-III	3:無処理
	2-I	3-II	1-III	なお、I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年8月12日、19日の2回 (作物のステージ) 播種14、21日後

(処理方法) 所定濃度に希釈した薬液を十分量(200L/10a相当)、背負い式動力噴霧機を用いて散布した。展着剤はマイノール10,000倍を加用した。

(処理前後の降雨影響) 降雨の影響はないと考えられる。

試験期間中の気象条件

月 日	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30
平均気温(℃)	27.2	24.7	26.9	28.1	26.8	25.5	24.9	25.3	26.8	26.2	24.0	23.0	24.2	25.6	26.9	25.8	25.0	26.1	25.7
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13.0	0	0	0	0	0	0	2.5	24.0

月 日	8/31	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	9/16	9/17
平均気温(℃)	25.6	23.9	25.2	24.7	23.7	23.6	23.7	24.4	24.2	23.1	21.5	23.2	22.9	22.5	22.4	20.9	20.5	23.2
降水量(mm)	0	0	0	1.0	0.5	22.5	4.5	0	0	2.0	5.0	0	0	2.5	0	0	0	8.0

観測地点:長野県野菜花き試験場内 気象観測データ

調査月日・方法

(調査月日) 葉及び根部の調査:播種30日後(8月28日)及び50日後(9月17日)

(調査方法) 葉の被害程度:播種30日後に各区任意の10株について、また播種50日後に各区任意の20株について、キスジノミハムシ成虫による葉の被害程度を5段階で調査した。

根部の被害程度:葉の被害程度の調査後に、播種30日後に各区任意の10株を、また播種50日後に各区任意の20株を掘り上げ、水道水で根部を洗浄した後に、キスジノミハムシ幼虫による被害程度を4段階で調査した。

被害は、葉および根部を対象に調査時に肉眼により観察し、被害症状の有無を次の内容で調査した。－被害を認めない、＋軽微な被害症状、++中程度の被害症状、+++重度の被害症状。

対象病害虫名・学名 キスジノミハムシ(成幼虫) *Phyllotreta striolata*

試験場名 長野県野菜花き試験場

3. 試験成績

表1 キスジノミハムシ成虫による葉の被害程度及び葉害

供 試 薬 剤		有効成分・量	希釈倍数	区制	播種30日後(8/28)								播種50日後(9/17)								葉害	
					調査 株数	被害程度				被害度	対無 処理比	調査 株数	被害程度				被害度	対無 処理比	30日後 8/28	50日後 9/17		
Lot no.					0	1	2	3	4				0	1	2	3			4			
13) ZI-2901 20SC		ジクロロメノチアズ 20.0%(w/v)	4,000	I	10	9	1	0	0	0	2.5	4.3	20	2	9	8	1	0	35.0	39.5	—	—
				II	10	10	0	0	0	0	0.0		20	4	9	7	0	0	28.8		—	—
Lot no. 111893619				III	10	9	1	0	0	0	2.5		20	1	11	7	1	0	35.0		—	—
				合計	30	28	2	0	0	0	1.7		60	7	29	22	2	0	32.9			
対) アルバリン顆粒水溶剤		ジノテフラン 20.0%	2,000	I	10	6	4	0	0	0	10.0	28.3	20	0	4	14	2	0	47.5	57.5	—	—
				II	10	5	4	1	0	0	15.0		20	1	6	8	5	0	46.3		—	—
				III	10	7	3	0	0	0	7.5		20	0	4	12	4	0	50.0		—	—
				合計	30	18	11	1	0	0	10.8		60	1	14	34	11	0	47.9			
無 処 理		I	10	1	4	4	1	0	37.5		20	0	1	2	8	9	81.3					
		II	10	0	5	5	0	0	37.5		20	0	0	1	7	12	88.8					
		III	10	1	3	5	1	0	40.0		20	0	1	4	5	10	80.0					
		合計	30	2	12	14	2	0	38.3		60	0	2	7	20	31	83.3					

被害度 = ("1の株数" + "2の株数" × 2 + "3の株数" × 3 + "4の株数" × 4) / (調査株数 × 4) × 100

0:被害なし、1:少々の被害、2:葉面積の1/4未満の被害、3:葉面積の1/2未満の被害、4:葉面積の1/2以上の被害

表2 キスジノミハムシ幼虫による根部の被害程度及び葉害

供 試 薬 剤 有効成分・量 希釈倍数 区制 Lot no.				播種30日後(8/28)							播種50日後(9/17)							葉害		
				調査 株数	被害程度				被害度	対無 処理比	調査 株数	被害程度				被害度	対無 処理比	30日後 8/28	50日後 9/17	
					無	少	中	多					無	少	中			多		
13) ZI-2901 20SC ジクロロメゾチアズ 20.0%(w/v) 4,000 Lot no. 111893619				I	10	9	1	0	0	3.3	2.1	20	5	14	1	0	26.7	22.2	—	—
				II	10	10	0	0	0	0.0		20	10	9	1	0	18.3		—	—
				III	10	10	0	0	0	0.0		20	8	12	0	0	20.0		—	—
				合計	30	29	1	0	0	1.1		60	23	35	2	0	21.7			
対) アルバリン顆粒水溶剤 ジノテフラン 20.0% 2,000				I	10	8	2	0	0	6.7	12.8	20	0	1	17	2	68.3	71.0	—	—
				II	10	7	3	0	0	10.0		20	0	2	13	5	71.7		—	—
				III	10	9	1	0	0	3.3		20	0	4	11	5	68.3		—	—
				合計	30	24	6	0	0	6.7		60	0	7	41	12	69.4			
無 処 理				I	10	0	5	5	0	50.0		20	0	0	1	19	98.3			
				II	10	0	5	5	0	50.0		20	0	0	1	19	98.3			
				III	10	1	2	6	1	56.7		20	0	0	2	18	96.7			
				合計	30	1	12	16	1	52.2		60	0	0	4	56	97.8			

被害度 = (少 + 中 × 2 + 多 × 3) / (調査株数 × 3) × 100

無:食害なし、少:食害がわずかに認められる、中:食害痕がやや目立ち品質はやや劣る、多:食害痕が多く品質が劣る

4. 考 察

効果の判定は、播種 30 及び 50 日後の葉及び根部被害度の対無処理比で行った。

13) ZI-2901 20SC 4,000 倍液散布 2回散布 ABB—

かぶのキスジノミハムシ(成幼虫)に対して、対照薬剤のアルバリン顆粒水溶剤 2,000 倍液にまさる効果が認められ、無処理区と比較して効果が認められた。実用性はあると考えられる。かぶの葉及び根部に葉害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 カブラハバチ類 (カブラハバチ *Athalia rosae*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 山梨試験場

担当者氏名 丸山直哉、秋山空隆、中西秀明

1. 試験目的 (依 頼 事 項) 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 山梨県南都留郡鳴沢村 日植防山梨借り上げ圃場

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土性条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:耐病ひかり 播種:2020年5月28日 露地栽培

栽植距離:畝間150cm 株間5cm 条間20cm 3条点播 施肥その他一般管理:現地慣行に準じた。土性:埴壤土

試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 9.0 m² (6.0m×1.5m) 約360株 3連制

			1- I	2- I	3- I
3- III	1- III	2- III	2- II	3- II	1- II

1:ZI-2901 20SC 2:モスピラン顆粒水溶剤 3:無処理

I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年6月16日 (処理量) 222L/10a (作物のステージ) 5~6葉期

(処理方法) 背負い式バッテリー噴霧機を用いて、作物全体が十分に濡れるよう散布した。展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨) 処理前後に降雨はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23
平均気温(℃)	20.4	18.4	16.3	14.3	18.8	18.3	15.0	18.9
降水量(mm)	0.0	0.0	8.0	42.5	0.0	0.0	22.0	0.0

山梨県河口湖アメダスデータより

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:6月16日(処理前)、6月19日(処理3日後)および6月23日(同7日後)

薬害試験:6月19日(処理3日後)および6月23日(同7日後)

(調査方法) 各区区境を除いた中央付近20株に寄生する虫を发育ステージごとに調査した。

薬害は、茎葉を対象に、各調査時に肉眼により観察し、薬害症状を下記の基準に従って程度別に調査した。

- :薬害を認めない。+ :軽微な薬害症状を認める。++ :中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 カブラハバチ(カブラハバチ *Athalia rosae*) 試験場名 (一社) 日本植物防疫協会山梨試験場

3. 試 験 成 績

薬効調査

供試薬剤		処理方法	連制	寄生虫数(20株あたりの合計値)											
				処理前 (6/16)				処理3日後 (6/19)				同7日後 (6/23)			
				若 齢	中 齢	老 齢	計	若 齢	中 齢	老 齢	計	若 齢	中 齢	老 齢	計
13) ZI-2901 20SC シクロメゾチアス 20.0%(w/v) Lot.111893619	4000倍 散布	I	8	2	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	
		II	13	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	
		III	7	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	
		計	28	2	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(補正密度指数)								(0)				(0)		
対) モスピラン顆粒水溶剤 アセタミド 20.0%	4000倍 散布	I	9	1	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	
		II	14	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	
		III	7	0	0	7	0	0	0	0	1	0	0	1	
		計	30	1	0	31	0	0	0	0	1	0	0	1	
	(補正密度指数)								(0)				(1.5)		
無処理		I	14	0	0	14	9	4	0	13	8	15	3	26	
		II	10	2	0	12	9	5	0	14	4	19	3	26	
		III	8	0	0	8	11	2	0	13	6	12	4	22	
		計	32	2	0	34	29	11	0	40	18	46	10	74	
	(補正密度指数)								(100)				(100)		

薬害調査

供試薬剤	処理方法 連制	薬害程度 調査日	
		6/19	6/23
13) ZI-2901 20SC	4000倍 散布	I	-
		II	-
		III	-
対) モスピラン顆粒水溶剤	4000倍 散布	I	-
		II	-
		III	-
無処理	-	I	-
		II	-
		III	-

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

本試験における実用性の判定は、処理 3、7 日後の寄生虫数(補正密度指数)で行った。

13) ZI-2901 20SC 4000 倍 散布 BAA-

本剤の 4000 倍希釈液散布は、対照のモスピラン顆粒水溶剤(4000 倍)とほぼ同等の効果を示し、無処理に比べて高い効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 コナガ *Plutella xylostella*

試験場名 長野県野菜花き試験場

担当者氏名 豊嶋悟郎

1. 試験目的・依頼事項 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 長野県塩尻市宗賀 長野県野菜花き試験場

対象病害虫発生状況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:黄信 播種日:2020年4月10日 定植日:2020年5月12日 栽植距離:畝幅45cm×株間50cm 土性:埴壤土

露地栽培 全面マルチ栽培

試験期間中の防除薬剤:試験以外の薬剤散布は無し。

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1区 8.1 m² (3m×2.7m) 40株(4条×10株) 3連制

北

3-I	2-II	1-III
2-I	1-II	3-III
1-I	3-II	2-III

1:SYJ-295DC 2:対)グレーシア乳剤 3:無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年6月5日

(処理時の作物のステージ) 外葉形成期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、200L/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。なお、展着剤としてY-ハッテン10,000倍を加用した。

(処理前後の降雨影響) 処理前後の降雨は認められなかった。

試験期間中の気象条件

6月	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日
平均気温(℃)	22.7	20.3	19.3	20.8	22.7	23.1	21.8	21.0	19.2	21.5	23.8	21.0	20.4
降水量(mm)							36.5		65.0	18.5	0.5		

(野菜花き試験場内観測データ)

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理直前(6月5日)、3日後(6月8日)、6日後(6月11日)及び12日後(6月17日)

(調査方法) 薬効は、各区10株について、若中、老齢別幼虫個体数及び蛹個体数をカウントした。

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ :重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

対象病害虫名・学名 コナガ *Plutella xylostella*

試験場名 長野県野菜花き試験場

3. 試 験 成 績

供試薬剤 有効成分	希釈 倍数	連制	10株あたりのコナガ生息数											
			処理直前 (6月5日)				処理3日後 (6月8日)				処理6日後 (6月11日)			
			幼虫			蛹	幼虫			蛹	幼虫			蛹
			若中齢	老 齢	合計		若中齢	老 齢	合計		若中齢	老 齢	合計	
12) SYJ-295DC 新規化合物100g/L Lot no. HW1002-041-002	4,000	I	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	8	0	8	0	0	0	0	0	0	1	1	0
		III	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	22	0	22	0	0	0	0	0	0	1	1	0
		(補正密度指数)					(0.0)				(1.6)			
対) グレーシア乳剤 フルキサメタミド10.0%	3,000	I	7	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	8	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	22	2	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(補正密度指数)					(0.0)				(0.0)			
無 処 理		I	5	1	6	0	7	3	10	0	14	11	25	1
		II	6	0	6	0	8	2	10	0	10	4	14	1
		III	8	0	8	0	8	4	12	0	12	6	18	1
		合計	19	1	20	0	23	9	32	0	36	21	57	3

供試薬剤 有効成分	希 釈 倍 数	連 制	10葉あたりのコナガ生息数				葉害 6/8, 6/11, 6/17
			処理12日後 (6月17日)				
			幼 虫			蛹	
			若中齢	老 齢	合 計		
12) SYJ-295DC 新規化合物100g/L Lot no. HW1002-041-002	4, 000	I	0	0	0	0	-
		II	1	0	1	0	-
		III	0	0	0	0	-
		合計	1	0	1	0	
		(補正密度指数)	(1.1)				
対) グレーシア乳剤 フルキサメタミド10.0%	3, 000	I	0	0	0	0	-
		II	0	0	0	0	-
		III	1	0	1	0	-
		合計	1	0	1	0	
		(補正密度指数)	(1.0)				
無 処 理		I	19	11	30	7	
		II	17	11	28	4	
		III	16	8	24	5	
		合計	52	30	82	16	

4. 考 察

実用性の判定は、処理 3、6、12 日後の幼虫補正密度指数より行った。

12) SYJ-295DC 4,000 倍散布 BAA-

本処理は、対照処理と比較してほぼ同等の効果を示し、無処理と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。

葉害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 ハイマダラノメイガ・*Helhula undalis*

試験場名 愛知県農業総合試験場

担当者氏名 上田直人

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 試験場内

対象病害虫発生状況 甚発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:無双 育苗:128 穴セルトレイ 播種日:2020 年8月3日 定植日:2020 年9月3日

栽植距離:畝幅 150cm×株間 30cm 2 条植え 土性:埴壤土 育苗期:ガラス温室 定植後:露地栽培

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

試験中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1 区 7.2 m² (1.5m×4.8m) 32 株 3 連制

1- I	3- II	2- III
3- III	2- I	1- II
2- II	1- III	3- I

1:SYJ-295DC

2:フェニックス顆粒水和剤

3:無処理 I, II, IIIは連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020 年 9 月 14 日

(処理時の作物のステージ) 展葉期(本葉 7~8 枚)

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、200L/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように加圧式噴霧機を用いて散布した。

展着剤はグラミンS10000 倍を加用した。

(処理前後の降雨影響) 処理前後に降雨はなかったため影響はなかった。

試験期間中の気象条件

日付	9/14	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21
平均気温 (°C)	22.8	22.5	24.0	24.6	25.5	22.7	20.5	21.8
降水量 (mm)	0.0	0.0	0.0	2.5	3.0	0.5	0.0	0.0

観測地点:愛知県農業総合試験場内

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 2020 年 9 月 14 日(散布前)、9 月 17 日(散布 3 日後)、9 月 21 日(散布 7 日後)。

(調査方法) 1 区あたり 20 株について、生息する幼虫数及び芯止まり株数を調査した。また、幼虫は若齢・中齢・老齢の別に調査した。

芯止まり株数は散布前(9 月 14 日)に芯止まりしていない 20 株を選定し、9 月 17 日(散布 3 日後)、9 月 21 日(散布 7 日後)に調査した。被害は、薬効調査時に葉の被害症状の有無を以下の基準により肉眼で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ :重度の薬害症状を認める。

対象病害虫名・学名 ハイマダラノメイガ・*Helhula undalis*

試験場名 愛知県農業総合試験場

3. 試験成績

供試薬剤	希釈倍率	連制	20株あたりの生息虫数											
			散布前 (9/14)				散布3日後 (9/17)				散布7日後 (9/21)			
			若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計
12) SYJ-295DC 新規化合物 100g/L Lot. HW1002-041-002	4000倍	I	38	16	3	57	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	15	24	6	45	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	27	16	9	52	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	80	56	18	154	0	0	0	0	0	0	0	0
対) フェニックス顆粒水和剤 「カハ'ンジ'アミド'」 20.0%	2000倍	I	24	11	3	38	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	42	18	4	64	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	22	22	9	53	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	88	51	16	155	0	0	0	0	0	0	0	0
無処理		I	19	23	8	50	70	42	5	117	22	59	26	107
		II	31	3	7	41	37	21	11	69	14	28	8	50
		III	25	23	10	58	35	33	8	76	20	37	13	70
		合計	75	49	25	149	142	96	24	262	56	124	47	227

供試薬剤	希釈倍率	連制	補正密度指数		芯止まり株率 (%)		薬害 9/17, 9/21
			散布 3日後	散布 7日後	散布 3日後	散布 7日後	
12) SYJ-295DC 新規化合物 100g/L Lot. HW1002-041-002	4000倍	I			0.0	0.0	-
		II			0.0	0.0	-
		III			0.0	0.0	-
		合計	0.0	0.0	平均 0.0	0.0	
対) フェニックス顆粒水和剤 「カハ'ンジ'アミド'」 20.0%	2000倍	I			0.0	0.0	-
		II			0.0	0.0	-
		III			0.0	0.0	-
		合計	0.0	0.0	平均 0.0	0.0	
無処理		I			55.0	80.0	-
		II			65.0	65.0	-
		III			70.0	70.0	-
		合計	100	100	平均 63.3	71.7	

4. 考察

判定は散布 3、7 日後の補正密度指数で行った。

12) SYJ-295DC 4000 倍 散布 BAA-

本剤は、対照のフェニックス顆粒水和剤 2000 倍散布と比較してほぼ同等の効果を示し、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 キスジノミハムシ *Phyllotreta striolata*

試験場名 長野県野菜花き試験場

担当者氏名 岩田直樹

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 長野県塩尻市大字宗賀字床尾 1066-1 長野県野菜花き試験場内圃場

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:「黄稔」 播種:2020年6月18日 定植:7月15日 露地栽培

植栽距離:畝幅 45 cm, 株間 50 cm, 全面マルチ栽培(白) 施肥、その他一般管理は慣行に準じて行った。

土性:埴壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 8.1 m² (2.7m×3.0m) 30 株(6 畝×5 株) 3連制

		3-Ⅲ	2-Ⅲ	1-Ⅲ	3-Ⅱ
北	2-Ⅱ	1-Ⅱ	3-Ⅰ	2-Ⅰ	1-Ⅰ

1:MIE-1209 フロアブル 2:対)プリンスフロアブル

3:無処理

なお、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは連制を示す

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年7月29日 (作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定濃度に希釈した薬液を背負い式充電型噴霧器を用い十分量(300L/10a相当)を散布した。展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨影響) 処理翌日以降降雨があったものの影響は無いと考えられる。

試験期間中の気象条件

月/日	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12
平均気温(℃)	23	23.7	24.3	23.5	23.9	24.5	25.2	25.9	25.9	24.8	26	26	27.9	28.1	27.2
降雨量(mm)	0	3.5	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(野菜花き試験場内 気象観測データ)

調査月日・方法

(調査月日) 処理直前(7月29日)、処理3日後(8月1日)、処理7日後(8月5日)、処理14日後(8月12日)

(調査方法) 各区中央付近の10株について、下記のとおり被害度別に分けて株数を調査し下記の式で被害度を算出した。

被害度 = (4×被害程度4 + 3×被害程度3 + 2×被害程度2 + 被害程度1) / (4×調査株数) × 100

被害は葉を対象に、調査時に肉眼により観察し、被害症状の有無を以下の内容で観察した。-:被害を認めない。+:軽微な被害症状を認める。++:中程度の被害症状を認める。+++ :重度の被害症状を認める。

3. 試験成績

供試薬剤	希釈倍数 処理方法	連制	10株あたりの被害程度別株数および被害度																		被害 8/1, 8/5, 8/12									
			処理直前 (7/29)					処理3日後 (8/1)					処理7日後 (8/5)					処理14日後 (8/12)												
			被害程度				被害度 理比	被害程度				被害度 理比	被害程度				被害度 理比	被害程度				被害度 理比								
			0	1	2	3		4	0	1	2		3	4	0	1		2	3	4			0	1	2	3	4			
5) MIE-1209フロアブル プロフラニド5.0% Lot No. 201-4279	4,000倍	I	7	3	0	0	0	7.5	5	5	0	0	0	12.5	8	2	0	0	0	5.0	8	2	0	0	0	5.0	-			
		II	5	5	0	0	0	12.5	6	4	0	0	0	10.0	7	3	0	0	0	7.5	7	3	0	0	0	7.5	-			
		III	7	3	0	0	0	7.5	8	2	0	0	0	5.0	8	2	0	0	0	5.0	6	4	0	0	0	10.0	-			
		計	19	11	0	0	0	27.5	73.3	19	11	0	0	0	27.5	29.7	23	7	0	0	0	17.5	14.0	21	9	0	0	22.5	15.3	
		対) プリンスフロアブル フィプロニル5.0%	2,000倍	I	3	7	0	0	0	17.5	3	7	0	0	0	17.5	1	9	0	0	0	22.5	1	8	1	0	0	25.0	-	
II	8			2	0	0	0	5.0	6	4	0	0	0	10.0	3	7	0	0	0	17.5	0	5	5	0	0	37.5	-			
III	5			5	0	0	0	12.5	5	5	0	0	0	12.5	3	7	0	0	0	17.5	1	8	1	0	0	25.0	-			
計	16			14	0	0	0	35.0	93.3	14	16	0	0	0	40.0	43.2	7	23	0	0	0	57.5	46.0	2	21	7	0	0	87.5	59.3
無処理				I	4	6	0	0	0	15.0	0	7	3	0	0	32.5	0	2	8	0	0	45.0	0	0	10	0	0	50.0	-	
		II	5	5	0	0	0	12.5	0	9	1	0	0	27.5	0	3	7	0	0	42.5	0	1	9	0	0	47.5	-			
		III	6	4	0	0	0	10.0	0	9	2	0	0	32.5	0	3	6	0	0	37.5	0	0	10	0	0	50.0	-			
		計	15	15	0	0	0	37.5	0	25	6	0	0	92.5	0	8	21	0	0	125.0	0	1	29	0	0	147.5	-			

※被害程度 0:被害無し、1:少々の被害、2:1/4以内の被害、3:1/2以内の被害、4:1/2以上の被害

4. 考察

防除効果の判定は、処理3、7、14日後における被害度の対無処理比をもとに行った。

5) MIE-1209 フロアブル (4,000 倍 散布) ABB-

本剤ははくさいのキスジノミハムシに対して、対照薬剤のプリンスフロアブル 2,000 倍液と比較してまさる効果が認められた。また、無処理と比較して効果があると認められた。実用性はあると考えられる。葉に被害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 カブラハバチ類 (カブラハバチ *Athalia rosae*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 山梨試験場

担当者氏名 丸山直哉、秋山空隆、中西秀明

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 山梨県南都留郡鳴沢村 日植防山梨借り上げ圃場

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土性条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種: ちよぶき 70 定植: 2020 年 5 月 28 日 露地マルチ栽培

栽植距離: 畝間 150cm 株間 30cm 条間 45cm 2 条植え 施肥その他一般管理: 現地慣行に準じた。土性: 埴壤土

試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1 区 9.0 m² (6.0m×1.5m) 40 株 3 連制

2-I	1-I	3-I			
1-II	3-II	2-II	3-III	2-III	1-III

1: ヨーバルフロアブル 2: プレバソソフロアブル 5 3: 無処理

I、II、III は連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020 年 6 月 16 日 (処理量) 約 280L/10a (作物のステージ) 結球初期

(処理方法) 背負い式バッテリー噴霧機を用いて、作物全体が十分に濡れるよう散布した。展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨) 処理前後に降雨はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23
平均気温 (°C)	20.4	18.4	16.3	14.3	18.8	18.3	15.0	18.9
降水量 (mm)	0.0	0.0	8.0	42.5	0.0	0.0	22.0	0.0

山梨県河口湖アメダスデータより

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験: 6 月 16 日 (処理前)、6 月 19 日 (処理 3 日後) および 6 月 23 日 (同 7 日後)

薬害試験: 6 月 19 日 (処理 3 日後) および 6 月 23 日 (同 7 日後)

(調査方法) 各区の区境を除いた中央付近 20 株に寄生する虫を发育ステージごとに調査した。

薬害は、茎葉を対象に、各調査時に肉眼により観察し、薬害症状を下記の基準に従って程度別に調査した。

- : 薬害を認めない。+ : 軽微な薬害症状を認める。++ : 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 カブラハバチ類 (カブラハバチ *Athalia rosae*) 試験場名 (一社) 日本植物防疫協会山梨試験場

3. 試験成績

薬効調査

供試薬剤	処理方法	連制	寄生虫数(20株あたりの合計値)											
			処理前 (6/16)				処理3日後 (6/19)				同7日後 (6/23)			
			若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計	若齢	中齢	老齢	計
92) ヨーバルフロアブル テトラニプロール 18.2% Lot.06201	5000倍 散布	I	16	3	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	14	0	0	14	0	1	0	1	0	0	0	0
		III	12	1	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	42	4	0	46	0	1	0	1	0	0	0	0
		(補正密度指数)					(1.7)				(0)			
対) プレバゾンフロアブル5 クロラントラニプロール 5.0%	2000倍 散布	I	15	1	0	16	1	0	0	1	0	0	0	0
		II	20	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	13	1	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	48	2	0	50	1	0	0	1	0	0	0	0
		(補正密度指数)					(1.6)				(0)			
無処理	-	I	22	0	0	22	19	4	0	23	19	27	0	46
		II	12	0	0	12	11	3	0	14	23	21	1	45
		III	14	0	0	14	19	5	0	24	27	27	1	55
		計	48	0	0	48	49	12	0	61	69	75	2	146
		(補正密度指数)					(100)				(100)			

薬害調査

供試薬剤	処理方法	連制	薬害程度	
			調査日	
			6/19	6/23
92) ヨーバルフロアブル	5000倍 散布	I	-	-
		II	-	-
		III	-	-
対) プレバゾンフロアブル5	2000倍 散布	I	-	-
		II	-	-
		III	-	-
無処理	-	I	-	-
		II	-	-
		III	-	-

4. 考察 (判定した時期、判定記号を記載)

本試験における実用性の判定は、処理 3、7 日後の寄生虫数(補正密度指数)で行った。

92) ヨーバルフロアブル 5000 倍 散布 BAA-

本剤の 5000 倍希釈液散布は、対照のプレバゾンフロアブル 5(2000 倍)とほぼ同等の効果を示し、無処理に比べて高い効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 ナメクジ類(チャコウラナメクジ *Ambigolimax valentianus* 主体)

試験場名 愛知県農業総合試験場

担当者氏名 加藤 賢治

1. 試験目的 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 1-1 愛知県農業総合試験場

対象病害虫発生状況 多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:無双 播種日:2020年5月29日 定植日:6月24日 栽植距離:畝幅40cm×株間33cm 1条植え(播き)

土性:砂壤土(1.2×1.0mのライシメータを使用)

露地栽培 施肥その他一般管理は慣行に準じた。

試験期間中の防除薬剤:6月18日 プレバゾンフロアブル5、6月22日モスピラン顆粒水和剤

区制・面積・試験区の構成 1区 1.2 m² (1.2m×1.0m) 9株 3連制

1-I	2-I	3-I	1-II	2-II	3-II	1-III	2-III	3-III
-----	-----	-----	------	------	------	-------	-------	-------

1:クプロシールド区 2:リーフガード顆粒水和剤区 3:無処理区 I II IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年6月29日

(処理時の作物のステージ)展葉期(本葉9~10枚)

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、200L/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式噴霧機を用いて散布した。

(処理前後の降雨影響) 処理前後に降雨はなかったため影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	6月27日	6月28日	6月29日	6月30日	7月1日	7月2日	7月3日	7月4日	7月5日	7月6日
平均気温(°C)	25.6	23.1	24.1	22.6	23.9	23.4	21	23.5	24	23.2
降水量(mm)	0	18.5	0	51	1.5	0	18.5	22	1	41

観測地点:愛知県農総合試験場

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理1日後(6月30日)、3日後(7月2日)、5日後(7月4日)、7日後(7月6日)

(調査方法) 薬効は、9株全てについてナメクジによる食害程度(多:20%以上、中:5~20%未満、少:5%未満、無:0%)を調査した。

ナメクジの生死は、最終調査日に行った。薬害は調査日ごとに観察した。

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ :重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

薬剤を散布・乾燥後に愛知県農業総合試験場内で採集したナメクジを1区あたり20頭放飼した。ナメクジの生育場所としてライシメータ枠内両側と株間に防草シート(約20cm幅)を敷き、逃亡防止のため1mm目の防虫ネットを用いてライシメータ上面を覆い封鎖した。さらに、全体を遮光ネットで被覆した。試験期間中は適宜、遮光ネット上からかん水を行った。

対象病害虫名・学名 ナメクジ類(チャコウラナメクジ *Ambigolimax valentianus* 主体)

試験場名 愛知県農業総合試験場

3. 試験成績

表1 食害程度別株数、被害度、防除価、死生別個体数及び薬害程度

供試薬剤 有効成分・量	処理量 (処理方法)	連制	食害程度別株数					食害程度別株数					食害程度別株数				
			処理1日後(6/30)					処理3日後(7/2)					処理5日後(7/4)				
			多	中	少	無	被害度 防除価	多	中	少	無	被害度 防除価	多	中	少	無	被害度 防除価
109) クプロシールド 塩基性硫酸銅 26.9% (銅として14.8%) Lot. B-18098	1,000倍 200L/10a 散布	I	0	0	2	7	2.5	0	0	4	5	4.9	0	0	6	3	7.4
		II	0	0	2	7	2.5	0	0	4	5	4.9	0	1	3	5	7.4
		III	0	0	2	7	2.5	0	0	4	5	4.9	0	2	4	3	12.3
		平均					2.5 57.1					4.9 58.6					9.1 52.2
対) リーフガード顆粒水和剤 チオシクロム 75%	1,500倍 200L/10a 散布	I	0	0	0	9	0.0	0	0	2	7	2.5	0	0	3	6	3.7
		II	0	0	0	9	0.0	0	0	3	6	3.7	0	0	6	3	7.4
		III	0	0	0	9	0.0	0	0	6	3	7.4	0	2	4	3	12.3
		平均					0.0 100.0					4.5 62.1					7.8 58.7
無処理区	—	I	0	0	3	6	3.7	0	2	4	3	12.3	0	3	5	1	17.3
		II	0	0	4	5	4.9	0	0	5	4	6.2	0	0	7	2	8.6
		III	0	1	4	4	8.6	0	3	5	2	17.3	1	4	4	0	30.9
		平均					5.8 —					11.9 —					18.9 —

被害度 = $[(多 \times 9 + 中 \times 3 + 少 \times 1) \div \{調査株数(9) \times 9\}] \times 100$
防除価は被害度の平均値から算出した。

供試薬剤 有効成分・量	処理量 (処理方法)	連制	食害程度別株数					死生別個体数		
			処理7日後(7/6)					処理7日後(7/6)		
			多	中	少	無	被害度 防除価	死亡	生存	不明
109) クプロシールド 塩基性硫酸銅 26.9% (銅として14.8%) Lot. B-18098	1,000倍 200L/10a 散布	I	0	2	4	3	12.3	0	1	19
		II	1	0	5	3	17.3	1	3	16
		III	2	2	2	1	32.1	0	1	19
		平均					20.6 32.4			
対) リーフガード顆粒水和剤 チオシクロム 75%	1,500倍 200L/10a 散布	I	0	0	5	3	6.2	0	3	17
		II	0	0	7	2	8.6	0	2	18
		III	2	0	7	0	30.9	1	1	18
		平均					15.2 50.0			
無処理区	—	I	1	4	3	3	29.6	1	4	15
		II	0	1	6	4	11.1	0	1	19
		III	3	4	2	2	50.6	0	1	19
		平均					30.5 —			

被害度 = $[(多 \times 9 + 中 \times 3 + 少 \times 1) \div \{調査株数(9) \times 9\}] \times 100$
防除価は被害度の平均値から算出した。

表2 薬害程度

供試薬剤 有効成分・量	処理量 (処理方法)	連制	調査日			
			6/30	7/2	7/4	7/6
109) クプロシールド 塩基性硫酸銅 26.9% (銅として14.8%) Lot. B-18098	1,000倍 200L/10a 散布	I	-	+	+	+
		II	-	+	+	+
		III	-	+	+	+
		平均				
対) リーフガード顆粒水和剤 チオシクロム 75%	1,500倍 200L/10a 散布	I	-	-	-	-
		II	-	-	-	-
		III	-	-	-	-
		平均				
無処理区	—	I	-	-	-	-
		II	-	-	-	-
		III	-	-	-	-
		平均				

4. 考察

実用性の判定は、処理 3、5 日後の防除価より行った。

109) クプロシールド 1000 倍散布 CCC±

本処理は、対照薬剤と比較して効果がやや劣った。無処理と比較して効果は認められるがその程度はやや低いと思われた。しながら、殺菌剤としての登録もあり、効果はやや低いものの実用性はあると考えられる。

薬害は葉裏の褐変症状が見られたため、結球期以降は使用しない。

対 象 病 害 虫 名・学 名 アブラムシ類(モモアカアブラムシ *Myzus persicae*)

試験場名 三重県農業研究所

担当者氏名 佐々木 彩乃、田中 千晴

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 三重県松阪市嬉野川北町 530 (農業研究所内露地圃場)

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 少発生

耕種概要

品種:松波 播種:2020年4月30日(2粒まき) 間引き:5月13日 露地栽培

栽植距離:畝幅 120 cm × 株間 6.5 cm 5 条植え

施肥:くみあい尿素苦土ほう素入り複合燐加安 682 号 N 3 kg/10a 苦土石灰 100 kg/10a その他一般管理は慣行に準じた。

土性:埴壤土 土壌 pH: 6.7 試験期間中の防除薬剤:4月30日ネビジン粉剤 5月21日ゼンターリ顆粒水和剤(展着剤 クミテン)

区制・面積・試験区の構成 1区 1.2 m² (1.2 × 1.0 m) 75 株 3 連制

2-III	3-III	1-III
3-II	1-II	2-II
1-I	2-I	3-I

1: ミネクトデュオ粒剤

2: アクタラ粒剤5 (対照薬剤)

3: 無処理

I、II、IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年4月30日

(作物のステージ) 播種前

(処理方法) 畝上に所定量を散布した後、レーキで全面を混和した。

(処理前後の降雨影響) 降雨の影響はなかった。

調査月日・方法

(調査月日) 処理14日後(5月14日)、処理21日後(5月21日)、処理28日後(5月28日)

(調査方法) 50株(10株×5条)について、全葉(6~7葉)の生息虫数を種別および有翅・無翅別に調査した。

葉害は、茎葉を対象に、調査時に肉眼により観察し、葉害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:葉害を認めない。+:軽微な葉害症状を認める。++:中程度の葉害症状を認める。+++:重度の葉害症状を認める。

試験期間中の気象条件

月日	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14
平均気温(°C)	17.2	18.9	20.7	19.1	18.9	22.8	17.8	17.3	17.2	17.5	18.4	22.8	20.4	21.0	20.9
降水量(mm)	0	0	0	0	15.0	0	3	0	0	0	8	0	0	0	0

月日	5/14	5/15	5/16	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28
平均気温(°C)	20.9	19.1	16.7	21.5	20.0	20.9	20.7	19.0	19.8	21.2	21.6	22.5	22.0	22.0	21.5
降水量(mm)	0	0	40.5	0	23.0	45.0	0	0	0	0	0	0	3.5	0.5	0

観測地点: 三重県津アメダスデータ

その他

対象病害虫名・学名 アブラムシ類(モモアカアブラムシ *Myzus persicae*)

試験場名 三重県農業研究所

3. 試験成績

<薬効調査>

供試薬剤	処理方法	連制	50 株当たりの寄生虫数								
			処理 7 日後(5/14)			処理 14 日後(5/21)			処理 21 日後(5/28)		
			有翅	無翅	計	有翅	無翅	計	有翅	無翅	計
86)ミネクトデュオ粒剤 シアントラニリプロール 0.50% チアメキサム 0.30% Lot No.9G18	12 g/m ² 播種前 全面 土壌混和	I	15	4	19	0	0	0	1	0	1
		II	8	3	11	0	0	0	0	0	0
		III	6	1	7	1	0	1	1	0	1
		計	29	8	37 (10.2)	1	0	1 (0.5)	2	0	2 (6.9)
対)アクタラ粒剤5 チアメキサム 0.50%	6 g/m ² 播種前 全面 土壌混和	I	24	0	24	7	4	11	0	0	0
		II	17	10	27	2	0	2	0	0	0
		III	10	4	14	0	0	0	0	0	0
		計	51	14	65 (17.9)	9	4	13 (7.1)	0	0	0 (0)
無処理	—	I	38	95	133	13	57	70	0	9	9
		II	26	103	129	5	51	56	4	7	11
		III	22	79	101	3	54	57	3	6	9
		計	86	277	363 (100)	21	162	183 (100)	7	22	29 (100)

括弧内は密度指数を示す。

<薬害調査>

供試薬剤	処理方法	連制	調査日		
			5/14	5/21	5/28
86)ミネクトデュオ粒剤	12 g/m ² 播種前	I	—	—	—
	全面土壌混和	II	—	—	—
		III	—	—	—
対)アクタラ粒剤5	6 g/m ² 播種前	I	—	—	—
	全面土壌混和	II	—	—	—
		III	—	—	—
無処理	—	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—

4. 考察

本試験ではダイコンアブラムシの無翅虫も見られたが、発生が少なかったためモモアカアブラムシのみで判定を行った。

処理 21 日後(5/28)の調査で、無処理区におけるアブラムシ類の発生量が十分でなかったため試験を終了した。発生量が減少した要因として、天敵の影響が考えられた。

実用性の判定は、処理 7、14 日後の有翅・無翅虫合計の密度指数で行った。

86) ミネクトデュオ粒剤 12 g/m² 播種前全面土壌混和 ABB—

本薬剤の 12 g/m² 播種前全面土壌混和は、対照薬剤のアクタラ粒剤5 6 g/m² 播種前全面土壌混和にまさる効果を示し、無処理と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 アブラムシ類(モモアカアブラムシ *Myzus persicae*)

試験場名 三重県農業研究所

担当者氏名 佐々木 彩乃、田中 千晴

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 三重県松阪市嬉野川北町 530 (農業研究所内露地圃場)

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 中発生

耕種概要

品種:松波 播種:2020 年 4 月 9 日 定植:5 月 7 日 露地栽培

栽植距離:畝幅 130 cm × 株間 30 cm 2 条植え

施肥:くみあい尿素苦土ほう素入り複合磷加安 682 号 N 18 kg/10 a 苦土石灰 100 kg/10 a その他一般管理は慣行に準じた。

土性:埴壤土 土壌 pH: 6.5 試験期間中の防除薬剤: 5 月 7 日ネビジン粉剤 5 月 21 日ゼンターリ顆粒水和剤(展着剤 クミテン)

区制・面積・試験区の構成 1区 3.9 m² (3.0 × 1.3 m) 20 株 3 連制

2-III	3-III	1-III	1: モスピラン粒剤
3-II	1-II	2-II	2: アクタラ粒剤5 (対照薬剤)
1-I	2-I	3-I	3: 無処理
I、II、IIIは連制を示す。			

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020 年 5 月 7 日 (定植直前)

(作物のステージ) 本葉 2 枚程度

(処理方法) 定植直前の 128 穴セルトレイに所定量を株元散布した。

(処理前後の降雨影響) 降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16	5/17
平均気温(°C)	17.3	17.2	17.5	18.4	22.8	20.4	21.0	20.9	19.1	16.7	21.5
降水量(mm)	0	0	0	8.0	0	0	0	0	0	40.5	0

月日	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28
平均気温(°C)	20.0	20.9	20.7	19.0	19.8	21.2	21.6	22.5	22.0	22.0	21.5
降水量(mm)	23.0	45.0	0	0	0	0	0	0	3.5	0.5	0

観測地点: 三重県津アメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 処理 7 日後(5 月 14 日)、処理 14 日後(5 月 21 日後)、処理 21 日後(5 月 28 日)

(調査方法) 各区区境を除く 16 株(8 株×2 条)について、全葉の生息虫数を有翅・無翅別に調査した。

薬害は、茎葉を対象に、調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

一:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

対象病害虫名 アブラムシ類(モモアカアブラムシ *Myzus persicae*)

試験場名 三重県農業研究所

3. 試験成績

<薬効調査>

供試薬剤	処理方法	連制	16株当たりの寄生虫数								
			処理 7 日後 (5/14)			処理 14 日後 (5/21)			処理 21 日後 (5/28)		
			有翅	無翅	計	有翅	無翅	計	有翅	無翅	計
90) モスピラン粒剤 アセタミプリド 2.0% Lot No.HHK-014SN	0.5 g/株 定植当日 株元散布	I	7	0	7	4	1	5	5	1	6
		II	5	0	5	3	2	5	5	0	5
		III	8	0	8	2	0	2	10	0	10
		計	20	0	20 (8.9)	9	3	12 (5.3)	20	1	21 (26.3)
対) アクトラ粒剤 5 チアメトキサム 0.50%	30 g/トレイ 育苗期後半 株元散布	I	0	0	0	3	0	3	4	0	4
		II	7	0	7	4	0	4	4	0	4
		III	4	0	4	3	0	3	4	0	4
		計	11	0	11 (4.9)	10	0	10 (4.4)	12	0	12 (15)
無処理	—	I	23	25	48	18	38	56	12	21	33
		II	35	41	76	6	66	72	8	21	29
		III	38	63	101	16	82	98	10	8	18
		計	96	129	225 (100)	40	186	226 (100)	30	50	80 (100)

括弧内は密度指数を示す。

<薬害調査>

供試薬剤	処理方法	連制	調査日		
			5/14	5/21	5/28
90) モスピラン粒剤	0.5 g/株 定植当日 株元散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
対) アクトラ粒剤 5	30 g/トレイ 育苗期後半 株元散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
無処理	—	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—

4. 考察

本試験ではダイコンアブラムシの無翅虫も見られたが、発生が少なかったためモモアカアブラムシのみで判定を行った。処理 21 日後 (5/28) の調査で、無処理区におけるアブラムシ類の発生量が十分でなかったため試験を終了した。発生量が減少した要因として、天敵の影響が考えられた。

実用性の判定は、処理 7,14 日後の有翅・無翅虫合計の密度指数で行った。

90) モスピラン粒剤 0.5 g/株 定植当日株元散布 BBB—

本薬剤 0.5 g/株元散布は、対照薬剤アクトラ粒剤 5 30 g/トレイ育苗期後半株元散布と同等の防除効果が認められた。無処理に比べて防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ネギアザミウマ *Thrips tabaci*

試験場名 愛知県農業総合試験場

担当者氏名 石川博司

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 試験場内

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別を記載)

品種:潮岬 播種:2020年4月9日 定植:5月12日

栽植距離:畝幅 160 cm×株間 35 cm、2条植え

土性:砂壤土、露地栽培、施肥・一般管理は慣行に準じた。試験期間中の防除薬剤はなし。

区制・面積 1区 7.8 m² (1.6m×4.9m) 28株 3連制

2-I	3-II	1-III
1-I	2-II	3-III
3-I	1-II	2-III

1:プレオフロアブル 1000倍 2:ディアナSC 2500倍 3:無処理

I, II, IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年5月29日 (作物のステージ) 展開期(本葉 11~12枚)

(処理方法) 各剤所定濃度の薬液を、肩掛け噴霧器を用いて十分量(約 200L/10a) 散布した。展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨) 処理前後に降雨はなかったため影響はなかった。

月日	5/29	5/30	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5
平均気温(°C)	22.6	24.1	19.4	22.5	25.3	25.9	22.7	27.1
降水量(mm)	0	51	0	0	0	0	0	0

観測地:愛知県農業総合試験場

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 2020年5月29日(散布前)、6月1日(散布3日後)、6月5日(散布7日後)

(調査方法) 薬効は、各区中央付近の14株についての生息虫数を成虫虫別に調査した。

被害は、薬効調査時に茎葉の被害症状を以下の基準により肉眼観察した。

-:被害を認めない。+軽微な被害症状を認める。++:中程度の被害症状を認める。

+++ : 重度の被害症状を認める。

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍率	連制	14株当たりの生息虫数									補正密度指数		被害	
			散布前(5/29)			散布3日後(6/1)			散布7日後(6/5)			散布		散布	
			成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	3日後	7日後	3日後	7日後
79)プレオフロアブル ピリダリル 10.0% Lot. NAC731	1000	I	41	7	48	7	0	7	45	0	45			-	-
		II	39	5	44	4	2	6	40	2	42			-	-
		III	40	6	46	0	0	0	41	1	42			-	-
		合計	120	18	138	11	2	13	126	3	129	3.8	16.1		
対)ディアナSC スピネトラム 11.7%	2500	I	58	6	64	5	1	6	52	2	54			-	-
		II	63	8	71	1	0	1	51	9	60			-	-
		III	29	6	35	1	1	2	12	1	13			-	-
		合計	150	20	170	7	2	9	115	12	127	2.1	12.9		
無 処 理		I	40	8	48	38	76	114	56	240	296				
		II	35	9	44	44	108	152	152	158	310				
		III	31	12	43	32	38	70	59	119	178				
		合計	106	29	135	114	222	336	267	517	784	100	100		

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

判定は散布3, 7日後の補正密度指数で行った。

79)プレオフロアブル 1000倍 BBB-

本剤 1000倍散布は、対照のディアナSC2500倍散布と比較して防除効果は同等で、無処理区と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。被害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 ・ 学 名 コナガ *Plutella xylostella*

試験場名 愛知県農業総合試験場東三河農業研究所

担当者氏名 金子 良成

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県豊橋市飯村町

対象病害虫発生状況 多発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:さちぞら 播種:2020年3月30日 露地栽培 育苗:128穴セルトレイ 定植:5月2日 栽植距離:畝幅60cm×株間30cm 1条植え 露地栽培 施肥:豊橋みどり(14-6-14)80kg/10a 土性:軽埴土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 7.9m² (1.2×6.6m) 44株 3連制

1-I	3-I	1-II
1-III	3-II	2-I
3-III	2-II	2-III

1:SYJ-295DC 2:ディアナ SC 3:無処理区

I II IIIは連性を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日)2020年5月22日 (作物のステージ) 本葉10~11葉期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調整し、150L/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように背負い式バッテリー噴霧機を用いて散布した。展着剤としてまくびか5000倍を添加した。

(処理前後の降雨影響) 処理前後に降雨はなく、影響はないと思われる。

試験期間中の気象条件

月 日	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30	5/31
平均気温(℃)	19.2	20.5	21.4	21.4	21.8	22.0	20.7	20.9	21.5	19.6
降水量(mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5

月 日	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5
平均気温(℃)	20.7	23.2	22.6	23.1	23.6
降水量(mm)	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0

観測地点:愛知県豊橋市のアメダスデータ

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:散布前(5月22日)、散布3日後(5月25日)、散布7日後(5月29日)、散布14日後(6月5日)

薬害試験:散布3日後(5月25日)、散布7日後(5月29日)、散布14日後(6月5日)

(調査方法) 各区区境を除く30株について株全体に生息虫数(発育ステージ別)を調査した。

薬害は、茎葉を対象に、調査時に肉眼により観察し、薬害の症状の有無を以下の内容で確認した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ :重度の薬害症状を認める。

その他(特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対 象 病 害 虫 ・ 学 名 コナガ *Plutella xylostella*

試験場名 愛知県農業総合試験場東三河農業研究所

3. 試 験 成 績

薬効試験

供試薬剤 有効成分名・量 Lot No.	希釈倍数	連制	30株あたり幼虫数														
			散布前					3日後					7日後				
			5/22					5/25					5/29				
			若齢	中齢	老齢	蛹	計	若齢	中齢	老齢	蛹	計	若齢	中齢	老齢	蛹	計
12) SYJ-295DC 新規化合物 100g/L HW1002-041-002	4000倍	I	35	12	19	1	67	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		II	52	23	6	0	81	0	0	0	0	0	2	1	0	1	4
		III	31	7	13	0	51	0	0	1	1	2	3	0	0	0	3
		計	118	42	38	1	199	0	0	1	1	2	5	1	0	2	8
		(補正密度指数)										0.4					1.3
対) ディアナSC スピネトラム 11.7%	2500倍	I	51	16	19	2	88	8	7	3	2	20	43	15	10	5	73
		II	31	18	11	1	61	3	3	1	0	7	26	13	5	0	44
		III	13	7	20	1	41	4	5	1	3	13	3	2	0	1	6
		計	95	41	50	4	190	15	15	5	5	40	72	30	15	6	123
		(補正密度指数)										9.2					20.4
無処理		I	45	21	28	1	95	83	69	47	8	207	82	79	140	20	321
		II	23	9	23	4	59	26	41	26	8	101	22	27	37	18	104
		III	29	9	1	0	39	59	60	13	2	134	81	45	45	15	186
		計	97	39	52	5	193	168	170	86	18	442	185	151	222	53	611
		(補正密度指数)										100					100

薬害試験

供試薬剤	希釈倍数	連制	薬 害		
			3日後	7日後	14日後
			5/25	5/29	6/5
12) SYJ-295DC	4000倍	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
対) ディアナSC	2500倍	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
無処理		I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—

4. 考 察

実用性の判定は、散布3、7、14日後の補正密度指数より行った。

12) SYJ-295DC 4000 倍 散布 AAA-

本薬剤の4000倍希釈液散布は、対照のディアナSC 2500倍希釈散布と比べ、高い防除効果が認められた。無処理と比較して、高い効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 コナガ *Plutella xylostella*

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 山梨試験場

担当者氏名 秋山空隆、丸山直哉、中西秀明

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 山梨県南都留郡鳴沢村 日植防山梨借り上げ圃場

対象病虫害発生状況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土性条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種: 藍天 定植:2020 年 6 月 18 日 露地栽培

栽植距離: 畝間 60cm 株間 30cm 1 条植え 施肥その他一般管理: 現地慣行に準じた。土性: 埴壤土

試験期間中の防除: なし

区制・面積・試験区の構成 1 区 16.2 m² (3.0m×5.4m) 90 株 (5 畝) 3 連制

1 I		3 II	2 II	1 III	2 III
2 I	3 I		1 II		3 III

1: SYJ-295DC 2: スピノエース顆粒水和剤 3: 無処理 I、II、III は連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020 年 7 月 28 日 (処理量) 約 247L/10a (作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍率で調製し、背負い式バッテリー噴霧機を用いて作物全体が十分に濡れるよう散布した。

展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨) 7 月 28 日 (散布当日) の 2.0mm の降雨は散布 8 時間以上後の降雨であり、散布後約 3 時間で薬剤が乾いていることを確認したため試験には影響ないと考えられる。

試験期間中の気象条件

月日	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11
平均気温(℃)	22.0	22.6	20.6	19.6	22.4	21.8	21.8	22.2	23.6	24.2	24.3	24.9	24.6	25.3	25.5	26.5
降水量(mm)	1.5	2.0	2.5	5.5	6.5	1.5	2.0	1.5	0	0	0	0	0	0	0	0

山梨県河口湖アメダスデータより

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 7 月 27 日 (処理前日)、7 月 30 日 (処理 2 日後)、8 月 3 日 (同 6 日後)、8 月 6 日 (同 9 日後) 及び
8 月 11 日 (同 14 日後)

(調査方法) 各区の区境を除いた中央付近 30 株に生息する虫数を发育ステージごとに調査した。

被害は茎葉を対象に、各調査時に肉眼により観察し、被害症状を下記の基準に従って程度別に調査した。

- : 被害を認めない。+ : 軽微な被害症状を認める。++ : 中程度の被害症状を認める。+++ : 重度の被害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対 象 病 害 虫 名・学名 コナガ *Plutella xylostella*

試験場名 (一社) 日本植物防疫協会山梨試験場

3. 試験成績

薬効調査

供試薬剤	処理方法	連制	生息虫数(30株当たり)														
			処理前日					処理2日後				同6日後					
			7/27					7/30				8/3					
			若齢	中齢	老齢	蛹	合計	若齢	中齢	老齢	蛹	合計	若齢	中齢	老齢	蛹	合計
12) SYJ-295DC 新規化合物 100g/L Lot.HWI002-041-002	4000倍 散布	I	4	7	7	4	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	4	4	5	4	17	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0
		III	3	1	3	4	11	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
		合計	11	12	15	12	50	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0
		(補正密度指数)	(5.3)												(0)		
対) スピノエース顆粒水和剤 スピノサト 25.0%	2500倍 散布	I	7	4	0	7	18	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1
		II	5	1	4	6	16	2	2	0	0	4	2	1	0	0	3
		III	5	3	1	8	17	1	2	3	3	9	0	0	0	1	1
		合計	17	8	5	21	51	3	5	3	3	14	3	1	0	1	5
		(補正密度指数)	(24.4)												(11.8)		
無処理	-	I	7	3	2	7	19	9	5	4	4	22	7	1	0	3	11
		II	4	2	1	11	18	2	2	3	2	9	7	5	5	3	20
		III	15	5	4	10	34	13	13	16	7	49	8	7	1	12	28
		合計	26	10	7	28	71	24	20	23	13	80	22	13	6	18	59
		(補正密度指数)	(100)												(100)		
合計: 幼虫数と蛹数の合計より算出																	

供試薬剤	処理方法	連制	生息虫数(30株当たり)									
			同9日後					同14日後				
			8/6					8/11				
			若齢	中齢	老齢	蛹	合計	若齢	中齢	老齢	蛹	合計
12) SYJ-295DC	4000倍 散布	I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(補正密度指数)	(0)					(0)					
対) スピノエース顆粒水和剤	2500倍 散布	I	3	1	0	1	5	8	4	4	1	17
		II	7	2	1	1	11	10	1	2	1	14
		III	3	0	0	0	3	14	5	2	0	21
		合計	13	3	1	2	19	32	10	8	2	52
	(補正密度指数)	(52.9)					(157.4)					
無処理	-	I	11	1	0	3	15	7	5	2	0	14
		II	4	3	1	2	10	3	4	2	1	10
		III	13	7	2	3	25	17	2	2	1	22
		合計	28	11	3	8	50	27	11	6	2	46
	(補正密度指数)	(100)					(100)					
合計: 幼虫数と蛹数の合計より算出												

薬害調査

供試薬剤	処理方法	連制	薬害程度			
			処理2日後	同6日後	同9日後	同14日後
			7/30	8/3	8/6	8/11
12) SYJ-295DC	4000倍 散布	I	—	—	—	—
		II	—	—	—	—
		III	—	—	—	—
対) スピノエース顆粒水和剤	2500倍 散布	I	—	—	—	—
		II	—	—	—	—
		III	—	—	—	—
無処理	-	I	—	—	—	—
		II	—	—	—	—
		III	—	—	—	—

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

本試験における実用性の判定は、処理 2、6、9、14 日後の生息虫数(補正密度指数)で行った。

12)SYJ-295DC 4000 倍 散布 AAA-

本薬剤の 4000 倍希釈液散布は、対照のスピノエース顆粒水和剤(2500 倍)にまさる効果を示し、無処理に比べて高い効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 ハイマダラノメイガ・*Hellula undalis*

試験場名 愛知県農業総合試験場

担当者氏名 上田直人

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 試験場内

対象病害虫発生状況 多発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニールハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:潮岬 播種日:2020年8月3日 定植日:2020年9月8日

種子量:約2,000粒/区 条間10cm 播種間隔5cm 1区面積:1.0 m² (1m×1m)本圃栽植距離:畝幅150cm×株間28cm 2条植え 土性:埴壤土 育苗期:ビニールハウス内トンネル 定植後:露地栽培
施肥その他一般管理は慣行に準じた。

試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 6.7 m² (1.5m×4.5m) 32株 3連制

3-Ⅱ	1-Ⅲ	2-Ⅰ
2-Ⅲ	3-Ⅰ	1-Ⅱ
1-Ⅰ	2-Ⅱ	3-Ⅲ

1:プリロッソ粒剤 2:プリンス粒剤 3:無処理 I, II, III, は連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年8月24日

(処理時の作物のステージ) 地床育苗期(本葉4~5枚)

(処理方法) 供試薬剤を所定量計量し、散粒した。

(処理前後の降雨影響) ハウス内トンネル育苗のため降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件

日付	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3
平均気温 (°C)	27.5	28.2	28.4	29.3	28.4	29.3	29.5	29.3	26.8	27.9	26.6
降水量 (mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	10.5	5.5

日付	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14
平均気温 (°C)	25.0	26.6	26.7	25.7	26.8	25.2	22.9	25.3	26.0	25.2	22.8
降水量 (mm)	24.0	1.0	0.0	71.5	0.5	17.0	22.5	0.0	0.5	3.5	0.0

日付	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25
平均気温 (°C)	22.5	24.0	24.6	25.5	22.7	20.5	21.8	21.8	22.5	23.9	20.4
降水量 (mm)	0.0	0.0	2.5	3.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0

日付	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7
平均気温 (°C)	21.8	21.6	20.7	20.9	21.1	21.5	20.2	21.0	21.4	20.0	17.9	18.0
降水量 (mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.5	0.0	0.0

観測地点:愛知県農業総合試験場内

対象病害虫名・学名 ハイマダラノメイガ・*Hellula undalis*

試験場名 愛知県農業総合試験場

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 2020年9月16日(定植8日後)、9月23日(定植15日後)、9月29日(定植21日後)、10月7日(定植29日後)

(調査方法) 1区あたり20株について、生息する幼虫数及び芯止まり株数を調査した。また、幼虫は若齢・中齢・老齢の別に調査した。

被害は、薬効調査時に葉の被害症状の有無を以下の基準により肉眼で観察した。

－: 被害を認めない。+: 軽微な被害症状を認める。++: 中程度の被害症状を認める。

+++ : 重度の被害症状を認める。

3. 試験成績

供試薬剤	処理方法	連制	20株あたりの生息虫数											
			定植8日後(9/16)				定植15日後(9/23)				定植21日後(9/29)			
			若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計
111) ブリロッソ粒剤 シアントリナール 0.50% Lot. OCT17SK012	3kg/30㎡ 地床育苗期 散布	I	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	2
		II	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	1	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	2
対) プリンス粒剤 フィプロニル 1.0%	0.2g/株 (但し、50g/ ㎡まで) 株元散布	I	0	0	0	0	1	2	0	3	0	2	0	2
		II	0	0	0	0	2	4	0	6	1	1	3	5
		III	4	0	0	4	2	3	0	5	0	4	0	4
		合計	4	0	0	4	5	9	0	14	1	7	3	11
無処理		I	13	0	0	13	13	16	0	29	1	6	3	10
		II	14	0	0	14	16	18	0	34	0	7	11	18
		III	7	0	0	7	7	12	0	19	1	5	3	9
		合計	34	0	0	34	36	46	0	82	2	18	17	37

供試薬剤	処理方法	連制	20株あたりの生息虫数				密度指数				芯止まり株率(%)				被害
			定植29日後(10/7)				定植 8日後	定植 15日後	定植 21日後	定植 29日後	定植 8日後	定植 15日後	定植 21日後	定植 29日後	
			若齡	中齡	老齡	合計									
111) ブリロッソ粒剤 シアントリナール 0.50% Lot. OCT17SK012	3kg/30㎡ 地床育苗期 散布	I	0	0	0	0					0.0	0.0	5.0	5.0	-
		II	0	0	0	0					0.0	0.0	0.0	0.0	-
		III	0	0	0	0					0.0	0.0	0.0	0.0	-
		合計	0	0	0	0	2.9	1.2	5.4	0.0	平均	0.0	0.0	1.7	1.7
対) プリンス粒剤 フィプロニル 1.0%	0.2g/株 (但し、50g/ ㎡まで) 株元散布	I	0	0	0	0					0.0	0.0	15.0	15.0	-
		II	0	0	0	0					0.0	5.0	30.0	40.0	-
		III	0	0	0	0					0.0	5.0	5.0	15.0	-
		合計	0	0	0	0	11.8	17.1	29.7	0.0	平均	0.0	3.3	16.7	23.3
無処理		I	0	1	0	1					0.0	30.0	65.0	65.0	-
		II	0	0	0	0					0.0	30.0	65.0	65.0	-
		III	0	0	0	0					5.0	30.0	50.0	50.0	-
		合計	0	1	0	1	100	100	100	100	平均	1.7	30.0	60.0	60.0

4. 考察

10月7日(定植29日後)にはハイマダラノメイガの寄生箇所である芯部分がほとんどなくなったため、虫数が極端に減少した。

判定は定植8、15、21日後の密度指数で行った。

111) ブリロッソ粒剤 3kg/30㎡ 地床育苗期散布 AAA-

本剤は、対照のプリンス粒剤 0.2g/株(但し、50g/㎡まで) 株元散布と比較して優る効果が認められ、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。被害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 ハイマダラノメイガ *Hellula undalis*

試験場名 愛知県農業総合試験場東三河農業研究所

担当者氏名 増田 陽子

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県豊橋市飯村町

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:しぶき2号 播種日:2020年8月6日 定植日:2020年8月31日 栽植距離:畝幅60cm×株間30cm 1条植え

土性:軽埴土 栽培条件:露地栽培 育苗:128穴セルトレイ 試験期間中の防除薬剤:なし

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1区 7.2 m² (1.2m×6m) 40株 3連制

2-I	1-I	3-I
2-II	1-II	3-II
3-III	1-III	2-III

1:SYJ295-DC 2:プレバゾンフロアブル5 3:無処理

I II IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日)2020年9月14日

(処理時の作物のステージ)本葉8~10葉期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、180L/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。展着剤としてアグラー5000倍を添加した。

(処理前後の降雨影響) 9月13日に雨が降ったが、処理24時間以上前の降雨であり影響はないと思われる。

試験期間中の気象条件

月 日	9/14	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29
平均気温(℃)	24.5	23.3	24.7	26.3	28.1	24.7	21.1	23.1	22.8	22.6	24.3	22.3	23.4	23.2	21.9	21.5
降水量(mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	3.5	0.0	0.0	41.0	0.0	0.0	0.0	0.0

観測地点:愛知県豊橋市のアメダスデータ

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日)薬効試験:処理前(9月14日)、処理3日後(9月17日)、8日後(9月22日)、15日後(9月29日)

被害試験:処理3日後(9月17日)、8日後(9月22日)、15日後(9月29日)

(調査方法)薬効は、各区区境を除く30株について株全体に生息虫数(発育ステージ別)及び芯どまり株率を調査した。

被害は、茎葉を対象に、調査時に肉眼により観察し、被害の症状の有無を以下の内容で確認した。

-:被害を認めない。+:軽微な被害症状を認める。++:中程度の被害症状を認める。

+++ :重度の被害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

対象病害虫名・学名 ハイマダラノメイガ *Hellula undalis*

試験場名 愛知県農業総合試験場東三河農業研究所

3. 試験成績

供試薬剤 有効成分名・量 Lot No.	希釈倍率 処理量	連制	30株あたり幼虫数												30株あたり芯どまり株率(%)		被害 9/17, 9/22, 9/29				
			散布前 (9/14)				処理3日後 (9/17)				処理8日後 (9/22)				処理15日後 (9/29)				散布前 (9/14)	処理15日後 (9/29)	
			若 齢	中 齢	老 齢	合 計	若 齢	中 齢	老 齢	合 計	若 齢	中 齢	老 齢	合 計	若 齢	中 齢		老 齢			合 計
12) SYJ-295DC 新規化合物 100g/L HWI002-041-002	4000倍	I	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.3	3.3	—
		II	5	1	0	6	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0.0	0.0	—
		III	9	2	5	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	—
		合計	14	5	5	24	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1			
		補正密度指数					2.7				0.0				7.5				平均 1.1	平均 1.1	
対) プレバソンフロアブル5 クロラントラニリプロール 5.0%	2000倍	I	5	1	0	6	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	—
		II	4	3	0	7	2	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	6.7	—
		III	8	1	1	10	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	—
		合計	17	5	1	23	3	3	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0			
		補正密度指数					17.2				0.0				0.0				平均 0.0	平均 2.2	
無処理	—	I	4	1	1	6	2	2	2	6	2	1	1	4	2	1	2	5	6.7	13.3	—
		II	0	3	1	4	5	4	8	17	0	2	7	9	1	0	0	1	10.0	20.0	
		III	7	6	4	17	7	4	7	18	4	1	6	11	1	1	7	9	0.0	63.3	
		合計	11	10	6	27	14	10	17	41	6	4	14	24	4	2	9	15			
		補正密度指数					100				100				100				平均 5.6	平均 32.2	

4. 考察

効果の判定は処理3、8日後の補正密度指数及び処理15日後の芯どまり株率を重視して行った。

12) SYJ-295DC 4000倍 散布 BAA-

本処理は、対照処理と比較してほぼ同等の効果であり、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

被害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 ネキリムシ類(カブラヤガ *Agrotis segetum*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会山梨試験場

担当者氏名 秋山空隆、丸山直哉、宮川直也、中西秀明

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 山梨県山梨市小原東 日植防山梨借り上げ圃場

対象病害虫発生状況 多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土性条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:金系 201 号 購入苗 定植日:2020 年 9 月 18 日 露地栽培(枠内試験)

栽植距離:畝間 120 cm 条間 60cm 株間 30cm 2 条植え 施肥その他一般管理:現地慣行に準じた。土性:埴壤土

試験期間中の防除薬剤:なし。供試虫の逃亡を防ぐため、波板を用いて試験区を区画した。

区制・面積・試験区の構成 1区 2.52 m² (2.1m×1.2m) 14 株 3 連制

		3 I	1 I	2 I			1 II	2 II	3 II				
--	--	-----	-----	-----	--	--	------	------	------	--	--	--	--

		3 III			1 III	2 III
--	--	-------	--	--	-------	-------

1:オルトラン粒剤 2:ダイアジノン粒剤 3:無処理 I、II、IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020 年 9 月 18 日 (作物のステージ) 草丈約 5cm、本葉 2.5 枚

(処理方法) オルトラン粒剤:定植前に所定量の薬剤を植穴に処理し、手で混和した。その後定植し灌水を行った。

ダイアジノン粒剤 5:所定量を作条に処理し、レーキ等を用いて混和した。その後定植し灌水を行った。

(処理前後の降雨) 処理前後に降雨はなく、影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28
平均気温(℃)	26.2	25.1	20.4	21.0	20.8	20.0	20.5	19.4	19.6	19.9	20.1
降水量(mm)	0	0	3.0	0	0	0	0	14.5	0	0	0

日植防山梨試験場内気象データより

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 9 月 19 日(処理 1 日後)、9 月 21 日(同 3 日後)、9 月 23 日(同 5 日後)、9 月 25 日(同 7 日後)及び
9 月 28 日(同 10 日後)

(調査方法) 虫数調査:各区地上部の苦悶及び死亡虫数を調査した。その際、死亡虫は区外へ除外した。

被害調査:各区内 14 株の被害程度を下記の通り 3 段階に分けて調査し、被害度を算出した。

被害度 = (3a+b)/3N × 100

a:株元が切断された株数、b:株元は切断されていないが被害のある株数、c:健全株数、N:調査株数

各調査時に茎葉を対象として、肉眼により被害症状を下記の基準に従って程度別に調査した。

-:被害を認めない +:軽微な被害症状を認める ++:中程度の被害症状を認める

+++ :重度の被害症状を認める

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来・月日・詳細な方法を記載)

処理 4 時間後にカブラヤガ 4 齢幼虫(日植防茨城提供虫:2019 年所内キャベツ圃場より採集し累代飼育した個体群)を区当たり 10 頭放虫した。鳥類による捕食を防ぐ為に試験区上部を寒冷紗で被覆した。

対象病害虫名・学名 ネキリムシ類(カブラヤガ *Agrotis segetum*) 試験場名 (一社)日本植物防疫協会山梨試験場

3. 試験成績

薬効薬害調査(被害調査)

供試薬剤	処理方法	連制	処理1日後(9/19)						同3日後(9/21)					
			調査 株数	被害度			被害株 率(%)	被害度	調査 株数	被害度			被害株 率(%)	被害度
				a	b	c				a	b	c		
29) オルトラン粒剤 アセフェート 5.0% Lot. 0GB389A	1g/株 定植時 植穴処理	I	14	1	3	10	28.6	14.3	14	1	6	7	50.0	21.4
		II	14	4	2	8	42.9	33.3	14	4	3	7	50.0	35.7
		III	14	3	1	10	28.6	23.8	14	3	2	9	35.7	26.2
		平均					33.4	23.8					45.2	27.8
		(対無処理比)						(58.8)						(36.9)
対) ダイアジノン粒剤5 ダイジノン 5.0%	6kg/10a 定植時 作条土壌混和	I	14	1	3	10	28.6	14.3	14	1	8	5	64.3	26.2
		II	14	3	1	10	28.6	23.8	14	3	4	7	50.0	31.0
		III	14	3	3	8	42.9	28.6	14	3	6	5	64.3	35.7
		平均					33.4	22.2					59.5	31.0
		(対無処理比)						(54.8)						(41.1)
無処理	—	I	14	4	1	9	35.7	31.0	14	7	3	4	71.4	57.1
		II	14	5	1	8	42.9	38.1	14	12	1	1	92.9	88.1
		III	14	7	1	6	57.1	52.4	14	11	1	2	85.7	81.0
		平均					45.2	40.5					83.3	75.4
		(対無処理比)						(100)						(100)

供試薬剤	処理方法	連制	調査 株数	同5日後(9/23)					被害度	同7日後(9/25)					被害度
				被害度			被害株 率(%)	被害度		被害度			被害株 率(%)	被害度	
				a	b	c				a	b	c			
29) オルトラン粒剤	1g/株 定植時 植穴処理	I	14	2	5	7	50.0	26.2	14	2	5	7	50.0	26.2	
		II	14	4	2	8	42.9	33.3	14	4	3	7	50.0	35.7	
		III	14	4	1	9	35.7	31.0	14	4	1	9	35.7	31.0	
		平均					42.9	30.2					45.2	31.0	
		(対無処理比)						(31.7)						(32.6)	
対) ダイアジノン粒剤5	6kg/10a 定植時 作条土壌混和	I	14	1	6	7	50.0	21.4	14	1	6	7	50.0	21.4	
		II	14	3	2	9	35.7	26.2	14	3	2	9	35.7	26.2	
		III	14	3	4	7	50.0	31.0	14	3	4	7	50.0	31.0	
		平均					45.2	26.2					45.2	26.2	
		(対無処理比)						(27.5)						(27.5)	
無処理	—	I	14	12	2	0	100	90.5	14	12	2	0	100	90.5	
		II	14	14	0	0	100	100	14	14	0	0	100	100	
		III	14	13	1	0	100	95.2	14	13	1	0	100	95.2	
		平均					100	95.2					100	95.2	
		(対無処理比)						(100)						(100)	

供試薬剤	処理方法	連制	調査 株数	同10日後(9/28)					被害度	薬害程度		
				被害度			被害株 率(%)			被害度	9/19、9/21、9/23、	9/25、9/28
				a	b	c						
29) オルトラン粒剤	1g/株 定植時 植穴処理	I	14	2	4	8	42.9	23.8		—		
		II	14	4	2	8	42.9	33.3		—		
		III	14	4	0	10	28.6	28.6		—		
		平均					38.1	28.6				
		(対無処理比)						(30.0)				
対) ダイアジノン粒剤5	6kg/10a 定植時 作条土壌混和	I	14	1	6	7	50.0	21.4		—		
		II	14	3	2	9	35.7	26.2		—		
		III	14	3	4	7	50.0	31.0		—		
		平均					45.2	26.2				
		(対無処理比)						(27.5)				
無処理	—	I	14	12	2	0	100	90.5		—		
		II	14	14	0	0	100	100		—		
		III	14	13	1	0	100	95.2		—		
		平均					100	95.2				
		(対無処理比)						(100)				

対象病害虫名・学名 ネキリムシ類(カブラヤガ *Agrotis segetum*) 試験場名 (一社)日本植物防疫協会山梨試験場

虫数調査

供試薬剤	処理方法	連制	放虫数	処理1日後		同3日後		同5日後		同7日後		同10日後	
				9/19		9/21		9/23		9/25		9/28	
				苦悶	死亡*	苦悶	死亡*	苦悶	死亡*	苦悶	死亡*	苦悶	死亡*
29) オルトラン粒剤	1g/株 定植時 植穴処理	I	10	1	1	1	4	0	6	1	6	0	6
		II	10	8	1	0	9	0	9	0	9	0	9
		III	10	4	1	1	6	0	7	0	7	0	7
		合計	30	13	3	2	19	0	22	1	22	0	22
		(死虫率)		(10.0)		(63.3)		(73.3)		(73.3)		(73.3)	
対) ダイアジノン粒剤5	6kg/10a 定植時 作条土壌混和	I	10	2	2	0	6	0	6	0	6	0	6
		II	10	1	1	0	6	0	6	0	6	0	6
		III	10	1	0	0	9	0	10	0	10	0	10
		合計	30	4	3	0	21	0	22	0	22	0	22
		(死虫率)		(10.0)		(70.0)		(73.3)		(73.3)		(73.3)	
無処理	—	I	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(死虫率)		(0)		(0)		(0)		(0)		(0)	

*死亡虫数は累積値

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

実用性の判定は、処理 5、7、10 日後の被害度の対無処理比の平均値を重視し、虫数調査は参考とした。

29) オルトラン粒剤 1g/株 定植時植穴処理 BCC-

本薬剤 1g/株 定植時植穴処理は、対照のダイアジノン粒剤 5 6kg/10a 定植時作条土壌混和と比較して、ほぼ同等の効果が認められた。無処理区と比較して効果は認められるがその程度は低かった。効果はやや低いが実用性はあると考えられる。

本薬剤による薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 ウワバ類 (タマナギンウワバ *Autographa nigrisigna*)

試験場名 長野県野菜花き試験場

担当者氏名 豊嶋悟郎

1. 試験目的 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 長野県塩尻市宗賀 長野県野菜花き試験場

対象病害虫発生状況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:信州 868 播種日:2020 年 4 月 10 日 定植日:2020 年 5 月 12 日 栽植距離:畝幅45cm×株間40cm 土性:埴壤土

露地栽培 全面マルチ栽培

試験期間中の防除薬剤:試験以外の薬剤散布は無し。

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1 区 10 m² (4.5m×2.25m) 40 株(4 条×10 株) 3 連制

4-I	3-II	2-III
3-I	2-II	1-III
2-I	1-II	4-III
1-I	4-II	3-III

1:SYJ-295DC 2:フローバック DF 3:対) フェニックス顆粒水和剤 4:無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020 年 6 月 1 日

(処理時の作物のステージ) 外葉形成期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、200L/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。展着剤はY-ハッテン(10,000 倍)を加用した。

(処理前後の降雨影響) 処理前後の降雨は認められなかった。

試験期間中の気象条件

6月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日
平均気温(℃)	18.7	21.5	20.6	21.5	22.7	20.3	19.3	20.8	22.7	23.1	21.8	21.0	19.2	21.5	23.8
降水量(mm)											36.5		65.0	18.5	0.5

観測地点:長野県野菜花き試験場内 気象観測装置

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理直前(6 月 1 日)、3 日後(6 月 4 日)、7 日後(6 月 8 日)及び14 日後(6 月 15 日)

(調査方法) 薬効は、各区 10 株について、タマナギンウワバの卵数、若、中、老齢別幼虫個体数及び蛹個体数をカウントした。

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

対象病害虫名・学名 ウワバ類 (タマナギンウワバ *Autographa nigrisigna*)

試験場名 長野県野菜花き試験場

3. 試験成績

供試薬剤 有効成分	希釈 倍数	連制	10 株 当 た り タ マ ナ ギ ン ウ ワ バ 生 息 数																	
			処理直前(6月1日)						処理3日後(6月4日)						処理7日後(6月8日)					
			卵	幼虫			蛹	卵	幼虫			蛹	卵	幼虫			蛹			
				若齢	中齢	老齢			合計	若齢	中齢			老齢	合計	若齢		中齢	老齢	合計
12) SYJ-295DC 新規化合物100g/L Lot no. HW1002-041-002	4,000	I	10	2	1	0	3	0	16	0	0	0	0	0	21	2	0	0	2	0
		II	8	3	0	0	3	0	17	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0
		III	4	4	0	0	4	0	10	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0
		合計	22	9	1	0	10	0	43	0	0	0	0	0	70	2	0	0	2	0
		(補正密度指数)													(0.0)				(9.1)	
81) フローバックDF BT生芽胞および産生結晶毒 素10% Lot no. UC021F	2,000	I	10	4	0	0	4	0	14	0	0	0	0	0	24	2	0	0	2	0
		II	3	3	1	0	4	0	8	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0
		III	4	2	0	0	2	0	11	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0
		合計	17	9	1	0	10	0	33	0	0	0	0	0	54	2	0	0	2	0
		(補正密度指数)													(0.0)				(9.1)	
対) フェニックス顆粒水和 剤 フルベンジアミド20.0%	2,000	I	9	2	0	0	2	0	18	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0
		II	9	2	0	0	2	0	13	0	0	0	0	0	26	0	0	0	0	0
		III	12	4	0	0	4	0	8	0	0	0	0	0	15	1	0	0	1	0
		合計	30	8	0	0	8	0	39	0	0	0	0	0	68	1	0	0	1	0
		(補正密度指数)													(0.0)				(3.6)	
無 処 理		I	12	4	0	0	4	0	20	5	0	0	5	0	34	4	2	0	6	0
		II	8	3	0	0	3	0	16	7	0	0	7	0	27	4	3	0	7	0
		III	6	3	0	0	3	0	14	6	0	0	6	0	30	6	3	0	9	0
		合計	26	10	0	0	10	0	50	18	0	0	18	0	91	14	8	0	22	0
供試薬剤 有効成分	希釈 倍数	連制	10株当たりタマナギンウワバ生息数						薬 害 6/4, 6/8, 6/15											
			処理14日後(6月15日)																	
			卵	幼虫			蛹													
				若齢	中齢	老齢		合計												
12) SYJ-295DC 新規化合物100g/L Lot no. HW1002-041-002	4,000	I	5	17	0	0	17	0	-											
		II	10	12	0	0	12	0	-											
		III	8	6	0	0	6	0	-											
		合計	23	35	0	0	35	0												
		(補正密度指数)					(46.0)													
81) フローバックDF BT生芽胞および産生結晶毒 素10% Lot no. UC021F	2,000	I	5	16	4	0	20	0	-											
		II	9	14	1	0	15	0	-											
		III	9	18	0	0	18	0	-											
		合計	23	48	5	0	53	0												
		(補正密度指数)					(69.7)													
対) フェニックス顆粒水和 剤 フルベンジアミド20.0%	2,000	I	5	11	0	0	11	0	-											
		II	6	3	0	0	3	0	-											
		III	7	6	0	0	6	0	-											
		合計	18	20	0	0	20	0												
		(補正密度指数)					(21.1)													
無 処 理		I	2	25	7	1	33	0												
		II	6	19	2	1	22	0												
		III	3	18	2	1	21	0												
		合計	11	62	11	3	76	0												

4. 考察

実用性の判定は、処理3、7日後の幼虫補正密度指数より行った。

12) SYJ-295DC 4,000 倍散布 BAA-

本処理はキャベツのウワバ類(タマナギンウワバ)に対して、対照薬剤フェニックス顆粒水和剤 2,000 倍液散布と比較してほぼ同等の効果を示し、無処理と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

81) フローバックDF 2,000 倍散布 BAA-

本処理はキャベツのウワバ類(タマナギンウワバ)に対して、対照薬剤フェニックス顆粒水和剤 2,000 倍液散布と比較してほぼ同等の効果を示し、無処理と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。残効はやや短かった。薬害は認められなかった。

対象病虫害名・学名 ウワバ類(タマナギンウワバ *Autographa nigrisigna*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 山梨試験場

担当者氏名 秋山空隆、丸山直哉、中西秀明

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 山梨県南都留郡鳴沢村 日植防山梨借り上げ圃場

対象病虫害発生状況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土性条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種: 藍天 定植:2020年6月18日 露地栽培

栽植距離:畝間60cm 株間30cm 1条植え 施肥その他一般管理:現地慣行に準じた。土性:埴壤土

試験期間中の防除:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 13.5 m² (3.0m×4.5m) 75株(5畝) 3連制

		2Ⅱ	1Ⅱ			
2Ⅰ	3Ⅰ		3Ⅱ	2Ⅲ	3Ⅲ	1Ⅲ
1Ⅰ						

1:フローバックDF 2:トルネードエースDF 3:無処理 I、Ⅱ、Ⅲは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年7月28日 (処理量) 約222L/10a (作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍率で調製し、背負い式バッテリー噴霧機を用いて作物全体が十分に濡れるよう散布した。

展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨) 7月28日(散布当日)の2.0mmの降雨は散布8時間以上後の降雨であり、散布後約3時間で薬剤が乾いていることを確認したため、試験には影響ないと考えられる。

試験期間中の気象条件

月日	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11
平均気温(℃)	22.0	22.6	20.6	19.6	22.4	21.8	21.8	22.2	23.6	24.2	24.3	24.9	24.6	25.3	25.5	26.5
降水量(mm)	1.5	2.0	2.5	5.5	6.5	1.5	2.0	1.5	0	0	0	0	0	0	0	0

山梨県河口湖アメダスデータより

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 7月27日(処理前日)、7月30日(処理2日後)、8月3日(同6日後)、8月6日(同9日後)及び
8月11日(同14日後)

(調査方法) 各区の区境を除いた中央付近30株に生息する虫数を発育ステージごとに調査した。

被害は、茎葉を対象に、各調査時に肉眼により観察し、被害症状を下記の基準に従って程度別に調査した。

－: 被害を認めない。+: 軽微な被害症状を認める。++: 中程度の被害症状を認める。+++ : 重度の被害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対 象 病 害 虫 名・学名 ウワバ類(タマナギンウワバ *Autographa nigrisigna*) 試験場名 (一社) 日本植物防疫協会山梨試験場

3. 試験成績

薬効調査

供試薬剤	処理方法	連制	生息虫数(30株当たり)															
			処理前日				同2日後				同6日後				同9日後			
			7/27				7/30				8/3				8/6			
			若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計
81) フローバックDF *1	2000倍 散布	I	3	3	1	7	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	1	3
		II	9	7	0	16	3	6	3	12	1	3	2	6	1	0	1	2
		III	5	3	1	9	4	3	0	7	1	5	0	6	1	1	1	3
		合計	17	13	2	32	7	10	3	20	2	9	2	13	2	3	3	8
		(補正密度指数)					(68.2)				(34.8)				(25.0)			
対) トルネードエースDF インドキサカルブ 5.0%	2000倍 散布	I	4	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	3	6	4	13	2	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1
		III	9	4	1	14	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1
		合計	16	12	5	33	2	0	0	2	1	0	0	1	2	0	0	2
		(補正密度指数)					(6.6)				(2.6)				(6.1)			
無処理	-	I	2	1	0	3	5	1	1	7	5	0	0	5	4	2	0	6
		II	6	10	0	16	3	7	3	13	11	5	0	16	5	7	1	13
		III	7	9	1	17	9	2	2	13	13	6	2	21	10	6	1	17
		合計	15	20	1	36	17	10	6	33	29	11	2	42	19	15	2	36
		(補正密度指数)					(100)				(100)				(100)			

*1 BT 生芽胞及び産生結晶毒素 10%

薬害調査

供試薬剤	処理方法	連制	薬害程度			
			処理2日後	同6日後	同9日後	同14日後
			7/30	8/3	8/6	8/11
81) フローバックDF	2000倍 散布	I	—	—	—	—
		II	—	—	—	—
		III	—	—	—	—
対) トルネードエースDF	2000倍 散布	I	—	—	—	—
		II	—	—	—	—
		III	—	—	—	—
無処理	-	I	—	—	—	—
		II	—	—	—	—
		III	—	—	—	—

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

本試験における実用性の判定は、処理 9、14 日後の生息虫数(補正密度指数)で行った。

81)フローバック DF 2000 倍 散布 CBB-

本薬剤の 2000 倍希釈液散布は、対照のトルネードエース DF(2000 倍)にやや劣る効果を示し、無処理に比べて効果があると認められた。実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名・学名 シロイチモジヨトウ *Spodoptera exigua*

試験場名 愛知県農業総合試験場

担当者氏名 石井直樹

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 試験場内

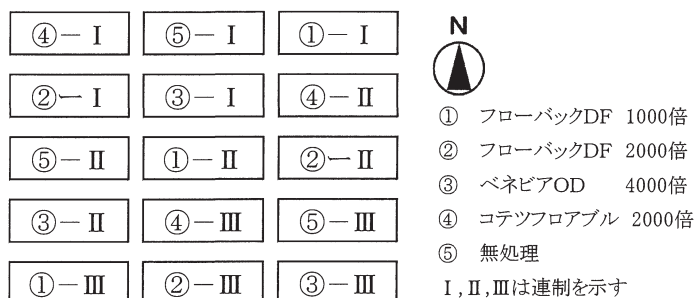
対象病害虫発生状況 中→少発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別を記載)

品種:潮岬 育苗:128 穴セルトレイ 播種:2020 年 3 月 24 日 定植:4 月 22 日

栽植距離:畝幅 160 cm×株間 35 cm 2 条植え 育苗期:ガラス温室 定植後:露地栽培 施肥・一般管理は慣行に準じた

土性:植壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積 1区 9.0 m² (1.6×5.6m) 32 株 3 連制

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020 年 5 月 25 日 (作物のステージ) 本葉 11~12 葉期

(処理方法) 各剤所定濃度の薬液を、動力噴霧器を用いて十分量(約 170L/10a) 散布した。展着剤としてグラミン S 5000 倍を添加した。

(処理前後の降雨) 処理前後に降雨はなかったため、影響はなかったと思われる。

試験期間中の気象条件

月 日	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30	5/31
平均気温(℃)	20.7	21.4	20.6	20.8	20.8	20.9	21.4	18.4
降水量(mm/日)	0	0	3.5	0.5	0	0	0	3.5

観測地点:試験場内

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 2020 年 5 月 25 日(散布前)、5 月 28 日(散布 3 日後)、5 月 31 日(散布 6 日後)。

(調査方法) 1 区あたり 20 株について、生息する全生幼虫数を若齢・中齢・老齢別に調査した。

被害は、各調査日に葉について、肉眼により観察し、被害症状の有無を以下の内容で調査した。

- : 被害を認めない。+ : 軽微な被害症状を認める。++ : 中程度の被害症状を認める。+++ : 重度の被害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

2020 年 5 月 24 日(散布前日)、シロイチモジヨトウ 2、3 齢幼虫を各区中央の 20 株に合計約 100 頭を放虫した。供試虫は、2019 年 9 月に愛知県西尾市吉良町のダイズほ場で採集した個体群を室内で累代飼育したものをを用いた。

対 象 病 害 虫 名・学名 シロイチモジヨトウ *Spodoptera exigua*

試験場名 愛知県農業総合試験場

3. 試 験 成 績

供 試 薬 剤			処理方法	連制	20株あたりの生息虫数												薬害
					散布前(5/25)				散布3日後(5/28)				散布6日後(5/31)				5/28
					若 齢	中 齢	老 齢	合 計	若 齢	中 齢	老 齢	合 計	若 齢	中 齢	老 齢	合 計	5/31
81) フローバックDF パチルスチューリングシス菌の 生芽胞及び産生結晶毒素 Lot No. PB729F	10.0%	1000倍 散布	I	32	6	0	38	1	2	0	3	0	1	3	4	—	
			II	27	9	0	36	3	5	0	8	0	0	0	0	—	
			III	19	6	0	25	0	2	0	2	0	1	0	1	—	
			合計	78	21	0	99	4	9	0	13	0	2	3	5	—	
			(補正密度指数)					(23.5)				(22.4)					
81) フローバックDF パチルスチューリングシス菌の 生芽胞及び産生結晶毒素 Lot No. PB729F	10.0%	2000倍 散布	I	29	10	0	39	2	5	0	7	0	0	1	1	—	
			II	26	8	0	34	2	4	0	6	0	0	3	3	—	
			III	23	6	0	29	1	6	0	7	0	0	2	2	—	
			合計	78	24	0	102	5	15	0	20	0	0	6	6	—	
			(補正密度指数)					(35.1)				(26.1)					
82) ベネビアOD シアントラニリプロール Lot No. G5183-42	10.3%	4000倍 散布	I	24	11	0	35	3	2	0	5	0	0	0	0	—	
			II	14	9	0	23	0	1	0	1	0	0	0	0	—	
			III	27	7	0	34	2	4	0	6	0	0	0	0	—	
			合計	65	27	0	92	5	7	0	12	0	0	0	0	—	
			(補正密度指数)					(23.4)				(0.0)					
対) コテツフロアブル クロルフェナピル 無処理	10.0%	2000倍 散布	I	29	7	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0	—	
			II	27	10	0	37	0	0	0	0	0	0	0	0	—	
			III	16	3	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	—	
			合計	72	20	0	92	0	0	0	0	0	0	0	0	—	
			(補正密度指数)					(0.0)				(0.0)					
無処理	—	—	I	30	8	0	38	2	12	0	14	0	2	4	6	—	
			II	20	9	0	29	6	16	0	22	0	2	8	10	—	
			III	33	11	0	44	5	21	0	26	0	3	6	9	—	
			合計	83	28	0	111	13	49	0	62	0	7	18	25	—	
			(補正密度指数)					(100)				(100)					

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

判定は散布 3 日後、6 日後の補正密度指数で行った。

81) フローバックDF 1000 倍 散布 DBB-

本剤の 1000 倍散布は、対照のコテツフロアブル 2000 倍散布と比較して劣る防除効果を示し、無処理区と比較して防除効果は認められた。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

81) フローバックDF 2000 倍 散布 DCC-

本剤の 2000 倍散布は、対照のコテツフロアブル 2000 倍散布と比較して劣る防除効果を示し、無処理区と比較して防除効果は認められるがその程度は低い。効果は低い実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

82) ベネビアOD 4000 倍 散布 CBB-

本剤の 4000 倍散布は、対照のコテツフロアブル 2000 倍散布と比較してやや劣る防除効果を示し、無処理区と比較して防除効果は認められた。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 ウワバ類(イラクサギンウワバ主体) *Trichoplusia ni*

試験場名 愛知県農業総合試験場

担当者氏名 上田直人

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 試験場内

対象病害虫発生状況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:スノークラウン 育苗:72穴セルトレイ 播種日:2020年8月17日 定植日:2020年9月17日

栽植距離:畝幅150cm×株間30cm 2条植え 土性:埴壤土 育苗期:ガラス温室 定植後:露地栽培

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

試験期間中の防除薬剤:9月23日 ディアナSC

区制・面積・試験区の構成 1区 7.2 m² (1.5m×4.8m) 32株 4連制

2-Ⅱ	3-Ⅳ	2-Ⅲ	1-Ⅰ
1-Ⅳ	2-Ⅰ	1-Ⅱ	3-Ⅲ
3-Ⅱ	1-Ⅲ	3-Ⅰ	2-Ⅳ

1:MIE-1209 フロアブル

2:フェニックス顆粒水和剤(参考)

3:無処理

Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳは連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年10月16日

(処理時の作物のステージ) 展葉期(本葉10~11枚)

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、200L/10aの割合で加圧式噴霧機を用いて散布した。

(処理前後の降雨影響) 処理前後に降雨はなかったため、影響はなかった。

試験期間中の気象条件

日付	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22
平均気温(℃)	18.4	17.0	12.7	13.5	11.6	14.2	15.0	17.1
降水量(mm)	0.0	0.0	21.0	0.5	3.0	0.0	0.0	0.0

観測地点:愛知県農業総合試験場内

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 2020年10月15日(散布前日)、10月19日(散布3日後)、10月22日(散布6日後)。

(調査方法) 1区あたり30株について、生息する幼虫数及び蛹数を調査した。また、幼虫は若齢・中齢・老齢の別に調査した。

葉害は、葉効調査時に葉の葉害症状の有無を以下の基準により肉眼で観察した。

-:葉害を認めない。+:軽微な葉害症状を認める。++:中程度の葉害症状を認める。

+++ :重度の葉害症状を認める。

対象病害虫名・学名 ウワバ類(イラクサギンウワバ主体) *Trichoplusia ni*

試験場名 愛知県農業総合試験場

3. 試 験 成 績

供試薬剤	希釈倍率	連制	30株あたりの生息虫数															補正密度指数		葉害 10/19, 10/22
			散布前日(10/15)					散布3日後(10/19)					散布6日後(10/22)					散布 3日後	散布 6日後	
			若齢	中齢	老齢	蛹	合計	若齢	中齢	老齢	蛹	合計	若齢	中齢	老齢	蛹	合計			
5) MIE-1209フロアブル 「プロフェリット」 5.0% (w/v) Lot. 201-4279	4000倍	I	6	0	0	0	6	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	9.9	11.6	-
		II	8	2	0	0	10	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1			-
		III	12	0	0	0	12	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2			-
		IV	14	0	0	0	14	0	5	0	0	5	0	1	0	0	1			-
		合計	40	2	0	0	42	0	6	0	0	6	3	2	0	0	5			
参考) フェニックス顆粒水和剤 「ファベンジアミット」 20.0%	2000倍	I	7	3	0	0	10	4	1	0	0	5	2	2	0	0	4	18.3	20.6	-
		II	8	0	0	0	8	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1			-
		III	14	0	0	0	14	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1			-
		IV	5	1	0	0	6	1	3	0	0	4	2	0	0	0	2			-
		合計	34	4	0	0	38	5	5	0	0	10	5	3	0	0	8			
無処理		I	8	1	0	0	9	9	1	1	0	11	1	7	0	0	8	100	100	-
		II	6	1	1	0	8	18	4	0	0	22	11	5	0	0	16			-
		III	12	1	0	0	13	13	3	0	0	16	5	4	0	0	9			-
		IV	13	0	0	0	13	10	3	0	0	13	9	1	1	0	11			-
		合計	39	3	1	0	43	50	11	1	0	62	26	17	1	0	44			

4. 考 察

判定は散布 3、6 日後の補正密度指数で行った。

5) MIE-1209 フロアブル 4000 倍 散布 (A)BB-

本剤は、参考処理と比較して優る効果を示し、無処理区と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。葉害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 オオタバコガ *Helicoverpa armigera*

試験場名 愛知県農業総合試験場

担当者氏名 石川博司

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 試験場内

対象病害虫発生状況 多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別を記載)

品種:スノークラウン 播種:2020年3月4日 定植:4月14日

栽植距離:畝幅 160 cm×株間 35 cm、2条植え

土性:砂壤土、露地栽培、施肥・一般管理は慣行に準じた。試験期間中の防除薬剤はなし。

区制・面積 1区 7.8 m² (1.6m×4.9m) 28株 3連制

1-I	3-II	2-III
2-I	1-II	3-III
3-I	2-II	1-III

1: MIE-1209フロアブル

2: アファーム乳剤

3: 無処理

I, II, IIIは連制を示す

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年5月22日 (作物のステージ) 展開期(本葉 11~12枚)

(処理方法) 各剤所定濃度の薬液を、肩掛け噴霧器を用いて十分量(約 200L/10a) 散布した。展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨) 処理前後に降雨はなかったため影響はなかった。

月日	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29
平均気温(℃)	21.3	21.8	24.1	22.8	21.7	20.9	21.8	22.6
降水量(mm)	0	0	0	0	3.5	0.5	0	0

観測地: 愛知県農業総合試験場

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 2020年5月22日(散布前)、5月25日(散布3日後)、5月29日(散布7日後)

(調査方法) 薬効は、各区中央付近の14株について生息している幼虫数を齢期別に調査した。

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼観察した。

- : 薬害を認めない。+ 軽微な薬害症状を認める。++ : 中程度の薬害症状を認める。

+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他 5月22日に、区あたり若齢幼虫100頭(日植防牛久分譲系統、2012年より累代飼育、2014年愛知県採集系統を交配)を放虫した。

3. 試験成績

供試薬剤	希釈倍率	連制	14株当たりの生息虫数												補正密度指数		薬害	
			散布前(5/22)				散布3日後(5/25)				散布7日後(5/29)				3日後	7日後	3日後	7日後
			若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計				
5) MIE-1209フロアブル フロアラニド 5.0% Lot. 201-4279	4000	I	73	0	0	73	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	-	-
		II	70	0	0	70	0	0	0	0	0	0	0	0			-	-
		III	51	0	0	51	0	0	0	0	0	0	0	0			-	-
		合計	194	0	0	194	0	0	0	0	0	0	0	0				
対) アファーム乳剤 エマメクチン安息香酸塩1.0%	1000	I	80	0	0	80	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	-	-
		II	52	0	0	52	0	0	0	0	0	0	0	0			-	-
		III	77	0	0	77	0	0	0	0	0	0	0	0			-	-
		合計	209	0	0	209	0	0	0	0	0	0	0	0				
無 処 理		I	85	0	0	85	36	39	0	75	5	35	2	42	100	100		
		II	65	0	0	65	12	31	0	43	1	26	3	30				
		III	61	0	0	61	19	41	0	60	7	44	4	55				
		合計	211	0	0	211	67	111	0	178	13	105	9	127				

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

判定は散布3, 7日後の補正密度指数で行った。

5) MIE-1209フロアブル 4000倍 BAA-

本剤4000倍散布は、対照のアファーム乳剤1000倍散布と比較して防除効果は同等で、無処理区と比較して防除効果が高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 アザミウマ類(ネギアザミウマ) *Thrips tabaci*

試験場名 愛知県農業総合試験場

担当者氏名 石川博司

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び葉害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 試験場内

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別を記載)

品種:まり緑 播種:2020年4月9日 定植:5月12日

栽植距離: 160 cm×株間 35 cm、2条植え

土性:砂壤土、露地栽培、施肥・一般管理は慣行に準じた。試験期間中の防除薬剤はなし。

2-I	3-II	1-III
1-I	2-II	3-III
3-I	1-II	2-III

1:SYJ-295DC 4000倍 2:ディアナSC 2500倍 3:無処理

I, II, IIIは連制を示す

区制・面積 1区 7.8 m² (1.6m×4.9m) 28株 3連制

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年5月29日 (作物のステージ)展開期(本葉 11~12枚)

(処理方法) 各剤所定濃度の薬液を、肩掛け噴霧器を用いて十分量(約 200L/10a)散布した。展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨)処理前後に降雨はなかったため影響はなかった。

月日	5/29	5/30	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5
平均気温(℃)	22.6	24.1	19.4	22.5	25.3	25.9	22.7	27.1
降水量(mm)	0	51	0	0	0	0	0	0

観測地:愛知県農業総合試験場

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、葉害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 2020年5月29日(散布前)、6月1日(散布3日後)、6月5日(散布7日後)

(調査方法) 薬効は、各区中央付近の14株についての生息虫数を成幼虫別に調査した。

葉害は、薬効調査時に茎葉の葉害症状を以下の基準により肉眼観察した。

-:葉害を認めない。+軽微な葉害症状を認める。++:中程度の葉害症状を認める。

+++ :重度の葉害症状を認める。

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍率	連制	14株当たりの生息虫数									補正密度指数		葉害	
			散布前(5/29)			散布3日後(6/1)			散布7日後(6/5)			散布		散布	
			成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	3日後	7日後	3日後	7日後
12)SYJ-295DC 新規化合物 100g/L Lot.HWI002-041-002	4000	I	42	21	63	9	0	9	54	0	54	5.1	13.5	-	-
		II	28	12	40	3	0	3	28	0	28			-	-
		III	21	15	36	5	0	5	14	0	14			-	-
		合計	91	48	139	17	0	17	96	0	96				
対)ディアナSC スピネトラム 11.7%	2500	I	37	10	47	2	0	2	46	1	47	4.6	19.3	-	-
		II	26	5	31	4	0	4	32	0	32			-	-
		III	21	10	31	5	1	6	27	1	28			-	-
		合計	84	25	109	11	1	12	105	2	107				
無 処 理		I	65	10	75	102	49	151	162	143	305	100	100		
		II	25	16	41	50	61	111	96	120	216				
		III	23	2	25	32	42	74	80	118	198				
		合計	113	28	141	184	152	336	338	381	719				

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

判定は散布3, 7日後の補正密度指数で行った。

12)SYJ-295DC 4000倍 BAA-

本剤 4000 倍散布は、対照のディアナSC2500 倍散布と比較して防除効果は同等で、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 コナガ (*Plutella xylostella*)

試験場名 長野県野菜花き試験場

担当者氏名 清原佑介

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 長野県塩尻市大字宗賀字床尾 1066-1 長野県野菜花き試験場ほ場内

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 多発生(自然発生)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別を記載)

品種:「SK9-099」 播種:2020年4月24日(128穴セル成型育苗、育苗培土:与作N-15) 定植:5月22日
 栽植距離:畝幅45cm×株間54cm 露地白黒ダブルマルチ栽培 施肥:くみあい粒状複合 N552号 s N=2.1kg/a
 土性:埴壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 9.9 m² (4.3 × 2.3 m) 32株 3連制

A - I	B - I	C - I	D - I
B - II	C - II	D - II	A - II
C - III	D - III	A - III	B - III

A:無処理 B:SYJ-295DC C:モベントフロアブル D:対)プレオフロアブル

I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年6月17日 (作物のステージ) 茎葉生育初期(葉長20cm程度)

(処理方法) バッテリー式動力噴霧器により、規定の濃度に希釈した薬液を茎葉全体に十分量(300L/10a相当)散布した。

(処理前後の降雨影響) 散布翌日18時頃に降雨があったが、それまでに薬液は乾いていた。降雨の影響はないと思われる。

試験期間中の気象条件

月/日	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2
平均気温(°C)	20.4	18.0	15.7	18.0	19.8	17.7	20.9	22.7	23.4	25.0	23.4	20.2	20.6	19.9	22.8	22.1
降水量(mm)	0.0	9.0	31.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0	20.5	15.5	0.0

観測地点:野菜花き試験場内

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:6月16日(処理前日)、6月20日(処理3日後)、6月24日(処理7日後)、7月2日(処理15日後)

薬害試験:6月17日(散布直前)、6月20日(処理3日後)、6月24日(処理7日後)、7月2日(処理15日後)

各区中央10株の全葉に寄生するコナガを发育段階(若・中・老齢幼虫・蛹)別に数えた。

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で調査した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++:重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 コナガ (*Plutella xylostella*)

試験場名 長野県野菜花き試験場

3. 試 験 成 績

			10株あたりのコナガ虫数																		被害		
供試薬剤	希釈倍率	連制	散布前					処理3日後					処理7日後					処理15日後					
			6/17			蛹	計	6/20			蛹	計	6/24			蛹	計	7/2			計		
			幼虫					幼虫					幼虫					幼虫					
			若齢	中齢	老齢			若齢	中齢	老齢			若齢	中齢	老齢			若齢	中齢	老齢			
12) S Y J -295 D C 新規化合物100g/L Lot No.HWI002-041-002	4000倍	I	10	4	11	4	29	1	0	0	0	1	0	0	0	1	9	12	1	3	25	-	
		II	13	9	6	5	33	1	0	0	2	3	0	0	0	0	0	4	5	0	1	10	
		III	6	17	3	1	27	0	0	0	6	6	0	0	0	1	1	5	2	1	3	11	
		計	29.0	30.0	20.0	10.0	89.0	2.0	0.0	0.0	8.0	10.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	18.0	19.0	2.0	7.0	46.0	
		(補正密度指数)						(7.3)					(0.8)					(13.4)					
91)モベントフロアブル スピロトサート 22% Lot No.PD19K00006 013363	2000倍	I	17	7	3	2	29	12	9	6	1	28	10	21	6	4	41	17	59	36	26	138	
		II	10	18	6	2	36	6	5	3	3	17	10	18	13	5	46	23	40	40	36	139	
		III	7	17	5	0	29	4	10	7	3	24	5	23	3	3	34	21	46	28	15	110	
		計	34.0	42.0	14.0	4.0	94.0	22.0	24.0	16.0	7.0	69.0	25.0	62.0	22.0	12.0	121.0	61.0	145.0	104.0	77.0	387.0	
		(補正密度指数)						(47.8)					(43.2)					(107.0)					
対)プレオフロアブル ビリダリル 10%	1000倍	I	11	26	5	5	47	1	0	0	1	2	0	10	3	0	13	10	28	9	15	62	
		II	5	19	7	7	38	1	2	0	1	4	1	10	1	5	17	6	13	20	14	53	
		III	4	8	7	0	19	0	3	0	2	5	1	8	1	5	15	6	20	13	6	45	
		計	20.0	53.0	19.0	12.0	104.0	2.0	5.0	0.0	4.0	11.0	2.0	28.0	5.0	10.0	45.0	22.0	61.0	42.0	35.0	160.0	
		(補正密度指数)						(6.9)					(14.5)					(40.0)					
無処理		I	25	20	5	6	56	19	27	4	1	51	18	42	20	12	92	20	39	51	30	140	
		II	4	9	3	4	20	23	31	5	0	59	29	59	23	17	128	20	45	34	23	122	
		III	3	13	4	3	23	11	19	10	2	42	10	39	12	14	75	20	48	28	23	119	
		計	32.0	42.0	12.0	13.0	99.0	53.0	77.0	19.0	3.0	152.0	57.0	140.0	55.0	43.0	295.0	60.0	132.0	113.0	76.0	381.0	
		(補正密度指数)						(100)					(100)					(100)					

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

実用性の判定は、散布3、7日後の補正密度指数により行った。

12) SYJ-295DC 4000 倍希釈散布 AAA-

本剤 4000 倍希釈液散布は、対照薬剤のプレオフロアブル 1000 倍希釈液散布と比べ、優る防除効果が認められた。
無処理と比較して、高い防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

91) モベントフロアブル 2000 倍希釈散布 DCC-

本剤 2000 倍希釈液散布は、対照薬剤のプレオフロアブル 1000 倍希釈液散布と比べ、効果が劣った。やや遅効的ではあるが、
無処理と比較して、程度は低いものの効果が認められ、やや低い実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 ハイマダラノメイガ *Hellicia undalis*

試験場名 愛知県農業総合試験場東三河農業研究所

担当者氏名 増田 陽子

1. 試験目的 防除効果及び葉害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県豊橋市飯村町

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:すばる 播種日:2020年8月6日 定植日:2020年8月31日 栽植距離:畝幅60cm×株間30cm 1条植え

土性:軽埴土 栽培条件:露地栽培 育苗:128穴セルトレイ 試験期間中の防除薬剤:なし

施肥その他一般管理は慣行に準じた。

区制・面積・試験区の構成 1区 7.2 m² (1.2m×6m) 40株 3連制

3-I	3-II	1-III
2-I	1-II	2-III
1-I	2-II	3-III

1:SYJ295-DC 2:プレバソンフロアブル5 3:無処理

I II IIIは連制を示す。

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日)2020年9月14日

(処理時の作物のステージ)本葉8~10葉期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、180L/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。展着剤としてアグラー5000倍を添加した。

(処理前後の降雨影響) 9月13日に雨が降ったが、処理24時間以上前の降雨であり影響はないと思われる。

試験期間中の気象条件

月日	9/14	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29
平均気温(℃)	24.5	23.3	24.7	26.3	28.1	24.7	21.1	23.1	22.8	22.6	24.3	22.3	23.4	23.2	21.9	21.5
降水量(mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	3.5	0.0	0.0	41.0	0.0	0.0	0.0	0.0

観測地点:愛知県豊橋市のアメダスデータ

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、葉害の判断方法・時期を記載)

(調査月日)薬効試験:処理前(9月14日)、3日後(9月17日)、8日後(9月22日)、15日後(9月29日)

葉害試験:処理3日後(9月17日)、8日後(9月22日)、15日後(9月29日)

(調査方法)薬効は、各区区境を除く30株について株全体に生息虫数(発育ステージ別)及び芯どまり株率を調査した。

葉害は、茎葉を対象に、調査時に肉眼により観察し、葉害の症状の有無を以下の内容で確認した。

- :葉害を認めない。+ :軽微な葉害症状を認める。++ :中程度の葉害症状を認める。

+++ :重度の葉害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

対象病害虫名・学名 ハイマダラノメイガ *Hellula undalis*

試験場名 愛知県農業総合試験場東三河農業研究所

3. 試験成績

供試薬剤 有効成分名・量 Lot No.	希釈倍率 処理量	連制	30株あたり幼虫数												30株あたり芯どまり株率(%)		被害 9/17, 9/22, 9/29	葉害				
			散布前 (9/14)				処理3日後 (9/17)				処理8日後 (9/22)				処理15日後 (9/29)				散布前 (9/14)	処理15日後 (9/29)		
			若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢					老齢	合計
12) SYJ-295DC 新規化合物 100g/L HWI002-041-002	4000倍	I	5	5	7	17	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	—	
		II	4	6	2	12	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3.3	6.7	—	
		III	1	3	7	11	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	—	
		合計	10	14	16	40	3	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0				
		補正密度指数					6.4				0.0				0.0				平均 1.1	平均 2.2		
対) プレバソンフロアブル5 クロラントラニプロール 5.0%	2000倍	I	1	5	3	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	—		
		II	5	5	9	19	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0.0	3.3	—		
		III	5	4	1	10	1	0	1	2	0	1	1	2	0	0	0	0	3.3	3.3	—	
		合計	11	14	13	38	2	0	1	3	0	1	1	2	0	0	0	0				
		補正密度指数					5.1				8.6				0.0				平均 1.1	平均 2.2		
無処理	—	I	4	3	0	7	6	3	5	14	1	0	5	6	2	1	0	3	3.3	6.7		
		II	3	3	0	6	15	3	4	22	2	0	0	2	0	0	2	2	3.3	16.7		
		III	15	1	12	28	15	7	6	28	3	2	12	17	3	5	1	9	13.3	16.7		
		合計	22	7	12	41	36	13	15	64	6	2	17	25	5	6	3	14				
		補正密度指数					100				100				100				平均 6.7	平均 13.3		

4. 考察

効果の判定は処理3、8日後の補正密度指数を重視して行った。

12) SYJ-295DC 4000倍 散布 BAA-

本処理は、対照処理と比較してほぼ同等の効果であり、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

葉害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 ネキリムシ類 (カブラヤガ *Agrotis segetum*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会山梨試験場 担当者氏名 宮川直也、秋山空隆、丸山直哉、坂野真平、中西秀明

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 山梨県山梨市小原東 日植防山梨借り上げ圃場

対象病害虫発生状況 多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:ハイツ SP 購入苗 定植日:2020 年 9 月 16 日 露地栽培(枠内試験) 2 条植

栽植距離:畝間 120cm 条間 60cm 株間 30cm

施肥:2020 年 8 月 19 日 高度化成(14-14-14) 86kg/10a 土性:埴壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

供試虫の逃亡を防ぐため、波板を用いて試験区を区画した。

区制・面積・試験区の構成 1区 2.4 m²(2.0m×1.2m) 14 株 3 連制

4-I	2-I	1-I	3-I	2-II	4-II	1-II	3-II	1-III	4-III	2-III	3-III
-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------

1:アディオン乳剤 4000 倍、2:アディオン乳剤 8000 倍、3:ガードベイト A、4:無処理 I、II、IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020 年 9 月 18 日(生育期・定植 2 日後)

(処理方法) 試験薬剤は所定の濃度に希釈し、所定量(0.5L/m²)を株元にジョロを用いて灌注した。

対照薬剤は所定量(3kg/10a)を株元に散布した。

(処理前後の降雨) 降雨による試験への影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25
平均気温(℃)	26.2	25.1	20.4	21.0	20.8	20.0	20.5	19.4
降水量(mm)	0	0	3.0	0	0	0	0	14.5

日植防山梨場内気象データより

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:9 月 19 日(処理 1 日後)、9 月 21 日(処理 3 日後)、9 月 23 日(処理 5 日後)、9 月 25 日(処理 7 日後)

被害試験:9 月 19 日(処理 1 日後)、9 月 21 日(処理 3 日後)、9 月 23 日(処理 5 日後)、9 月 25 日(処理 7 日後)

(調査方法・調査基準) 被害調査:区内全株における被害を下記の通り程度別に分けて調査し、下記の式で被害度を算出した。

a:株元が切断された株数、b:株元は切断されていないが被害のある株数、c:健全株数、N:調査株数

被害度 = (3a+b)/3N × 100

虫数調査:死亡虫および苦悶虫を分けて調査した。死亡虫はその都度除去した。

被害は、茎葉を対象に調査時に肉眼により観察し、被害症状を下記の基準に従って程度別に調査した。

-:被害を認めない。+:軽微な被害症状を認める。++:中程度の被害症状を認める。+++ :重度の被害を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

9 月 18 日(処理後)にカブラヤガ 4 齢幼虫(日植防茨城提供虫:2019 年所内キャベツ圃場より採集し累代飼育した個体群)を区当たり

10 頭放虫した。鳥類による捕食を防ぐため試験区上部を防風網(4mm 目合い)で被覆した。

3. 試験成績

次頁に記載

4. 考察 (判定した時期、判定記号を記載)

効果の判定は処理 3 日後、5 日後、7 日後の被害度の対無処理比で行った。

20) アディオン乳剤 4000 倍および 8000 倍 生育期 0.5L/m²株元灌注 BAAーおよび CAAー本剤の 4000 倍生育期 0.5L/m²株元灌注は、対照のガードベイト A 3kg/10a 株元散布と比較して効果はほぼ同等、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。本剤の 8000 倍生育期 0.5L/m²株元灌注は、対照のガードベイト A 3kg/10a 株元散布と比較して効果はやや劣った。無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

本剤処理による被害症状は両濃度ともに認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 ネキリムシ類 (カブラヤガ *A. segetum*) 試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会山梨試験場

3. 試 験 成 績

薬効・薬害調査(被害度)

供試薬剤	処理方法	連制	処理1日後(9/19)						対無処 理比	処理3日後(9/21)						被害程度 9/19,21, 23,25
			調査 株数	被害程度			被害度	調査 株数		被害程度			被害度	対無処 理比		
				a	b	c				a	b	c				
20) アディオン乳剤 ベルトリン 20%	4000倍	I	14	0	0	14	0		14	0	0	14	0		—	
	生育期	II	14	1	0	13	7.1		14	1	0	13	7.1		—	
	0.5L/㎡	III	14	0	1	13	2.4		14	0	1	13	2.4		—	
	Lot.DA024F 株元灌注	平均					3.2	12.2					3.2	5.6		
20) アディオン乳剤 ベルトリン 20%	8000倍	I	14	1	1	12	9.5		14	2	2	10	19.0		—	
	生育期	II	14	0	0	14	0		14	0	0	14	0		—	
	0.5L/㎡	III	14	0	0	14	0		14	0	0	14	0		—	
	Lot.DA024F 株元灌注	平均					3.2	12.2					6.3	11.0		
対) ガードベイトA ベルトリン 0.1%	3kg/10a 株元散布	I	14	0	0	14	0		14	0	0	14	0		—	
		II	14	0	0	14	0		14	0	0	14	0		—	
		III	14	0	0	14	0		14	0	0	14	0		—	
		平均					0	0					0	0		
無処理	—	I	14	4	2	8	33.3		14	9	1	4	66.7		—	
		II	14	3	1	10	23.8		14	9	1	4	66.7		—	
		III	14	3	0	11	21.4		14	5	1	8	38.1		—	
		平均					26.2	100					57.2	100		

供試薬剤	処理方法	連制	処理5日後(9/23)						処理7日後(9/25)					
			調査 株数	被害程度			被害度	対無処 理比	調査 株数	被害程度			被害度	対無処 理比
				a	b	c				a	b	c		
20) アディオン乳剤	4000倍	I	14	0	0	14	0		14	0	0	14	0	
	生育期	II	14	1	0	13	7.1		14	1	0	13	7.1	
	0.5L/㎡	III	14	0	2	12	4.8		14	0	2	12	4.8	
	株元灌注	平均					4.0	6.0					4.0	5.8
20) アディオン乳剤	8000倍	I	14	2	1	11	16.7		14	2	0	12	14.3	
	生育期	II	14	0	0	14	0		14	0	0	14	0	
	0.5L/㎡	III	14	0	1	13	2.4		14	0	2	12	4.8	
	株元灌注	平均					6.4	9.6					6.4	9.3
対) ガードベイトA		I	14	0	1	13	2.4		14	0	1	13	2.4	
	3kg/10a	II	14	0	0	14	0		14	0	0	14	0	
	株元散布	III	14	0	0	14	0		14	0	0	14	0	
		平均					0.8	1.2					0.8	1.2
無処理		I	14	11	1	2	81.0		14	11	1	2	81.0	
	-	II	14	10	1	3	73.8		14	11	1	2	81.0	
		III	14	6	1	7	45.2		14	6	1	7	45.2	
			平均					66.7	100					69.1

薬効調査(死亡虫数)

供試薬剤	処理方法	連制	放虫数	処理1日後 9/19		処理3日後 9/21		処理5日後 9/23		処理7日後 9/25	
				苦悶	死亡*	苦悶	死亡*	苦悶	死亡*	苦悶	死亡*
20) アディオン乳剤 ベルトリン 20%	4000倍 生育期 0.5L/㎡ 株元灌注	I	10	5	0	0	9	0	9	0	9
		II	10	6	0	0	8	0	8	0	8
		III	10	2	1	0	6	1	6	0	7
		合計	30	13	1	0	23	1	23	0	24
		死虫率			3.3		76.7		76.7		80.0
20) アディオン乳剤 ベルトリン 20%	8000倍 生育期 0.5L/㎡ 株元灌注	I	10	5	0	2	5	0	6	0	6
		II	10	4	1	0	10	0	10	0	10
		III	10	4	1	1	7	0	7	1	9
		合計	30	13	2	3	22	0	23	1	25
		死虫率			6.7		73.3		76.7		83.3
対) ガードベイトA	3kg/10a 株元散布	I	10	9	0	0	9	0	10	0	10
		II	10	7	2	0	8	0	8	0	8
		III	10	4	1	1	5	0	5	0	5
		合計	30	20	3	1	22	0	23	0	23
		死虫率			10.0		73.3		76.7		76.7
無処理	—	I	10	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	10	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	10	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	30	0	0	0	0	0	0	0	0
		死虫率			0		0		0		0

*死亡虫数は累積値

対 象 病 害 虫 名 アザミウマ類(ネギアザミウマ) *Thrips tabaci*

試験場名 愛知県農業総合試験場

担当者氏名 石川博司、上田直人

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 試験場内

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 中発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別を記載)

品種:楽天 播種:2020年3月5日 定植:3月30日

栽植距離:畝幅 120 cm×株間 10 cm、4条植え

土性:砂壤土、施設栽培(ビニルハウス) 施肥・一般管理は慣行に準じた。試験期間中の防除薬剤はなし。

区制・面積 1区 2.0 m² (1.2×0.9m) 36株 3連制

1-I	4-II
2-I	4-III
4-I	1-III
3-I	2-III
1-II	3-II
2-II	3-III

1:ディアナSC 2500倍

2:ディアナSC 5000倍

3:スピノエース顆粒水和剤

4:無処理

I, II, IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年4月17日 (作物のステージ) 展開期(本葉6~8枚)

(処理方法) 各剤所定濃度の薬液を、肩掛け噴霧器を用いて十分量(約200L/10a)散布した。展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨) 施設栽培のため降雨の影響はなかった。

月日	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24
平均気温(°C)	18.1	16.1	20.2	16.2	16.1	14.5	14.4	14.4

観測地:愛知県農業総合試験場

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 2020年4月17日(散布前)、4月20日(散布3日後)、4月24日(散布7日後)

(調査方法) 薬効は、各区中央付近の14株についての生息虫数を成幼虫別に調査した。

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼観察した。

-:薬害を認めない。+軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

3月30日に区あたり成虫30頭(2020年春に愛知県碧南市のタマネギから採取し、飼育した個体)を放虫した。

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍率	連制	14株当たりの生息虫数									補正密度指数		薬害	
			散布前(4/17)			散布3日後(4/20)			散布7日後(7/24)			3日後	7日後	3日後	7日後
			成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計				
54)ディアナSC スピネトラム 11.7% Lot PAA466	2500	I	4	36	40	0	0	0	0	0	0	0.0	0.7	-	-
		II	15	55	70	0	0	0	0	1	1			-	-
		III	10	60	70	0	0	0	0	0	0			-	-
		合計	29	151	180	0	0	0	0	1	1				
	5000	I	7	37	44	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	-	-
		II	8	34	42	0	0	0	0	0	0			-	-
		III	13	64	77	0	0	0	0	0	0			-	-
		合計	28	135	163	0	0	0	0	0	0				
対) スピノエース顆粒水和剤 スピノサド 25.0%	2500	I	4	49	53	0	4	4	0	0	0	3.2	1.2	-	-
		II	11	112	123	0	0	0	0	0	0			-	-
		III	4	38	42	0	0	0	0	2	2			-	-
		合計	19	199	218	0	4	4	0	2	2				
無 処 理		I	7	27	34	6	42	48	3	65	68	100	100		
		II	8	37	45	2	16	18	3	24	27				
		III	7	49	56	0	11	11	0	8	8				
		合計	22	113	135	8	69	77	6	97	103				

対 象 病 害 虫 名 アザミウマ類(ネギアザミウマ) *Thrips tabaci*

試験場名 愛知県農業総合試験場

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

判定は散布3, 7日後の補正密度指数で行った。

54) ディアナSC 2500 倍 BAA- 5000 倍 BAA-

本剤 2500 倍散布及び 5000 倍散布は、対照のスピノエース顆粒水和剤 2500 倍散布と比較して防除効果は同等で、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 コナガ *Plutella xylostella*

試験場名 愛知県農業総合試験場

担当者氏名 藤田智美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 愛知県農業総合試験場内ほ場

対象病害虫発生状況 中発生(放虫)、一部自然発生あり

耕種概要

品種:夏楽天 播種:令和2年5月12日 施設栽培(ビニルハウス)

条間15cm×株間15cm、4条植え 施肥・栽培管理は慣行に準じた。

土性:砂壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成

1区1.16㎡(0.7m×1.65m)、44株/区、3連制 試験区の構成は末尾に記載

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 令和2年6月5日 (作物ステージ) 本葉8枚程度、草丈約25cm程度、収穫期

(処理方法) 供試薬剤および対照薬剤を所定濃度に希釈し、肩掛式噴霧器を用いて10aあたり200L相当量を散布した。

(試験期間中の降雨) 施設栽培のため、降雨の影響はなかった

試験期間中の気象条件

月日	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12
平均気温(℃)	26.6	29.7	28.0	28.9	29.4	28.1	24.8	25.0	26.6

観測地点:当該施設

調査月日・方法

(調査月日) 散布当日(6月5日)、処理3日後(6月8日)、処理7日後(6月12日)

(調査方法) 処理前にコナガの寄生が認められる株を各区22株ずつマークし、その全葉について寄生する虫数を発育ステージ別に調査した。被害は各調査日に肉眼観察した。

その他

2020年3月に南知多町のナバナから採集及び4月に豊橋市のキャベツから採集して累代飼育したコナガの卵と若齢幼虫を、6月2日に1区あたり合計約50～80頭程度放虫した。また、6月4日にはコナガの若齢及び中齢幼虫を1区あたり合計約30頭程度追加で放虫した。試験の薬剤処理はコナガの定着を確認後に行った。

3. 試験成績

供試薬剤 成分量(%)	希釈倍数	連制	22株当たりの寄生虫数									
			散布前 (6/5)					3日後 (6/8)				
			若齢	中齢	老齢	蛹	合計	若齢	中齢	老齢	蛹	合計
73) ファインセーブフロアブル フロマトキン 10.0% Lot. No. 904041H 対) アニキ乳剤	2000倍	I	83	15	24	0	122	4	5	4	5	18
		II	25	5	1	0	31	2	0	1	4	7
		III	21	18	20	0	59	8	4	6	8	26
		合計	129	38	45	0	212	14	9	11	17	51
レビメクチン 1.0%	2000倍	I	19	15	12	0	46	6	2	5	9	22
		II	57	17	18	0	92	15	10	12	8	45
		III	27	20	19	0	66	6	7	5	8	26
		合計	103	52	49	0	204	27	19	22	25	93
無 処 理	—	I	14	23	5	0	42	36	14	4	9	63
		II	39	8	7	0	54	24	17	19	12	72
		III	35	17	22	0	74	35	27	14	12	88
		合計	88	48	34	0	170	95	58	37	33	223

供試薬剤 成分量(%)	希釈倍数	連制	22株当たりの寄生虫数					補正密度指数		被害		
			7日後 (6/12)					3日後	7日後	6/5	6/8	6/12
			若齢	中齢	老齢	蛹	合計					
73) ファインセーブフロアブル フロマトキン 10.0% Lot. No. 904041H 対) アニキ乳剤	2000倍	I	0	1	3	7	11	18.3	13.5	—	—	—
		II	1	2	0	2	5					
		III	1	7	0	8	16					
		合計	2	10	3	17	32					
レビメクチン 1.0%	2000倍	I	1	0	0	4	5	34.8	24.1	—	—	—
		II	2	9	9	9	29					
		III	2	4	3	12	21					
		合計	5	13	12	25	55					
無 処 理	—	I	24	40	47	14	125	100	100	—	—	—
		II	0	3	1	12	16					
		III	4	12	12	21	49					
		合計	28	55	60	47	190					

対象病害虫名 コナガ *Plutella xylostella*

試験場名 愛知県農業総合試験場

4. 考 察

実用性の判定は、散布3、7日後の補正密度指数で行った。

73) ファインセーブフロアブル 2000倍希釈液散布 ABB-

本薬剤は、対照薬剤のアニキ乳剤2000倍希釈液散布と比較してまさる効果を示し、無処理と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

試験区の構成

2 - I	1 - I	3 - I
-------	-------	-------

3 - II	2 - II	2 - III
--------	--------	---------

1 - II	3 - III	1 - III
--------	---------	---------

1:ファインセーブフロアブル 2:アニキ乳剤 3:無処理
I, II, IIIは連制を示す

対象病害虫・学名 ナメクジ類(チャコウラナメクジ) *Ambigolimax valentianus*

試験場名 静岡県農林技術研究所

担当者氏名 土井 誠・斉藤千温・吉崎涼花

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 静岡県磐田市富丘 678-1 静岡県農林技術研究所

対象病害虫発生状況 多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種: 菜々美小松菜 播種: 2020年6月11日 栽植距離: 畝間150cm×株間15cm 3条蒔き

土性: 壤土 施設栽培(隔離ベッド) 施肥その他一般管理は慣行に準じた。

試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区 3.4 m² (2.25m×1.5m) 24株 3連制

3-I	2-I	1-I
-----	-----	-----

2-II	1-II	3-II
------	------	------

1-III	3-III	2-III
-------	-------	-------

1: クプロシールド(試験剤) 2: スラゴ(参考剤) 3: 無処理 I II IIIは連制を示す。

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

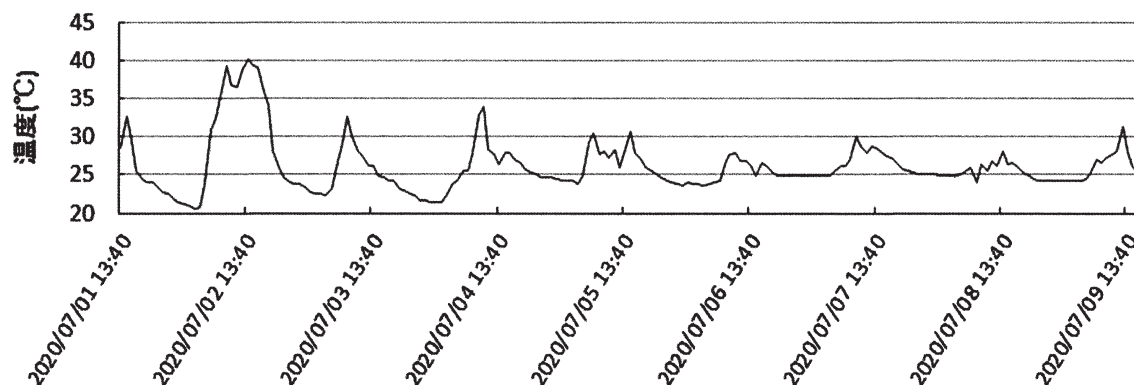
(処理年月日) 2020年7月1日 午後6時

(処理時の作物のステージ) 生育期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、10a当たり175Lの割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。展着剤は使用しなかった。なお、参考薬剤は所定量を区内土壌表面に作物体に接触しないように株元に配置した。

(処理前後の降雨影響) 施設栽培のため、降雨なし

試験期間中の気象条件



観測地点: 研究所内試験施設の隣接施設内

試験期間中の気温 平均: 26.2°C、最高 40.2°C、最低 20.6°C

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理2日後(7月3日)、4日後(7月5日)、6日後(7月7日)、8日後(7月9日)

(調査方法) 薬効は、各区の生存、死亡(苦悶含む)個体数を調査した。なお、死亡・苦悶個体は調査毎に除去した。また、各区全株について、被害程度(無:被害なし、少:わずかな食害あり、中:顕著な食害あり、多:酷い食害あり)を調査して、被害度を算出した。

被害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

-: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。

+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

処理の3時間前にチャコウラナメクジ(研究所内で2020年6月30日採集)を各区20頭放虫した。また、ナメクジの隠れ場所として水で

対象病害虫名・学名 ナメクジ類(チャコウラナメクジ) *Ambigolimax valentianus*

試験場名 静岡県農林技術研究所

湿らせた段ボール(10×15cm)を各区内3カ所に設置した。

ナメクジの逃亡防止のためスポンジ(10mm(幅)×15mm(厚))を隔離ベッドのふち(地面から約10cm)に区を仕切るように貼り、そこに台所用洗剤の原液を染みこませた。

3. 試験成績

1) 薬効(被害程度)

供試薬剤	処理量 処理方法	連 査 株 数	調 査 株 数	程度別被害株数																被害 7/3, 5,7, 9				
				処理 2 日後(7/3)					処理 4 日後(7/5)					処理 6 日後(7/7)					処理 8 日後(7/9)					
				無	少	中	多	被害 度	無	少	中	多	被害 度	無	少	中	多	被害 度	無	少	中	多	被害 度	
109)クプロシールド 塩基性硫酸銅 26.9% LotNo.B-18098	1,000 倍	I	40	37	3	0	0	1.5	29	9	2	0	7.5	27	11	2	0	8.5	25	11	4	0	11.5	-
		II	40	38	2	0	0	1.0	32	7	1	0	5.0	29	10	1	0	6.5	26	10	4	0	11.0	-
		III	40	35	5	0	0	2.5	31	8	1	0	5.5	25	14	1	0	8.5	20	19	1	0	11.0	-
		計	120	110	10	0	0	1.7	92	24	4	0	6.0	81	35	4	0	7.8	71	40	9	0	11.2	-
		防除価					52.4					65.0					62.7					60.8		
参考)スラゴ 磷酸第二鉄水和物 0.98% LotNo.701K	5g/m ² 株元配置	I	40	39	1	0	0	0.5	34	6	0	0	3.0	33	7	0	0	3.5	31	9	0	0	4.5	-
		II	40	38	2	0	0	1.0	35	4	1	0	3.5	31	7	2	0	6.5	30	7	3	0	8.0	-
		III	40	38	2	0	0	1.0	34	5	1	0	4.0	33	6	1	0	4.5	31	8	1	0	5.5	-
		計	120	115	5	0	0	0.8	103	15	2	0	3.5	97	20	3	0	4.8	92	24	4	0	6.0	-
		防除価					76.2					79.6					77.0					78.9	-	
無処理		I	40	32	8	0	0	4.0	20	12	8	0	18.0	13	17	10	0	23.5	10	11	19	0	34.0	-
		II	40	36	4	0	0	2.0	27	10	3	0	9.5	22	15	3	0	12.0	18	16	6	0	17.0	-
		III	40	31	9	0	0	4.5	20	6	14	0	24.0	13	13	14	0	27.5	11	9	20	0	34.5	-
		計	120	99	21	0	0	3.5	67	28	25	0	17.2	48	45	27	0	21.0	39	36	45	0	28.5	-
																								-

被害度 = {(A+3B+5C)/5D} × 100 A:被害程度少の株数、B:被害程度中の株数、C:被害程度多の株数、D:調査株数

防除価 = (1 - 処理区の処理○日後の被害度 / 無処理区の処理○日後の被害度) × 100

2) ナメクジ個体数

供試薬剤	処理量 処理方法	連制	放虫 数	処理2日後(7/3)				処理4日後(7/5)				処理6日後(7/7)				処理8日後(7/9)			
				累積				累積				累積				累積			
				生	死	不明	死亡率	生	死	不明	死亡率	生	死	不明	死亡率	生	死	不明	死亡率
109)クプロシールド 塩基性硫酸銅 26.9% LotNo.B-18098	1,000 倍	I	20	12	0	8	0	18	0	2	0	19	0	1	0	19	0	1	0
		II	20	15	0	5	0	17	0	3	0	17	0	3	0	17	0	3	0
		III	20	15	0	5	0	17	0	3	0	13	0	7	0	13	0	7	0
		計	60	42	0	18	0	52	0	8	0	49	0	11	0	49	0	11	0
参考)スラゴ 磷酸第二鉄水和物 0.98% LotNo.701K	5g/m ² 株元配置	I	20	12	4	4	20	4	11	5	55	4	11	5	55	2	11	7	55
		II	20	3	10	7	50	4	12	4	60	2	13	5	65	0	14	6	70
		III	20	14	2	4	10	6	9	5	45	1	12	7	60	2	12	6	60
		計	60	29	16	15	26.7	14	32	14	53	7	36	17	60	4	37	19	61.7
無処理		I	20	9	0	11	0	13	0	7	0	11	0	9	0	14	0	6	0
		II	20	12	0	8	0	17	0	3	0	15	1	4	5	14	1	5	5
		III	20	14	0	6	0	15	0	5	0	6	0	14	0	13	0	7	0
		計	60	35	0	25	0	45	0	15	0	32	1	27	1.7	41	1	18	1.7

4. 考察

実用性の判定は、処理4、6、8日後の被害度に基づく防除価により行った。

109) クプロシールド 1,000 倍 散布 -CC-

本処理は、無処理と比較して効果は認められるがその程度はやや低かった。効果はやや低い実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 ナメクジ類(チャコウラナメクジ *Ambigolimax valentianus* 主体)

試験場名 愛知県農業総合試験場

担当者氏名 加藤 賢治

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 1-1 愛知県農業総合試験場

対象病害虫発生状況 多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種: はまつづき 播種日: 2020 年 5 月 11 日 定植日: 6 月 8 日 栽植距離: 畝幅 40cm × 株間 33cm 1 条植え(播き)

土性: 砂壤土(1.2 × 1.0 m のライシメータを使用)

露地栽培 施肥その他一般管理は慣行に準じた。

試験期間中の防除薬剤: 6 月 3 日 プレバソンフロアブル 5

区制・面積・試験区の構成 1 区 1.2 m² (1.2m × 1.0m) 9 株 3 連制

1-I	2-I	1-II	2-II	1-III	2-III
-----	-----	------	------	-------	-------

1: クプロシールド区 2: 無処理区 I II III は連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020 年 6 月 15 日

(処理時の作物のステージ) 展葉期(本葉 9 ~ 10 枚)

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、200L/10a の割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式噴霧機を用いて散布した。

(処理前後の降雨影響) 処理前後に降雨はなかったため影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	6月13日	6月14日	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月21日	6月22日
平均気温 (°C)	22.6	23.6	26	23.7	22.9	19.6	18.7	21.9	22.5	23
降水量 (mm)	18.5	9.5	0	0	0	16	36	0	0	0

観測地点: 愛知県農業総合試験場

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理 1 日後(6 月 16 日)、3 日後(6 月 18 日)、5 日後(6 月 20 日)、7 日後(6 月 22 日)

(調査方法) 薬効は、9 株全てについてナメクジによる食害程度(多: 20% 以上、中: 5 ~ 20% 未満、少: 5% 未満、無: 0%)を調査した。

ナメクジの生死は、最終調査日に行った。薬害は調査日ごとに観察した。

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

- : 薬害を認めない。+ : 軽微な薬害症状を認める。++ : 中程度の薬害症状を認める。

+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

薬剤を散布・乾燥後に愛知県農業総合試験場内で採集したナメクジを 1 区あたり 20 頭放飼した。ナメクジの生育場所としてライシメータ枠内両側と株間に防草シート(約 20cm 幅)を敷き、逃亡防止のため 1mm 目の防虫ネットを用いてライシメータ上面を覆い封鎖した。さらに、全体を遮光ネットで被覆した。試験期間中は適宜、遮光ネット上からかん水を行った。

対象病害虫名・学名 ナメクジ類(チャコウラナメクジ *Ambigolimax valentianus* 主体)

試験場名 愛知県農業総合試験場

3. 試 験 成 績

表1 食害程度別株数、被害度、防除価、死生別個体数

供試薬剤 有効成分・量	処理量 (処理方法)	連制	食害程度別株数 処理1日後(6/16)						食害程度別株数 処理3日後(6/18)						食害程度別株数 処理5日後(6/20)					
			多	中	少	無	被害度	防除価	多	中	少	無	被害度	防除価	多	中	少	無	被害度	防除価
109) クプロシールド	1,000倍	I	0	0	0	9	0.0		0	0	1	8	1.2		0	0	2	7	2.5	
塩基性硫酸銅 26.9%	200L/10a	II	0	0	0	9	0.0		0	0	1	8	1.2		0	0	2	7	2.5	
(銅として14.8%)	散布	III	0	0	0	9	0.0		0	0	3	6	3.7		0	0	3	6	3.7	
Lot. B-18098		平均					0.0	100.0					2.1	80.0					2.9	74.1
無処理区	—	I	0	0	3	6	3.7		0	0	8	1	9.9		0	0	9	0	11.1	
		II	0	0	1	8	1.2		0	0	8	1	9.9		0	0	9	0	11.1	
		III	0	0	6	3	7.4		0	0	9	0	11.1		0	0	9	0	11.1	
		平均					4.1	—					10.3	—					11.1	—

被害度 = [(多×9 + 中×3 + 少×1) ÷ { 調査株数(9)×9 }] × 100
防除価は被害度の平均値から算出した。

供試薬剤 有効成分・量	処理量 (処理方法)	連制	食害程度別株数 処理7日後(6/22)						死生別個体数 処理7日後(6/22)		
			多	中	少	無	被害度	防除価	死亡	生存	不明
109) クプロシールド	1,000倍	I	0	0	2	7	2.5		0	2	18
塩基性硫酸銅 26.9%	200L/10a	II	0	0	2	7	2.5		1	1	18
(銅として14.8%)	散布	III	0	0	4	5	4.9		0	0	20
Lot. B-18098		平均					3.3	75.8			
無処理区	—	I	0	1	8	0	13.6		0	1	19
		II	0	1	8	0	13.6		0	1	19
		III	0	1	8	0	13.6		1	1	18
		平均					13.6	—			

被害度 = [(多×9 + 中×3 + 少×1) ÷ { 調査株数(9)×9 }] × 100
防除価は被害度の平均値から算出した。

表2 薬害程度

供試薬剤 有効成分・量	処理量 (処理方法)	連制	調査日			
			6/16	6/18	6/20	6/22
109) クプロシールド	1,000倍	I	—	+	+	+
塩基性硫酸銅 26.9%	200L/10a	II	—	+	+	+
(銅として14.8%)	散布	III	—	+	+	+
Lot. B-18098						
無処理区	—	I	—	—	—	—
		II	—	—	—	—
		III	—	—	—	—

4. 考 察

実用性の判定は、処理 1、3、5、7 日後の防除価より行った。

109) クプロシールド 1000 倍散布 —BB±(実用上問題ない)

本処理は、無処理と比較して防除効果はあったと思われる。実用性はあると考えられる。

薬害は葉裏の褐変が見られた。しかしながら、ナメクジの被害を促進するための遮光や多かん水が発生を助長したものと思われ、実用上は問題ないものと思われた。

対象病虫害名・学名 アブラムシ類 (ワタアブラムシ *Aphis gossypii*)

試験場名 長野県野菜花き試験場

担当者氏名 芹澤啓明

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 長野県塩尻市大字宗賀字床尾 1066-1 長野県野菜花き試験場ほ場内

対象病虫害発生状況 少発生(自然発生)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別を記載)

品種:ニューシナノ 播種:2020年4月28日 定植:5月15日 露地白黒ダブルマルチ栽培

栽植距離:畝幅90cm、条間20cm×株間20cm 4条植え 施肥:くみあい粒状複合N552号s N=1.2Kg/a

土性:埴壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 2.25 m² (0.9×2.5m) 40株(4条×10株) 3連制

A I	B I	C I
B II	C II	A II
C III	A III	B III

A: 無処理 B: アクタラ顆粒水溶剤

C: 対) モスピラン顆粒水溶剤

I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年6月5日 (作物のステージ) 茎葉生育初期(葉長10cm程度)

(処理方法) バッテリー式動力噴霧器により、規定の濃度に希釈した薬液を茎葉全体に十分量(300L/10a相当)散布した。

(処理前後の降雨影響) 処理8日後(6月13日、65.0mm)及び9日後(6月14日、18.5mm)に強い降雨があり、無処理区において生虫数の減少が認められた。

試験期間中の気象条件

月 日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日	6月8日	6月9日	6月10日
平均気温(°C)	20.6	21.5	22.7	20.3	19.3	20.8	22.7	23.1
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	0	0
月 日	6月11日	6月12日	6月13日	6月14日	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日
平均気温(°C)	21.8	21.0	19.2	21.5	23.8	21.0	20.4	18.0
降水量(mm)	36.5	0	65.0	18.5	0.5	0	0	9.0

観測地点: 長野県野菜花き試験場内気象観測装置データ

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験: 6月4日(処理前日)、6月8日(処理3日後)、6月11日(処理6日後)、6月18日(処理13日後)

薬害試験: 6月5日(散布直前)、6月8日(処理3日後)、6月11日(処理6日後)、6月18日(処理13日後)

処理前日(6月4日)にワタアブラムシの生息が確認された10株をマークし、全葉に生息するワタアブラムシを有翅、無翅別に計数した。処理3日後(6月8日)、処理6日後(6月11日)及び処理13日後(6月18日)にはマークした10株について、全葉に生息するワタアブラムシを有翅、無翅別に計数した。

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で調査した。

-: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。+++: 重度の薬害症状を認める。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 アブラムシ類 (ワタアブラムシ *Aphis gossypii*)

試験場名 長野県野菜花き試験場

3. 試 験 成 績

供 試 薬 剤	希 積 倍数	散 布 液量	連 制	10株当たりワタアブラムシ生虫数（補正密度指数）												葉害 6/5,8, 6/11, 6/18
				6月4日 (処理前日)			6月8日 (処理3日後)			6月11日 (処理6日後)			6月18日 (処理13日後)			
				有翅	無翅	計	有翅	無翅	計	有翅	無翅	計	有翅	無翅	計	
15) アクタラ顆粒水溶剤 チアメトキサム 10.0% Lot No. SIK8KW2006 2,000倍	300L /10a	2,000倍	I	18	12	30	10	1	11	14	0	14	1	3	4	-
			II	30	20	50	10	0	10	4	4	8	3	4	7	-
			III	15	27	42	12	1	13	13	0	13	7	2	9	-
			計	63	59	122	32	2	34	31	4	35	11	9	20	
			補正密度指数				(2.9)			(2.4)			(43.3)			
対) モスピラン顆粒水溶剤 アセタミプリド 20.0% 4,000倍	300L /10a	4,000倍	I	10	10	20	6	2	8	15	7	22	6	1	7	-
			II	13	33	46	4	0	4	8	1	9	1	4	5	-
			III	17	16	33	4	0	4	8	2	10	8	2	10	-
			計	40	59	99	14	2	16	31	10	41	15	7	22	
			補正密度指数				(2.9)			(5.9)			(33.7)			
無 処 理			I	12	16	28	31	19	50	14	50	64	3	11	14	-
			II	25	10	35	14	25	39	14	81	95	5	3	8	-
			III	18	45	63	13	39	52	10	73	83	3	11	14	-
			計	55	71	126	58	83	141	38	204	242	11	25	36	
			補正密度指数				(100)			(100)			(100)			

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

処理 13 日後に、6月 13 日の降雨 (65.0mm) に伴う無処理区における生虫数の減少が認められたこと、また有翅虫の発生が多い条件での試験となったことから、実用性の判定は処理 3 及び 6 日後における無翅虫の補正密度指数により行った。

15) アクタラ顆粒水溶剤 2,000 倍希釈散布 BAA-

本剤 2,000 倍希釈液散布はのざわなのワタアブラムシに対して、対照薬剤のモスピラン顆粒水溶剤 4000 倍希釈液散布と比べて同等の防除効果が認められた。無処理と比較して、高い効果が認められた。実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 アブラムシ類(ワタアブラムシ *Aphis gossypii*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

担当者氏名 小林政文、横田佑哉、小林希美、林 直人

1. 試 験 目 的 (依 頼 事 項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 茨城県牛久市結束町 535 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 少発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:とちおとめ 定植:2020年9月26日 栽植距離:畝間 150 cm 株間 25cm 条間 25cm 2条植え

施設栽培 施肥等は現地慣行に準じた。土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積 1区 8.1 m² (1.5×5.4m) 42株 3連積

試験区の構成

2-I	3-II	1-III	1:BAI-1604SL
1-I	2-II	3-III	2:ベリマークSC
3-I	1-II	2-III	3:無処理

I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年9月26日(定植時:草丈 20cm 程度)

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、ポットあたり 50ml を計量カップを用いて灌注した。

(処理前後の降雨影響) 施設栽培のため、影響はない。

試験期間中の気象条件

月日	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10	10/11	10/12
平均気温(℃)	18.8	19.0	19.8	18.3	18.4	17.8	18.3	20.0	20.7	20.2	18.6	17.1	14.5	15.5	17.3	20.1	20.0
降水量(mm)	3.0	0	0	0	0	2.0	0	0	0	0.5	0	4.5	32.0	17.5	54.0	0	1.0

月日	10/13	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29
平均気温(℃)	20.0	18.5	15.5	14.8	12.2	14.0	12.7	14.2	14.5	16.6	17.0	15.4	12.9	13.6	14.4	14.6	15.3
降水量(mm)	0	0	6.5	0	22.0	1.0	8.0	0	0	0	8.0	0.5	0	0	0	0	0

アメダスデータ(観測地点:茨城県龍ヶ崎市)より引用

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 散布前(10月16日)、散3日後(10月19日)、同6日後(10月22日)、同10日後(10月26日)

(調査方法) 各区中央 10 株に生息するワタアブラムシを有翅・無翅別に調査した。10月22日、26日は、各区中央 20 株について調査した。

薬害は、茎葉を対象に調査時に肉眼により観察し、薬害症状を以下の内容で観察した。

- : 薬害を認めない。+ : 軽微な薬害症状を認める。++ : 中程度の薬害症状を認める。

+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

9月29日、10月10日に所内キュウリに発生したワタアブラムシを区あたり 200 頭程度放虫した。放虫方法として、アブラムシが寄生するキュウリ葉をイチゴ株直上、または株元付近に配置した。

対 象 病 害 虫 名 アブラムシ類(ワタアブラムシ *Aphis gossypii*) 試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

3. 試 験 成 績

供試薬剤	処理方法	連制	10株あたりの生息虫数					
			処理10日後 10月6日			処理18日後 10月14日		
			有翅	無翅	合計	有翅	無翅	合計
2) BAI-1604SL シンプロビタス [®] 120g/L Lot.FD-191014-1029	500倍 50ml/ポット 植付前灌注	I	0	0	0	0	1	1
		II	0	0	0	0	0	0
		III	0	0	0	0	0	0
		合計	0	0	0	0	1	1
		密度指数	0			0.7		
対照 ベリマークSC シアントラニプロール18.7%	1000倍 50ml/ポット 植付前灌注	I	0	0	0	0	0	0
		II	0	0	0	0	2	2
		III	0	0	0	0	0	0
		合計	0	0	0	0	2	2
		密度指数	0			1.4		
無処理	—	I	0	47	47	2	95	97
		II	0	58	58	0	18	18
		III	0	25	25	0	29	29
		合計	0	130	130	2	142	144
		密度指数	100			100		

供試薬剤	処理方法	連制	20株あたりの生息虫数						薬害 (10/6, 10/14, 10/22, 10/29)
			処理26日後 10月22日			処理33日後 10月29日			
			有翅	無翅	合計	有翅	無翅	合計	
2) BAI-1604SL	500倍 50ml/ポット 植付前灌注	I	1	0	1	0	0	0	—
		II	0	0	0	0	0	0	—
		III	0	0	0	0	0	0	—
		合計	1	0	1	0	0	0	
		密度指数	7.1			0			
対照 ベリマークSC	1000倍 50ml/ポット 植付前灌注	I	2	0	2	0	0	0	—
		II	0	0	0	0	0	0	—
		III	1	0	1	0	0	0	—
		合計	3	0	3	0	0	0	
		密度指数	21.4			0			
無処理	—	I	3	7	10	0	0	0	—
		II	2	0	2	0	0	0	—
		III	2	0	2	2	0	2	—
		合計	7	7	14	2	0	2	
		密度指数	100			100			

4. 考 察

実用性の判定は、処理 10、18 日後の密度指数で行った。なお、試験期間を通してアブラムシ密度が低く、減少していく中での試験であった。

2) BAI-1604SL 500 倍 50ml/ポット 植付前 灌注 BAA-

本剤 500 倍 50ml/ポット 植付前 灌注は、対照のベリマーク SC 1000 倍 50ml/ポット 植付前 灌注と比べて、同等の防除効果が認められた。無処理と比べ、高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 アブラムシ類(ワタアブラムシ *Aphis gossypii*)

試験場名 静岡県農林技術研究所

担当者氏名 斉藤千温・土井誠・吉崎涼花

1. 試験目的 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 静岡県磐田市富丘 農林技術研究所内

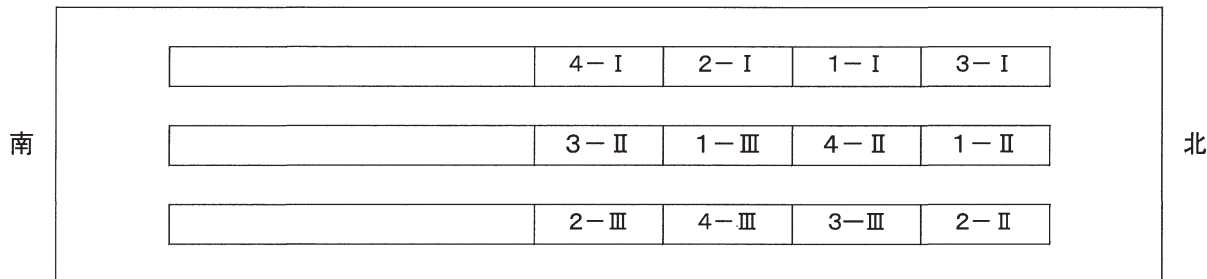
対象病害虫発生状況 中発生(接種)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:“きらび香” 定植:2019年10月8日 所内ビニルハウス地床栽培(畝幅80cm、畝間150cm、条間40cm、株間30cm 千鳥)。

土性:壤土。施肥等(元肥):イチゴ配合5-6-5 300kg/10a、エコロンG 180日 50kg/10a、苦土石灰 60kg/10a

試験期間中の使用薬剤:2019年10月18日スパイデックス、スパイカル EX 放飼、2020年1月27日ウララ DF4000 倍。

区制・面積・試験区の構成 1区 20株、6.9 m² (2.3m×3.0m)、3連制。

1:BAI-1604SL×1000倍、2:BAI-1604SL×2000倍、3:ウララDF×2000倍、4:無処理

I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

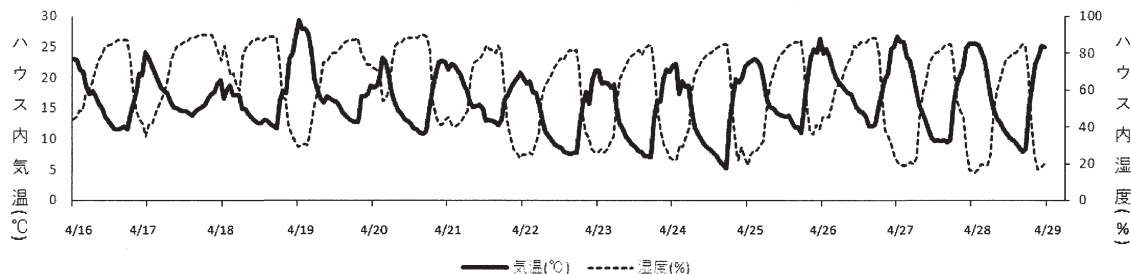
(処理年月日) 2020年4月22日

(作物のステージ) 収穫期

(処理方法) 電動式背負い噴霧器を用いて10aあたり150Lを散布した。展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨) 施設栽培のため、降雨の直接の影響はなかった。

試験期間中の気象条件(施設内環境) ハウス内の気温・湿度はRTR-502iで1時間ごとに測定した。



調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 散布直前(4月22日)、3日後(4月25日)、7日後(4月29日)

(調査方法) 放虫したアブラムシの定着および幼虫が認められてから散布を行った。

区境の株を除く各区14株について、株全体に寄生している有翅虫と無翅虫を調査した。被害は寄生調査の都度確認を行った。

密度指数は下記の式によって求めた。

$$\text{密度指数} = (\text{処理区の}\odot\text{日後の密度} \div \text{無処理区の}\odot\text{日後の密度}) \times 100$$

被害は茎葉および果実を対象に、各調査時に肉眼により観察し、被害症状の有無を下記の内容で観察した。

-:被害を認めない +:軽微な被害症状を認める ++:中程度の被害症状を認める +++:重度の被害症状を認める

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

自然発生も認められたが、2020年4月16日(初回薬剤散布6日前)に、農林技術研究所内の施設イチゴより放虫当日に採集したワタアブラムシ個体群の無翅成虫を、面相筆で株あたり3頭新葉へ放虫した。

対象病害虫名・学名 アブラムシ類(ワタアブラムシ *Aphis gossypii*)

試験場名 静岡県農林技術研究所

3. 試験成績

薬効試験

供試薬剤 Lot No.	希釈 倍率	連制	調査 株数	14株あたりの寄生虫数								
				処理前 (4/22)			処理3日後 (4/25)			処理7日後 (4/29)		
				有翅	無翅	計	有翅	無翅	計	有翅	無翅	計
2) BAI-1604SL ジンプロピリダズ 120g/L Lot No. FD-180817-00008A	1000倍	I	14	1	55	56	0	8	8	0	2	2
		II	14	0	39	39	1	7	8	1	1	2
		III	14	0	40	40	0	13	13	1	0	1
		計	42	1	134	135	1	28	29	2	3	5
		(補正密度指数)						(19.4)				(1.0)
2) BAI-1604SL ジンプロピリダズ 120g/L Lot No. FD-180817-00008A	2000倍	I	14	1	121	122	0	61	61	0	3	3
		II	14	0	13	13	0	17	17	0	0	0
		III	14	2	10	12	2	12	14	0	2	2
		計	42	3	144	147	2	90	92	0	5	5
		(補正密度指数)						(56.5)				(0.9)
対)ウララDF フロニカミド 10% Lot No. 004360	2000倍	I	14	2	198	200	1	42	43	0	4	4
		II	14	1	4	5	0	5	5	0	4	4
		III	14	0	6	6	0	4	4	0	0	0
		計	42	3	208	211	1	51	52	0	8	8
		(補正密度指数)						(22.2)				(1.0)
無処理		I	14	0	28	28	0	29	29	0	106	106
		II	14	1	53	54	1	64	65	1	186	187
		III	14	2	18	20	0	19	19	0	84	84
		計	42	3	99	102	1	112	113	1	376	377
		(補正密度指数)						(100)				(100)

薬害試験

供試薬剤	希釈 倍率	連制	調査 株数	調査日		
				4/22	4/25	4/29
2) BAI-1604SL	1000倍	I	14	-	-	-
		II	14	-	-	-
		III	14	-	-	-
2) BAI-1604SL	2000倍	I	14	-	-	-
		II	14	-	-	-
		III	14	-	-	-
対)ウララDF	2000倍	I	14	-	-	-
		II	14	-	-	-
		III	14	-	-	-
無処理		I	14	-	-	-
		II	14	-	-	-
		III	14	-	-	-

4. 考察 (判定した時期、判定記号を記載)

実用性の判定は、散布7日後の補正密度指数より行った。

2) BAI-1604SL 1000倍散布 BAA-

本剤の1000倍散布は、対照のウララDF2000倍散布とほぼ同等の効果を示し、無処理区と比較して防除効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

2) BAI-1604SL 2000倍散布 BAA-

本剤の2000倍散布は、対照のウララDF2000倍散布とほぼ同等の効果を示し、無処理区と比較して防除効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病虫害名・学名 コナジラミ類 (オンシツコナジラミ *Trialeurodes vaporariorum*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

担当者氏名 小林政文、横田佑哉、小林希美、林直人

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県牛久市結束町 535 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

対象病虫害発生状況 少発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:とちおとめ 定植:2019年10月3日 栽植距離:畝間 110 cm 株間 25 cm 条間 25cm 2条植え

施設(加温)栽培 施肥等は現地慣行に準じた。土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 4.2 m²(1.1m×3.8m) 30株 3連制

1-I	5-I	4-II	3-III
-----	-----	------	-------

1: AKD-5196SC
2: ヨーバルフロアブル
3: ダブルシューターSE
4: コルト顆粒水和剤
5: 無処理

2-I	1-II	5-II	4-III
-----	------	------	-------

3-I	2-II	1-III	5-III
-----	------	-------	-------

I、II、IIIは連制を示す

4-I	3-II	2-III	
-----	------	-------	--

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日)2020年3月30日

(処理時の作物のステージ) 収穫期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、262L/10a量で葉の表裏が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。展着剤は添加しなかった。

(処理前後の降雨影響)施設栽培のため、降雨の影響はなかった。

試験期間中の温度条件(施設内)

日付	3/1	3/2	3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15
平均気温(℃)	16.6	12.1	16.8	11.8	15.3	17.2	14.4	12.9	17.0	17.0	19.9	17.5	16.1	11.5	16.9
日付	3/16	3/17	3/18	3/19	3/20	3/21	3/22	3/23	3/24	3/25	3/26	3/27	3/28	3/29	3/30
平均気温(℃)	13.1	15.7	18.4	20.3	18.6	17.3	19.3	15.0	17.2	16.8	17.8	20.0	16.7	10.9	14.8
日付	3/31	4/1	4/2	4/3	4/4	4/5	4/6	4/7	4/8	4/9	4/10	4/11	4/12		
平均気温(℃)	15.6	15.6	19.1	17.9	19.4	13.8	16.9	17.4	18.4	16.7	15.5	15.7	16.0		

ハウス内に設置したおんどり(TR-71wd)で計測した。

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 散布前(3月30日)、散布3日後(4月2日:成虫のみ)、散布7日後(4月6日)、散布12日後(4月11日)

(調査方法) 成虫:各区中央付近10株に生息する虫数を調査した。

卵・幼虫・殻:各区中央付近10株について、株あたり1小葉をマークし、直径1.5cmのリーフディスクを打ち抜き(計10枚)卵、若齢、中齢、老齢、殻に分けて実体顕微鏡下で調査した。

薬害は、調査時に茎葉および果実を対象として、肉眼により薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

2020年3月1日に発生を調査したが、発生が見られなかったため、オンシツコナジラミ(日植防茨城飼育個体群、2017年タバコで採集し、累代飼育)が寄生するタバコ苗をハウス内の四隅および通路等に計8ポット設置した。3月11日に若齢幼虫の孵化を肉眼で確認したが、幼虫の増加が緩慢であった。若齢幼虫が増加し始めた3月30日に試験を開始した。

対 象 病 害 虫 名・学 名 コナジラミ類 (オンシツコナジラミ *Trialeurodes vaporariorum*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

3. 試 験 成 績

<成虫数>

供試薬剤	処理方法	連制	10株あたりの生息成虫数			
			散布前 3/30	散布3日後 4/2	散布7日後 4/6	散布12日後 4/11
1) AKD-5196SC フェナサキシン18.3%(w/w) Lot.AI-1	1000倍 散布	I	89	10	25	38
		II	53	23	32	20
		III	67	18	17	44
		合計	209	51	74	102
		補正密度指数		17.8	26.4	61.7
92) ヨーバルフロアブル テトラニプロール18.2% Lot.22-10 06201	2500倍 散布	I	64	97	84	35
		II	102	104	78	52
		III	91	82	82	41
		合計	257	283	244	128
		補正密度指数		80.1	70.9	62.9
110) ダブルシューターSE 脂肪酸グリセリド75% スピノサド5.0% Lot.OB-010F	1000倍 散布	I	93	27	35	22
		II	98	45	27	38
		III	64	13	24	28
		合計	255	85	86	88
		補正密度指数		24.3	25.2	43.6
対照 コルト顆粒水和剤 ヒリフルキナゾン20%	3000倍 散布	I	52	42	33	21
		II	71	63.4	50	40
		III	62	20	24	39
		合計	185	125.4	107	100
		補正密度指数		49.3	43.2	68.3
無 処 理	—	I	84	125	95	42
		II	41	84	75	84
		III	105	107	138	56
		合計	230	316	308	182
		補正密度指数		100	100	100

<薬害>

供試薬剤	処理方法	連制	薬害		
			散布3日後 4/2	散布7日後 4/6	散布12日後 4/11
1) AKD-5196SC	1000倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
92) ヨーバルフロアブル	2500倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
110) ダブルシューターSE	1000倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
対照 コルト顆粒水和剤	3000倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
無 処 理	—	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—

対 象 病 害 虫 名・学 名 コナジラミ類 (オンシツコナジラミ *Trialeurodes vaporariorum*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

<卵・幼虫・殻数>

			1.5cmリーフディスク10枚あたりの生息数											
供試薬剤	処理方法	連制	散布前						散布7日後					
			3/30						4/6					
			卵	若齢	中齢	老齢	殻	計*	卵	若齢	中齢	老齢	殻	計*
1) AKD-5196SC	1000倍 散布	I	91	108	0	0	0	108	85	8	8	0	0	16
		II	83	75	0	0	0	75	80	23	11	0	0	34
		III	82	52	0	0	0	52	72	17	9	0	0	26
		合計	256	235	0	0	0	235	237	48	28	0	0	76
		補正密度指数	28.9											
92) ヨーバルフロアブル	2500倍 散布	I	39	130	0	0	0	130	48	45	8	0	0	53
		II	41	30	0	0	0	30	89	128	19	0	0	147
		III	85	94	0	0	0	94	138	86	23	0	0	109
		合計	165	254	0	0	0	254	275	259	50	0	0	309
		補正密度指数	108.9											
110) ダブルシューターSE	1000倍 散布	I	107	211	0	0	0	211	65	30	28	0	0	58
		II	205	154	0	0	0	154	78	52	7	0	0	59
		III	53	52	0	0	0	52	178	39	9	0	0	48
		合計	365	417	0	0	0	417	321	121	44	0	0	165
		補正密度指数	35.4											
対照 コルト顆粒水和剤	3000倍 散布	I	95	141	0	0	0	141	103	12	0	0	0	12
		II	70	83	0	0	0	83	121	57	0	0	0	57
		III	183	27	0	0	0	27	235	42	0	0	0	42
		合計	348	251	0	0	0	251	459	111	0	0	0	111
		補正密度指数	39.6											
無 処 理	-	I	65	130	0	0	0	130	328	172	41	0	0	213
		II	225	95	0	0	0	95	241	82	29	0	0	111
		III	87	124	0	0	0	124	195	41	25	0	0	66
		計	377	349	0	0	0	349	764	295	95	0	0	390
		補正密度指数	100											

供試薬剤	処理方法	連制	1.5cmリーフディスク10枚あたりの生息数						
			散布12日後						
			4/11						
			卵	若齢	中齢	老齢	殻	計*	
1) AKD-5196SC	1000倍 散布	I	72	13	8	2	0	23	
		II	40	9	15	1	0	25	
		III	83	32	14	8	0	54	
		合計	195	54	37	11	0	102	
		補正密度指数	11.7						
92) ヨーバルフロアブル	2500倍 散布	I	52	33	86	17	3	139	
		II	93	14	92	13	10	129	
		III	122	32	94	36	20	182	
		合計	267	79	272	66	33	450	
		補正密度指数	47.7						
110) ダブルシューターSE	1000倍 散布	I	82	41	42	5	2	90	
		II	93	63	20	1	0	84	
		III	154	28	73	5	4	110	
		合計	329	132	135	11	6	284	
		補正密度指数	18.4						
対照 コルト顆粒水和剤	3000倍 散布	I	82	72	11	0	0	83	
		II	50	68	7	0	5	80	
		III	132	93	4	0	8	105	
		合計	264	233	22	0	13	268	
		補正密度指数	28.8						
無 処 理	-	I	211	208	188	92	41	529	
		II	108	132	95	38	17	282	
		III	142	168	205	81	30	484	
		計	461	508	488	211	88	1295	
		補正密度指数	100						

*:卵を除く

対 象 病 害 虫 名・学 名 コナジラミ類 (オンシツコナジラミ *Trialeurodes vaporariorum*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

4. 考 察

実用性の判定は、散布 7、12 日後の幼虫の補正密度指数で行った。なお、ヨーバルフロアブルは遅効的であったため、散布 7 日後は判定から除外した。

1) AKD-5196SC 1000 倍希釈液散布 ABB-

本薬剤は、対照薬剤のコルト顆粒水和剤 3000 倍希釈液散布と比較して効果が優り、無処理区と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

92) ヨーバルフロアブル 2500 倍希釈液散布 CCC-

本薬剤は、対照薬剤のコルト顆粒水和剤 3000 倍希釈液散布と比較して効果はやや劣る。無処理区と比較して防除効果が認められたが、その程度はやや低い。効果はやや低い実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

110) ダブルシューターSE 1000 倍希釈液散布 ABB-

本薬剤は、対照薬剤のコルト顆粒水和剤 3000 倍希釈液散布と比較して効果が優り、無処理区と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 オンシツコナジラミ *Trialeurodes vaporariorum*

試験場名 株式会社 フィールドステーション

担当者氏名 坪井真太郎 加々美稜太郎

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 山梨県北杜市長坂町日野地区 ビニールハウス圃場

対象病害虫発生状況 中発生 (自然発生)

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:とちおとめ 定植日:2020年4月20日

栽植距離: 畝幅 60 cm×株間 30 cm 1条植え ビニールハウス内 土耕栽培 白黒マルチ利用

施肥その他一般管理は現地慣行に準じた

土性:埴壤土 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区 3.6 m² (0.6m×6.0m) 20株 3連制

試験区の構成は末尾に記載

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年7月14日

(作物のステージ) 生育期 (20葉期程度 ランナー伸長期)

(処理方法) 背負型バッテリー式動力噴霧器(MS2200-BLi15)で所定濃度に希釈した液を、150L/10a相当量を茎葉に均一に散布した。

(試験期間中の降雨) ビニールハウス内試験につき降雨の影響は無し

試験期間中の気象条件

日付	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28
平均気温(°C)	24.6	26.6	23.7	22.7	25.8	26.1	26.9	27.9	28.5	24.7	25.3	25.4	26.3	26.8	25.7

日付	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11
平均気温(°C)	27.7	26.8	26.8	27.0	27.1	27.5	29.3	30.0	29.9	29.2	29.7	30.2	30.0	31.6

観測地点 : ハウス内に設置した記録式温度計(おんどとり T&D 社製 型式:tr-72wf)よりデータ抜粋

調査月日・方法

(調査月日)

虫数調査:7月14日(散布前)、7月17日(散布3日後)、7月21日(散布7日後)、7月28日(散布14日後)、8月4日(散布21日後)、8月11日(散布28日後)

被害調査:7月17日(散布3日後)、7月21日(散布7日後)、7月28日(散布14日後)、8月4日(散布21日後)、8月11日(散布28日後)

(調査方法) 1区あたり20株の各1複葉について、生息する虫数をルーペ(×10)を用いて生育ステージ別(幼虫、中老齢幼虫(蛹含む)、成虫)に分けて調査した。被害は、茎葉部を各調査日に以下の基準で肉眼にて調査した。

-:被害を認めない。+:軽微な被害症状を認める。++:中程度の被害症状を認める。+++ :重度の被害症状を認める

その他特記事項等

特になし

対象病害虫名・学名 オンシツコナジラミ *Trialeurodes vaporariorum*

試験場名 株式会社フィールドステーション

3. 試験成績

<幼虫>

供試薬剤 有効成分名・量 Lot No.	希釈倍数 処理方法	連 制	オンシツコナジラミ幼虫 生息虫数 (20 株 各株 1 複葉調査)												薬害 7/17 7/21 7/28
			散布前			散布 3 日後			散布 7 日後			散布 14 日後			
			7/14			7/17			7/21			7/28			
			若 齢	中 老 齢	計	若 齢	中 老 齢	計	若 齢	中 老 齢	計	若 齢	中 老 齢	計	
92)ヨーバルフロアブル テトラニプロール 18.2% 06203 22.10	2500 倍 散布	i	132	37	169	37	19	56	20	24	44	25	27	52	—
		ii	178	40	218	54	24	78	33	35	68	44	68	112	—
		iii	156	41	197	51	16	67	25	30	55	25	42	67	—
		計	466	118	584	142	59	201	78	89	167	94	137	231	
		(補正密度指数)			33.1			17.7			17.5				
モスピラン顆粒水溶剤 アセタムプリト* 20.0%	2000 倍 散布	i	115	33	148	43	20	63	40	28	68	72	22	94	—
		ii	187	51	238	62	37	99	37	45	82	53	42	95	—
		iii	144	40	184	29	14	43	25	32	57	48	36	84	—
		計	446	124	570	134	71	205	102	105	207	173	100	273	
		(補正密度指数)			34.5			22.5			21.2				
無処理	—	i	152	50	202	150	72	222	235	130	365	378	155	533	—
		ii	161	38	199	202	55	257	301	77	378	432	92	524	—
		iii	203	79	282	185	47	232	254	105	359	340	147	487	—
		計	516	167	683	537	174	711	790	312	1102	1150	394	1544	
		(補正密度指数)			100.0			100.0			100.0				

供試薬剤 有効成分名・量 Lot No.	希釈倍数 処理方法	連 制	オンシツコナジラミ幼虫 生息虫数 (20 株 各株 1 複葉調査)						薬害 8/4 8/11
			散布 21 日後			散布 28 日後			
			8/4			8/11			
			若 齢	中 老 齢	計	若 齢	中 老 齢	計	
92)ヨーバルフロアブル テトラニプロール 18.2% 06203 22.10	2500 倍 散布	i	36	21	57	43	46	89	—
		ii	45	52	97	39	62	101	—
		iii	49	35	84	25	55	80	—
		計	130	108	238	107	163	270	
		10.9			18.5				
モスピラン顆粒水溶剤 アセタミプリト* 20.0%	2000 倍 散布	i	80	42	122	65	85	150	—
		ii	52	54	106	71	91	162	—
		iii	69	35	104	38	70	108	—
		計	201	131	332	174	246	420	
		15.5			29.5				
無処理	—	i	512	239	751	212	267	479	—
		ii	654	378	1032	331	340	671	—
		iii	591	186	777	283	273	556	—
		計	1757	803	2560	826	880	1706	
		100.0			100.0				

<成虫>

供試薬剤 有効成分名・量 Lot No.	希釈倍数 処理方法	連制	オンシツコナジラミ成虫 生息虫数 (20 株 各株 1 複葉調査)					
			散布前	散布 3 日後	散布 7 日後	散布 14 日後	散布 21 日後	散布 28 日後
			7/14	7/17	7/21	7/28	8/4	8/11
			成虫	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫
92)ヨーバルフロアブル テトラニプロール 18.2% 06203 22.10	2500 倍 散布	i	8	4	8	16	33	36
		ii	12	8	9	25	40	54
		iii	7	5	10	25	35	34
		計	27	17	27	66	108	124
		(補正密度指数)		(49.0)	(60.0)	(38.9)	(42.4)	(38.9)
モスピラン顆粒水溶剤 アセタミプリト 20.0%	2000 倍 散布	i	10	3	4	16	30	35
		ii	6	1	2	12	37	51
		iii	9	1	2	18	42	42
		計	25	5	8	46	109	128
		(補正密度指数)		(15.6)	(19.2)	(29.3)	(46.2)	(43.4)
無処理	—	i	6	7	12	47	65	87
		ii	7	7	9	40	55	91
		iii	8	13	14	45	78	70
		計	21	27	35	132	198	248
		(補正密度指数)		(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)

4. 考 察

実用性の判定は、散布 14、21、28 日後の幼虫の生息虫数の補正密度指数で行った。

92) ヨーバルフロアブル 2500 倍希釈液 散布 BBB—

ヨーバルフロアブル 2500 倍の散布処理は、対照薬剤のモスピラン顆粒水溶剤 2000 倍散布処理と比較して同等の防除効果が認められ、無処理区と比較して効果が認められた。実用性はあると考えられた。

薬害は認められなかった。

試験区の構成

1- I	2- I	3- I
3- II	1- II	2- II
2- III	3- III	1- III

- 1: ヨーバルフロアブル (2500 倍 150L/10a 散布)
 2: モスピラン顆粒水溶剤 (2000 倍 150L/10a 散布)
 3: 無処理

I、II、IIIは連制を示す

対象病虫害名・学名 アザミウマ類(ミカンキイロアザミウマ *Frankliniella occidentalis*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

担当者氏名 小林政文、小林希美、林直人

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県牛久市結束町535 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

対象病虫害発生状況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:とちおとめ 定植:2019年10月3日 栽植距離:畝間110cm 株間25cm 条間25cm 2条植え

施設(加温)栽培 施肥等は現地慣行に準じた。土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 4.2 m²(1.1m×3.8m) 30株 3連制

1-I	4-II	3-III	1:プレオフロアブル
2-I	1-II	4-III	2:ヨーバルフロアブル
3-I	2-II	1-III	3:ディアナSC
4-I	3-II	2-III	4:無処理

I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日)2020年3月4日

(処理時の作物のステージ) 収穫期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、172L/10a量で葉の表裏が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。展着剤は添加しなかった。

(処理前後の降雨影響) 施設栽培のため、降雨の影響はなかった。

試験期間中の気象条件(施設内)

日付	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16
平均気温(℃)	11.8	15.3	17.2	14.4	12.9	17.0	17.0	19.9	17.5	16.1	11.5	16.9	13.1

ハウス内に設置したおんどり(TR-71wd)で計測した。

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 散布前(3月4日)、散布2日後(3月6日)、散布5日後(3月9日)、散布12日後(3月16日)

(調査方法) 試験区から10花を選び、70%アルコールで満たしたビニール袋内に採集した。採集後、目の細かいテトロンゴースを貼った濾し器で花から抽出されたアザミウマを計数した。

被害は、調査時に茎葉および果実を対象として、肉眼により被害症状の有無を以下の内容で観察した。

-: 被害を認めない。+: 軽微な被害症状を認める。++: 中程度の被害症状を認める。+++: 重度の被害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対 象 病 害 虫 名・学 名 アザミウマ類(ミカンキイロアザミウマ*Frankliniella occidentalis*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

3. 試 験 成 績

〈ミカンキイロアザミウマ〉

供試薬剤	処理方法	連制	10花あたりのミカンキイロアザミウマ生息虫数								
			散布前			散布2日後			散布5日後		
			3/4			3/6			3/9		
			成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計
79) プレオフロアブル ピリダリル10% Lot.21.10NAC731	1000倍 散布	I	11	16	27	6	7	13	3	5	8
		II	37	51	88	7	12	19	5	2	7
		III	35	36	71	12	8	20	10	9	19
		計	83	103	186	25	27	52	18	16	34
		補正密度指数						26.4			21.0
92) ヨーバルフロアブル テトラニプロール18.2% Lot.22-10 06201	2500倍 散布	I	15	29	44	9	9	18	9	9	18
		II	22	22	44	7	8	15	14	15	29
		III	38	72	110	44	38	82	25	28	53
		計	75	123	198	60	55	115	48	52	100
		補正密度指数						54.9			58.0
対照 ディアナSC スピネトラム11.7%	2500倍 散布	I	20	28	48	9	7	16	48	51	99
		II	54	72	126	15	17	32	26	14	40
		III	19	71	90	11	8	19	43	25	68
		計	93	171	264	35	32	67	117	90	207
		補正密度指数						24.0			90.0
無 処 理	—	I	36	43	79	55	46	101	44	52	96
		II	20	29	49	22	36	58	20	26	46
		III	39	74	113	39	57	96	27	41	68
		計	95	146	241	116	139	255	91	119	210
		補正密度指数						100			100

〈薬害〉

供試薬剤	処理方法	連制	薬害		
			散布2日後 3/6	散布5日後 3/9	散布12日後 3/16
79) プレオフロアブル	1000倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
92) ヨーバルフロアブル	2500倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
対照 ディアナSC	2500倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
無 処 理	—	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—

対 象 病 害 虫 名・学 名 アザミウマ類(ミカンキイロアザミウマ*Frankliniella occidentalis*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

4. 考 察

実用性の判定は、散布 2、5、12 日後の補正密度指数で行った。なお、対照薬剤は散布 5 日以降の効果は低かった。

79) プレオフロアブル 1000 倍希釈液散布 ABB-

本薬剤は、対照薬剤のディアナ SC 2500 倍希釈液散布と比較して効果が優り、無処理区と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

92) ヨーバルフロアブル 2500 倍希釈液散布 CDD-

本薬剤は、対照薬剤のディアナ SC 2500 倍希釈液散布と比較して効果はやや低い。無処理区と比較して防除効果は低い。実用性はないと考えられる。

薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 アザミウマ類(ネギアザミウマ) *Thrips tabaci*

試験場名 愛知県農業総合試験場

担当者氏名 石川博司

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 試験場内

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別を記載)

品種:章姫 定植:2019年9月30日 施設栽培(ビニルハウス)

高設ベンチ栽培、栽植距離:畝幅 25 cm×株間 12 cm、千鳥植え

土性:培土(らくらくトレイ専用培土)、施肥・一般管理は慣行に準じた。試験期間中の防除薬剤はなし。

区制・面積 1区 0.45 m² (0.25×1.8m) 15株 3連制

3-I	1-II	2-III
2-I	3-II	1-III
1-I	2-II	3-III

1:デルフィン顆粒水和剤 500倍

2:ディアナSC 2500倍

3:無処理

I, II, IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年5月11日 (作物のステージ) 収穫期

(処理方法) 各剤所定濃度の薬液を、肩掛け噴霧器を用いて十分量(約 200L/10a) 散布した。展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨) 施設栽培のため降雨の影響はなかった。

月日	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16	5/17	5/18
平均気温(°C)	23.3	22.5	21.5	21.8	21.0	18.7	23.2	22.2

観測地:愛知県農業総合試験場内ビニルハウス

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 2020年5月11日(散布前)、5月14日(散布3日後)、5月18日(散布7日後)

(調査方法) 各区から20小花を任意に採集し、80%エタノール水溶液で洗い出し、その後、実体顕微鏡下で成幼虫数を調査した。

薬害は、薬効調査時に茎葉の薬害症状を以下の基準により肉眼観察した。

- :薬害を認めない。+ 軽微な薬害症状を認める。++ :中程度の薬害症状を認める。

+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍率	連制	20小花当たりの生息虫数									補正密度指数		薬害	
			散布前(5/11)			散布3日後(5/14)			散布7日後(5/18)			散布 3日後	散布 7日後	散布 3日後	散布 7日後
			成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計				
55)デルフィン顆粒水和剤 パチルス チューリンゲンシス菌の生芽胞 及び産生結晶毒素(BT) 10.0% Lot.03090	500	I	43	68	111	46	194	240	50	285	335			-	-
		II	13	10	23	15	40	55	28	53	81			-	-
		III	34	25	59	47	82	129	48	274	322			-	-
		合計	90	103	193	108	316	424	126	612	738	136.1	114.6		
対)ディアナSC スピネトラム 11.7%	2500	I	16	6	22	5	1	6	2	0	2			-	-
		II	45	76	121	4	5	9	8	0	8			-	-
		III	25	7	32	8	1	9	3	0	3			-	-
		合計	86	89	175	17	7	24	13	0	13	8.5	2.2		
無 処 理		I	22	13	35	8	14	22	22	94	116				
		II	24	10	34	26	46	72	40	92	132				
		III	51	25	76	42	98	140	66	170	236				
		合計	97	48	145	76	158	234	128	356	484	100	100		

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

発生種はネギアザミウマであった。判定は散布3, 7日後の補正密度指数により行った。

55)デルフィン顆粒水和剤 500倍 DDD-

本剤 500 倍散布は、対照のディアナSC2500 倍散布と比較して防除効果は低く、無処理区と比較して防除効果が低かった。実用性は低いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病虫害名・学名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

担当者氏名 小林政文、横田佑哉、小林希美、林直人

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県牛久市結束町 535 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

対象病虫害発生状況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:とちおとめ 購入苗 定植:2019年10月3日 畝間110cm 株間25cm 条間25cm 2条植え 施設栽培(マルチ被覆)

1日1回灌水(乾燥気味の場合のみ2回)。一般管理は慣行に準じた。土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 5.5m²(1.1m×5.0m) 40株 3連制

試験区の構成

1-I	4-II	3-III
2-I	1-II	4-III
3-I	2-II	1-III
4-I	3-II	2-III

1:カスケード乳剤
2:モスピラン顆粒水溶剤
3:ベストガード水溶剤
4:無処理

I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年3月30日

(処理時の作物のステージ) 収穫期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、200L/10aの割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。

(処理前後の降雨影響) 施設内のため、降雨の影響はない。

試験期間中の温度条件

日付	3/19	3/20	3/21	3/22	3/23	3/24	3/25	3/26	3/27	3/28	3/29	3/30	3/31	4/1	4/2
平均気温(℃)	20.3	18.6	17.3	19.3	15.0	17.2	16.8	17.8	20.0	16.7	10.9	14.8	15.6	15.6	19.1
日付	4/3	4/4	4/5	4/6	4/7	4/8	4/9	4/10	4/11	4/12	4/13				
平均気温(℃)	17.9	19.4	13.8	16.9	17.4	18.4	16.7	15.5	15.7	16.0	11.2				

ハウス内に設置したおんどり(TR-71wd)で計測した。

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 散布前(3月30日)、散布3日後(4月2日:成虫のみ)、散布7日後(4月6日)、散布14日後(4月13日)

(調査方法) 成虫:各調査日に各区10株の株元を徘徊、または株周りを飛翔する成虫を計数した。

幼虫:各区10株を掘り取り、株表面から深度5cm程度の土壌を100g/株の割合でビニル袋に回収し、良く混和した後、バットに広げ、ハンドスプレーに入れた70%アルコールを数回散布し、チバクロバネキノコバエ幼虫を抽出した。

被害は、果実および茎葉を対象に調査時に肉眼で被害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:被害を認めない。+:軽微な被害症状を認める。++:中程度の被害症状を認める。

+++ :重度の被害症状を認める。

その他(特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

3月16日に、ハウス内に成虫が飛翔しているのを確認したが、発生は極めて少ないため、試験区の全株元にナタネ油粕を施用した。その後、局所的に幼虫が生息しているものの、試験区全体に発生は見られなかったため、3月19日にナタネ油粕と土壌で飼育した個体群(1カップあたり300~500頭)を5カップと水道水10Lで懸濁液を作成し、速やかに如雨露を用いて試験区全体株元に灌注した。3月26日に幼虫を確認し、3月30日に試験区全体で見られるようになったため、試験を開始した。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

3. 試験成績

<クロバネキノコバエ>

供試薬剤	処理方法	連制	10株あたりの生虫数(成虫数)			
			散布前 3/30	3日後 4/2	6日後 4/6	13日後 4/13
30) カスケード乳剤 フルフェノクスロン 10.0% Lot.24.10-NJ924	4000倍 散布	I	24	20	13	2
		II	19	13	15	0
		III	23	13	21	0
		計	66	46	49	2
		補正密度指数		55.6	89.3	6.9
88) モスピラン顆粒水溶剤 アセタミプリト 20.0% Lot.23.10 SHJ-02T	4000倍 散布	I	45	10	14	0
		II	27	17	7	3
		III	12	13	9	0
		計	84	40	30	3
		補正密度指数		38.0	42.9	8.1
対照 ベストガード水溶剤 ニテンピラム 10.0%	2000倍 散布	I	38	21	13	0
		II	21	20	10	0
		III	43	14	13	0
		計	102	55	36	0
		補正密度指数		43.0	42.4	0
無 処 理	—	I	17	34	25	14
		II	38	28	30	20
		III	40	57	24	8
		計	95	119	79	42
		補正密度指数		100	100	100

供試薬剤	処理方法	連制	10株あたりの生虫数(幼虫数)		
			散布前 3/30	6日後 4/6	13日後 4/13
30) カスケード乳剤	4000倍 散布	I	172	0	0
		II	139	0	0
		III	113	0	0
		計	424	0	0
		補正密度指数		0	0
88) モスピラン顆粒水溶剤	4000倍 散布	I	87	0	0
		II	249	5	0
		III	170	2	0
		計	506	7	0
		補正密度指数		1.6	0
対照 ベストガード水溶剤	2000倍 散布	I	131	0	0
		II	78	2	7
		III	154	4	0
		計	363	6	7
		補正密度指数		1.9	33.4
無 処 理	—	I	183	98	8
		II	141	134	4
		III	40	87	9
		計	364	319	21
		補正密度指数		100	100

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

< 薬害 >

供試薬剤	処理方法	連制	薬害		
			3日後 4/2	6日後 4/6	13日後 4/13
30) カスケード乳剤	4000倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
88) モスピラン顆粒水溶剤	4000倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
対照 ベストガード水溶剤	2000倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
無 処 理	—	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—

4. 考 察

実用性の判定は、散布 6 日後の幼虫の補正密度指数より行った。

30)カスケード乳剤 4000 倍散布 BAA-

本薬剤 4000 倍希釈液散布は、対照薬剤のベストガード水溶剤 2000 倍希釈液散布と比べ、同等の防除効果が認められた。無処理と比較して、高い効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

88)モスピラン顆粒水溶剤 4000 倍散布 BAA-

本薬剤 4000 倍希釈液散布は、対照薬剤のベストガード水溶剤 2000 倍希釈液散布と比べ、同等の防除効果が認められた。無処理と比較して、高い効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

試験場名 静岡大学

担当者氏名 田上 陽介

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 静岡県静岡市駿河区大谷 静岡大学構内圃場

対象病害虫発生状況 中発生

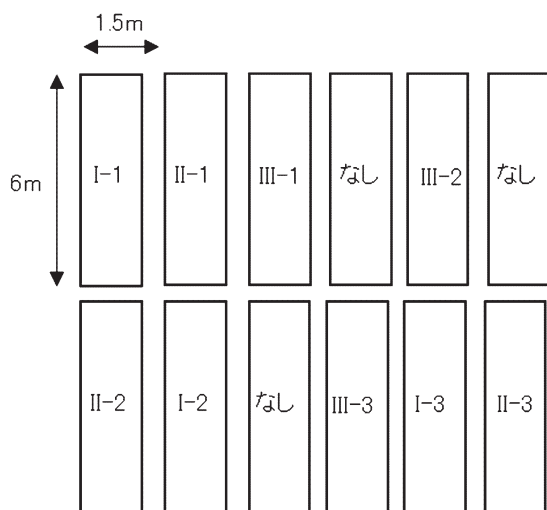
耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種: 紅ほっぺ 定植日: 9月18日 畝間 150cm、株間 20cm、条間 30cm 千鳥条植え: 土性: 砂土、主枝 数本、露地栽培、1日2回灌水 試験期間中の防除薬剤: なし

施肥: 慣行の栽培管理による。ただし処理12日(9/11)、5日(9/18)前に、各畝に320g程度油かすを撒いた。

区制・面積 1区 9 m² (6m×1.5m) 32株 3連制

圃場配置図



IIはカスケード乳剤、IIIはディアナSC、IIIは無処理、1と2と3は連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 令和2年9月23日 (作物のステージ) 生育期

(処理方法) カスケード乳剤 4000 倍は散布、対照のディアナ SC2500 倍は散布、を肩掛け式散布機で 250L/10a 相当量処理した。

試験期間中の気象条件

2020年9/23～10/7の平均気温、降水量のグラフ、アメダスデータ(静岡市)

2020年9月23日～10月7日までの降雨及び気温(露地)

月日	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7
平均気温 (°C)	24.1	26.8	25.2	21.8	22.7	22.9	21.2	21	21.6	22.1	22.5	22.8	23.2	22.8	19.5
降水量 (mm)	1	0	3	18	4	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	5.5

アメダスデータ(観測地点: 静岡県静岡市)

調査月日・方法

(調査月日) 散布前(9月23日)、処理4日後(9月27日)、処理7日後(9月30日)、処理14日後(10月7日)

(調査方法) 各区7株から株元の50gの土と一緒に取り、根及び土の中の幼虫数、株付近の成虫数を調査した。

被害は茎葉 被害は茎葉を対象に症状の有無を以下の基準により肉眼で観察した。

-: 被害を認めない。+: 軽微な被害症状を認める。++: 中程度の被害症状を認める。+++: 重度の被害症状を認める。

その他 なし

対 象 病 害 虫 名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

3. 試 験 成 績

供試薬剤 有効成分名・量 Lot No.	使用条件 希釈倍数	連制	各試験区7株あたりの寄生幼虫・蛹数								薬害
			処理前		4日後		7日後		14日後		
			幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
30) カスケード®乳剤 フルフェノクスロン 10% PD19K00006	4000倍	1	24	0	11	0	4	0	2	0	－
		2	73	0	12	0	1	0	11	0	－
		3	21	1	14	0	18	0	10	1	－
		合計	118	1	37	0	23	0	23	1	
		補正密度指数			26.8		15.9		24.5		
参) ディアナSC スピ®ネトラム 11.7%	2500倍	1	67	0	12	0	12	0	0	0	
		2	10	0	0	0	3	0	4	0	－
		3	34	0	11	0	0	0	3	3	－
		合計	111	0	23	0	15	0	7	3	
		補正密度指数			17.9		17.1		7.9		
無処理	—	1	3	0	21	0	4	0	0	0	
		2	49	2	62	0	58	1	62	0	
		3	54	0	40	1	22	0	22	0	
		合計	106	2	123	1	84	1	84	0	
		補正密度指数			100		100		100		

4. 考 察

実用性の判定は7、14日後の寄生幼虫の補正密度指数により行った。

30) カスケード乳剤 散布 4000倍 250L/10a CBB-

本処理は、対照処理と比較して効果がやや劣り、無処理と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。試験期間を通して薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ハダニ類(カンザワハダニ *Tetranychus kanzawai*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

担当者氏名 小林政文、横田佑哉、小林希美、林 直人

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

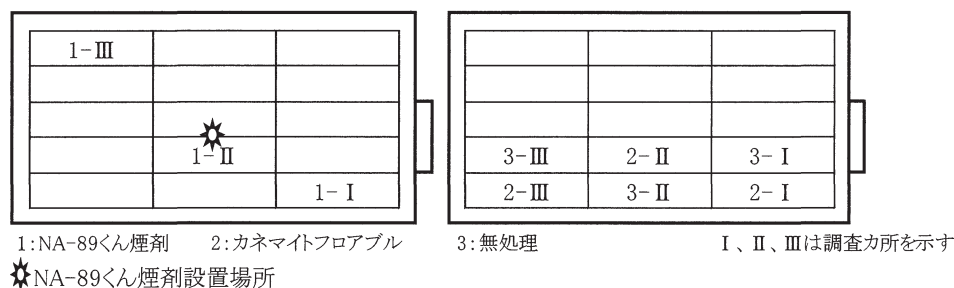
2. 試験方法 試験地場所 茨城県牛久市結束町 535 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 中発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:とちおとめ 定植:2020年9月17日 (購入苗) 栽植距離:畝間 110 cm×株間 25 cm 条間 25cm 2条植え

施設栽培 施肥等は現地慣行に準じた。土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積 1区 7.5 m² (1.1×5.0m) 40株 NA-89くん煙区は3調査カ所 無処理およびカネマイトフロアブル区は3連制
試験区の構成試験施設概要: 370m³ (全体 415m³【幅 6.3m×長さ 18.5m×高さ 4.0m<地上部 2m から上部 2m が蒲鉾状>】の内、内張内容積 370m³【幅 6.3m×長さ 18.5m×高さ 3.5m<地上部 2m から 1.5m の蒲鉾状>】を試験区容積とした)

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年10月5日

(処理方法) NA-89くん煙剤は 50g/400m³の割合(試験施設内 370m³で計算し、46.3g/370m³くん煙)で、くん煙処理を午後4時に開始した。くん煙時は施設サイドを締め切り、換気扇を止め、施設内を密閉状態に保った。翌日10月6日午前9時に施設を開放し、換気した。参考薬剤のカネマイトフロアブルは、所定の濃度に希釈し、91L/10aの割合で背負い式バッテリー噴霧機を用いて散布した。

(処理前後の降雨影響) 施設のため、降雨の影響はない。

試験期間中の気象条件

月日	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10	10/11	10/12
平均気温(℃)	18.3	20.0	20.7	20.2	18.6	17.1	14.5	15.5	17.3	20.1	20.0
降水量(mm)	0	0	0	0.5	0	4.5	32.0	17.5	54.0	0	1.0

アメダスデータ(観測地点: 茨城県龍ヶ崎市)より引用

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理前(10月5日)、処理2日後(10月7日)、同4日後(10月9日)、同7日後(10月12日)

(調査方法) 区中央14株の展開葉各2枚について、生息するナミハダニ雌成虫数を調査した。

被害は、茎葉を対象に調査時に肉眼により観察し、被害症状を以下の内容で観察した。

- : 被害を認めない。+ : 軽微な被害症状を認める。++ : 中程度の被害症状を認める。

+++ : 重度の被害症状を認める。

その他 10月2日に各試験区あたり200頭程度のカンザワハダニ(所内ダイズで発生したもの)を放虫した。放虫方法として、本種が寄生したダイズ葉をホチキスで各試験区中央10株に留める方法を用いた。

対 象 病 害 虫 名 ハダニ類(カンザワハダニ *Tetranychus kanzawai*) 試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

3. 試 験 成 績

供試薬剤	処理方法	調査力所 または 連制	14株各中位2葉(28葉)あたりの雌成虫数				薬害 (10/7,10/9, 10/12)
			処理前 10月5日	処理2日後 10月7日	処理4日後 10月9日	処理7日後 10月12日	
9) NA-89くん煙剤 アシナピル15% Lot.Y-0041	50g/400m ³ くん煙処理	I	208	0	0	0	—
		II	187	0	0	2	—
		III	151	0	0	2	—
		合計	546	0	0	4	
		補正密度指数	—	0	0	1.8	
参考 カネマイトフロアブル アセキノシル15%	1000倍 散布	I	107	0	0	0	—
		II	138	0	0	0	—
		III	96	0	0	0	—
		合計	341	0	0	0	
		補正密度指数	—	0	0	0	
無処理	—	I	125	108	82	40	—
		II	139	101	96	85	—
		III	144	84	74	37	—
		合計	408	293	252	162	
		補正密度指数	—	100	100	100	

4. 考 察

実用性の判定は、処理 2、4、7 日後の補正密度指数で行った。なお、ハダニタマバエによって密度が減少傾向での試験であった。

9) NA-89 くん煙剤 50g/400m³ くん煙処理 (B)AA-

本剤 50g/400m³ くん煙処理は、参考のカネマイトフロアブル 1000 散布と比べ、同等の防除効果が認められた。無処理と比べ、高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 ハダニ類(ナミハダニ黄緑型) *Tetranychus urticae*

試験場名 静岡県農林技術研究所

担当者氏名 土井 誠・斉藤千温・吉崎涼花

1. 試験目的 防除効果及び葉害の検討

2. 試験方法 試験地場所 静岡県磐田市富丘 678-1 静岡県農林技術研究所

対象病害虫発生状況 中発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:きらび香 定植日:2019年9月18日 栽植距離:条間18cm×株間18cm 2条植え

土性:ピート培養土(BVB 培土 No.7-P1(トヨタネ株式会社)) 施設栽培(高設栽培) 施肥その他一般管理は慣行に準じた。

試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 3.4 m² (2.25m×1.5m) 24株 3連制

1-I	2-I	3-I
-----	-----	-----

2-II	3-II	1-II
------	------	------

3-III	1-III	2-III
-------	-------	-------

1:ORO-030S3D 液剤 2:サフオイル 3:無処理 I II IIIは連制を示す。

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

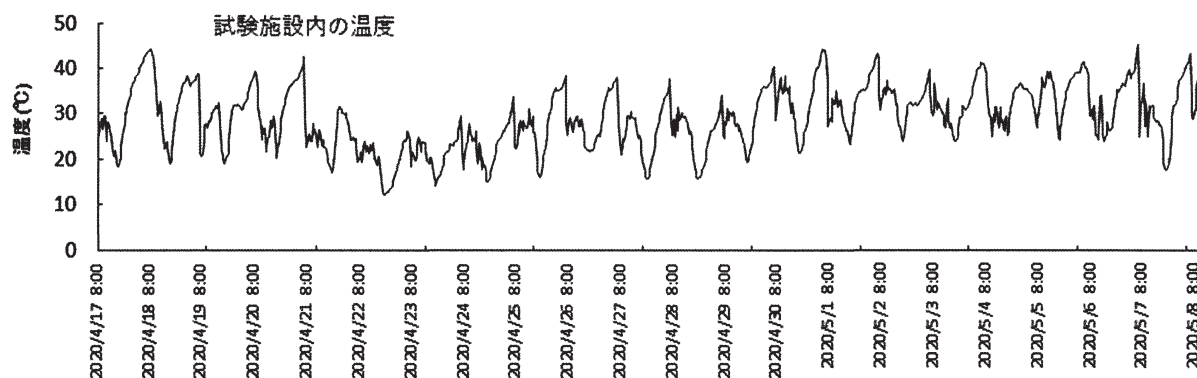
(処理年月日) 2020年4月17日、25日の2回

(処理時の作物のステージ) 収穫期

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、10a 当たり 160L の割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。展着剤は使用しなかった。

(処理前後の降雨影響) 施設栽培のため、降雨なし

試験期間中の気象条件



観測地点:試験施設内

試験期間中の気温 平均:29.1°C、最高 45.2°C、最低 12.1°C

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、葉害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 第1回処理前(4月17日)、第1回処理2日後(4月19日)、第2回処理前(4月25日)、第2回処理7日後(5月2日)、13日後(5月8日)

(調査方法) 葉効は、各区の中央部10株について株当たり2複葉計20複葉に寄生している雌成虫を調査した。

密度指数は下記の式によって求めた。

密度指数 = (処理区の◎日後の密度 ÷ 無処理区の◎日後の密度) × 100

葉害は、葉効調査時に果実、茎葉の葉害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

- : 葉害を認めない。+ : 軽微な葉害症状を認める。++ : 中程度の葉害症状を認める。

+++ : 重度の葉害症状を認める。

対象病害虫名・学名 ハダニ類(ナミハダニ黄緑型) *Tetranychus urticae*

試験場名 静岡県農林技術研究所

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載)

2020 年4月6日に各区4株にナミハダニ黄緑型(2020 年3月に研究所内のイチゴから採集しインゲンで増殖)の成虫及び幼虫を計40頭放虫した。

3. 試験成績

1) 薬効

供試薬剤 有効成分名・量 Lot No.	処理量 方法	連制	調査 葉数	寄生虫数/20 複葉(2 複葉×10 株)					密度指数				
				第1回 処理前	第1回 処理 2日後	第2回 処理前	第2回 処理 7日後	第2回 処理 13日後	第1回処 理前	第1回 処理 2日後	第2回 処理前	第2回 処理 7日後	第2回 処理 13日後
				4/17	4/19	4/25	5/2	5/8	4/17	4/19	4/25	5/2	5/8
107) ORO-030S3D 液剤 Orange Oil 6% Lot.No. BP0010919OG	250 倍	I	20	18	6	31	12	51					
		II	20	44	24	84	44	124					
		III	20	38	12	50	29	33					
		計	60	100	42	165	85	208	96.2	32.1	83.8	30.8	29.4
対) サフオイル乳剤 調合油 97.0% Lot.No. 21.10 8J00	300 倍	I	20	37	53	50	79	130					
		II	20	21	47	57	31	69					
		III	20	45	54	76	51	139					
		計	60	103	154	183	161	338	99.0	117.6	92.9	58.3	47.7
無処理		I	20	49	55	80	108	278					
		II	20	24	25	29	76	154					
		III	20	31	51	88	92	276					
		計	60	104	131	197	276	708	100	100	100	100	100

2) 薬害

供試薬剤 有効成分名・量 Lot No.	処理量 方法	連制	第1回処理前		第1回処理 2日後		第2回処理前		第2回処理 7日後		第2回処理 13日後	
			4/17		4/19		4/25		5/2		5/8	
			葉	果実	葉	果実	葉	果実	葉	果実	葉	果実
107) ORO-030S3D 液剤 Orange Oil 6% Lot.No. BP0010919OG	250 倍	I	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-
		II	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-
		III	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-
対) サフオイル乳剤 調合油 97.0% Lot.No. 21.10 8J00	300 倍	I	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		II	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		III	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無処理		I	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		II	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		III	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

4. 考察

実用性の判定は第2回処理7、13 日後の雌成虫の密度指数で行った。対照剤の効果がやや低かった。

107) ORO-030S3D 液剤 250 倍2回散布 ACC±

本処理は、対照処理と比較してまさる効果を示し、無処理と比較して効果は認められるがその程度はやや低かった。効果はやや低い実用性はあると考えられる。

薬害は、第2 回処理 13 日後に2割程度の株で、比較的若い展開葉の葉縁の退緑や軽い奇形が認められたが、実用上は問題ない程度と考えられた(図)。薬害は第2回散布時点で未展開～展開はじめであった葉の一部に発生したと考えられた。

対象病害虫名・学名 ハダニ類(ナミハダニ黄緑型) *Tetranychus urticae*

試験場名 静岡県農林技術研究所



新葉に認められた葉害の様子(矢印)

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 ハダニ類 (ナミハダニ黄緑型 *Tetranychus urticae*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 山梨試験場

担当者氏名 丸山直哉、秋山空隆、中西秀明

1. 試験目的 (依 頼 事 項) 防除効果および葉害の検討

2. 試験方法 試験地場所 山梨県甲州市塩山下萩原 日植防山梨借り上げ圃場

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 多発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土性条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:紅ほっぺ 定植:2019年10月1日 施設(ビニルハウス)栽培 高設栽培 培土:ココブロック(カネコ種苗)

栽植距離:畝間 120cm 株間 15cm 条間 15cm 2条千鳥植え マルチ張り 施肥その他一般管理は現地慣行栽培に準じた。

試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 5.4 m² (4.5m×1.2m) 60株 3連制

1-I		2-I		3-I
2-II	3-II	1-II		
	3-III		2-III	1-III

1:ダブルシューターSE 2:カネナイトフロアブル 3:無処理

I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年5月22日 (処理量) 約600L/10a (作物のステージ) 収穫後

(処理方法) 背負い式バッテリー噴霧機を用いて、作物全体が十分に濡れるよう散布した。展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨) 施設栽培のため、降雨による試験への影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30	5/31		
平均気温(℃)	17.4	19.7	20.9	21.5	19.9	21.9	19.1	18.4	18.1	16.7		
月日	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12
平均気温(℃)	18.7	23.1	23.7	22.8	24.7	23.0	22.2	23.6	23.8	24.7	23.4	25.5

山梨県勝沼アメダスデータより

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、葉害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:5月22日(処理前)、5月25日(処理3日後)、5月29日(同7日後)、6月5日(同14日後)

および6月12日(同21日後)

薬害試験:5月25日(処理3日後)、5月29日(同7日後)、6月5日(同14日後)および6月12日(同21日後)

(調査方法) 各区中央付近の10株について、株あたり2小葉(合計20小葉)に生息する雌成虫を調査した

葉害は、茎葉を対象に、各調査時に肉眼により観察し、葉害症状を下記の基準に従って程度別に調査した。

- : 葉害を認めない。+ : 軽微な葉害症状を認める。++ : 中程度の葉害症状を認める。+++ : 重度の葉害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 ハダニ類 (ナミハダニ黄緑型 *Tetranychus urticae*)

試験場名 (一社)日本植物防疫協会 山梨試験場

3. 試験成績

薬効薬害調査

供試薬剤	処理方法	連制	20小葉(10株2小葉)あたりの雌成虫数					薬害程度 5/25、5/29、 6/5、6/12
			処理前 (5/22)	処理3日後 (5/25)	同7日後 (5/29)	同14日後 (6/5)	同21日後 (6/12)	
48) ダブルシューターSE 脂肪酸グリセリド 75.0% スピノサド 5.0% Lot.OB-010F	1000倍 散布	I	22	2	2	5	47	-
		II	487	104	92	21	63	-
		III	392	80	50	41	59	-
		合計	901	186	144	67	169	
		(補正密度指数)		(13.2)	(11.7)	(2.9)	(9.4)	
対) カネマイトフロアブル アセキノシル 15.0%	1000倍 散布	I	463	21	51	29	32	-
		II	133	17	26	4	17	-
		III	215	52	67	36	11	-
		合計	811	90	144	69	60	
		(補正密度指数)		(7.1)	(13.0)	(3.3)	(3.7)	
無処理	-	I	648	792	780	1312	426	-
		II	221	428	375	655	612	-
		III	209	461	317	818	1117	-
		合計	1078	1681	1472	2785	2155	
		(補正密度指数)		(100)	(100)	(100)	(100)	

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

本試験における実用性の判定は、散布 3、7、14、21 日後の補正密度指数より行った。

48)ダブルシューターSE 1000 倍散布 BBB-

本剤の 1000 倍希釈液散布は、対照のカネマイトフロアブル(1000 倍)とほぼ同等の効果を示し、無処理に比べて効果が認められた。実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 ハダニ類 (ナミハダニ黄緑型 *Tetranychus urticae*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 山梨試験場

担当者氏名 丸山直哉、秋山空隆、中西秀明

1. 試 験 目 的 (依 頼 事 項) 防除効果および葉害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 山梨県甲州市塩山下萩原 日植防山梨借り上げ圃場

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 多発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土性条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:紅はっぺ 定植:2019年10月1日 施設(ビニルハウス)栽培 高設栽培 培土:ココブロック(カネコ種苗)

栽植距離:畝間 120cm 株間 15cm 条間 15cm 2条千鳥植え マルチ張り 施肥その他一般管理は現地慣行栽培に準じた。

試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 5.4 m² (4.5m×1.2m) 60株 3連制

	2-I		1-I	3-I
	3-II		2-II	1-II
2-III	3-III	1-III		

1:ORO-030S3D液剤 2:エコピタ液剤 3:無処理

I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年5月22日および5月29日 (処理量) 両日とも約600L/10a (作物のステージ) 収穫後

(処理方法) 背負い式バッテリー噴霧機を用いて、作物全体が十分に濡れるよう散布した。展着剤は加用しなかった。

(処理前後の降雨) 施設栽培のため、降雨による試験への影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30	5/31		
平均気温(℃)	17.4	19.7	20.9	21.5	19.9	21.9	19.1	18.4	18.1	16.7		
月日	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12
平均気温(℃)	18.7	23.1	23.7	22.8	24.7	23.0	22.2	23.6	23.8	24.7	23.4	25.5

山梨県勝沼アメダスデータより

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、葉害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 葉効試験:5月22日(処理前)、5月25日(初回処理3日後)、5月29日(同7日後)、6月1日(2回目処理3日後)

6月5日(同7日後)および6月12日(同14日後)

葉害試験:5月25日(初回処理3日後)、5月29日(同7日後)、6月1日(2回目処理3日後)

6月5日(同7日後)および6月12日(同14日後)

(調査方法) 各区中央付近の10株について、株あたり2小葉(合計20小葉)に生息する雌成虫を調査した。

葉害は、茎葉を対象に、各調査時に肉眼により観察し、葉害症状を下記の基準に従って程度別に調査した。

- : 葉害を認めない。+ : 軽微な葉害症状を認める。++ : 中程度の葉害症状を認める。+++ : 重度の葉害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 ハダニ類 (ナミハダニ黄緑型 *Tetranychus urticae*)

試験場名 (一社)日本植物防疫協会 山梨試験場

3. 試 験 成 績

薬効調査

供試薬剤	処理方法	連制	20小葉(10株2小葉)あたりの雌成虫数					
			処理前 (5/22)	初回処理3日後 (5/25)	初回処理7日後 (5/29)	2回目処理3日後 (6/1)	2回目処理7日後 (6/5)	2回目処理14日後 (6/12)
107) ORO-030S3D液剤 Orange Oil 6% 1週間隔2回散布 Lot.BP0010919OG	250倍	I	522	214	182	51	37	11
		II	369	179	189	63	98	93
		III	109	78	108	91	88	104
		合計	1000	471	479	205	223	208
		(補正密度指数)		(30.2)	(35.1)	(11.3)	(8.6)	(10.4)
対) エコピタ液剤 還元澱粉糖化物 60.0% 1週間隔2回散布	100倍	I	335	115	88	62	41	9
		II	636	282	207	81	71	23
		III	45	14	79	62	74	52
		合計	1016	411	374	205	186	84
		(補正密度指数)		(25.9)	(27.0)	(11.1)	(7.1)	(4.1)
無処理	-	I	648	792	780	986	1312	426
		II	221	428	375	457	655	612
		III	209	461	317	512	818	1117
		合計	1078	1681	1472	1955	2785	2155
		(補正密度指数)		(100)	(100)	(100)	(100)	(100)

薬害調査

供試薬剤	処理方法	連制	薬害程度				
			調査日				
			5/25	5/29	6/1	6/5	6/12
107) ORO-030S3D液剤 1週間隔2回散布	250倍	I	-	-	-	-	-
		II	-	-	-	-	-
		III	-	-	-	-	-
対) エコピタ液剤	100倍	I	-	-	-	-	-
		II	-	-	-	-	-
		III	-	-	-	-	-
無処理	-	I	-	-	-	-	-
		II	-	-	-	-	-
		III	-	-	-	-	-

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

本試験における実用性の判定は、2 回目処理 3、7、14 日後の補正密度指数より行った。

107) ORO-030S3D 液剤 250 倍 1 週間間隔 2 回散布 BBB-

本剤の 250 倍希釈液 1 週間間隔 2 回散布は、対照のエコピタ液剤(100 倍)2 回散布とほぼ同等の効果を示し、無処理に比べて効果が認められた。実用性はあると考えられる。

薬害は認められなかった。

対象病虫害名・学名 アブラムシ類(ネギアブラムシ *Neotoxoptera formosana*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所 担当者氏名 林 直人、横田佑哉、小林希美、小林政文

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県牛久市結束町 535 一般社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

対象病虫害発生状況 少→極少発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:浅黄系九条 播種:2020年3月12日 定植:4月15日 栽植距離:畝間100cm×株間15cm 条間20cm 2条植え

露地栽培 施肥等は現地慣行に準じた。土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:6/2 オロンデ'イスウルラ SC

区制・面積・試験区の構成 1区 3.6 m² (1.0×3.6m) 48株 3連制

3-I	1-II	2-II	4-III	
-----	------	------	-------	--

1:トランスフォームF 1000倍

2:トランスフォームF 2000倍

3:ハチハチE

4:無処理

I, II, IIIは連制を示す

2-I		4-II	3-III	1-III
-----	--	------	-------	-------

1-I	4-I	3-II		2-III
-----	-----	------	--	-------

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年5月29日

(処理時の作物のステージ) 生育中期:草丈25cm前後

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、185L/10a量で葉が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。展着剤はマイリノールを5000倍の割合で添加した。

(処理前後の降雨影響) 処理当日3mmの降雨があったが、前夜の小雨であり影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	5/29	5/30	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12
平均気温(℃)	20.2	21.2	20.5	20.1	22.3	22.8	23.0	24.5	22.9	20.6	21.9	24.4	24.6	24.9	25.4
降水量(mm)	3.0	0	0	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0	0	8.5	1.5

アメダスデータ(観測地点:茨城県龍ヶ崎市)より引用

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 散布前(5月29日)、散布3日後(6月1日)、散布7日後(6月5日)、散布14日後(6月12日)

(調査方法) 各区マークした10株の全葉について寄生する生虫数を有翅・無翅別に調査した。

薬害は、調査時に茎葉の薬害症状の有無を、以下の内容で肉眼により観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ :重度の薬害症状を認める。

3. 試験成績

次頁に記載

4. 考察

テントウムシ類等天敵の多発生により試験後半は減少傾向であったため、実用性の判定は散布3、7日後の補正密度指数より行った。

59) トランスフォームフロアブル 1000倍、2000倍希釈液散布 両濃度ともBAA-

本薬剤は1000倍、2000倍希釈液散布共に、対照のハチハチ乳剤1000倍希釈液散布と同等の防除効果が認められた。無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

両濃度共に薬害は認められなかった。

対象病虫害名・学名 アブラムシ類(ネギアブラムシ *Neotoxoptera formosana*)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会 茨城研究所

3. 試験成績

〈防除効果〉

供試薬剤	処理方法	連制	10株あたりの生息虫数											
			散布前			散布3日後			散布7日後			散布14日後		
			5/29			6/1			6/5			6/12		
			有翅	無翅	計	有翅	無翅	計	有翅	無翅	計	有翅	無翅	計
59) トランスフォームフロアブル スルホキサフロル9.5% Lot.No:I43A30	1000倍 散布	I	0	141	141	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	0	43	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	0	103	103	0	2	2	0	0	0	0	0	0
		計	0	287	287	0	2	2	0	0	0	0	0	0
		補正密度指数						1.2			0			0
59) トランスフォームフロアブル スルホキサフロル9.5% Lot.No:I43A30	2000倍 散布	I	0	189	189	0	1	1	0	0	0	0	0	0
		II	0	51	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	0	34	34	0	4	4	0	0	0	0	0	0
		計	0	274	274	0	5	5	0	0	0	0	0	0
		補正密度指数						3.1			0			0
対照 ハチハチ乳剤 トルフェンビタト15.0%	1000倍 散布	I	0	63	63	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	0	60	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	0	168	168	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	291	291	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		補正密度指数						0			0			0
無 処 理	—	I	0	42	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II	0	74	74	0	17	17	0	24	24	0	0	0
		III	0	54	54	0	83	83	0	87	87	0	21	21
		計	0	170	170	0	100	100	0	111	111	0	21	21
		補正密度指数						100			100			100

〈薬害〉

供試薬剤	処理方法	連制	薬害		
			散布3日後 6/1	散布7日後 6/5	散布14日後 6/12
59) トランスフォームフロアブル	1000倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
59) トランスフォームフロアブル	2000倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
対照 ハチハチ乳剤	1000倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
無 処 理	—	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—

対象病虫害名・学名 アザミウマ類(ネギアザミウマ *Thrips tabaci*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

担当者氏名 小林希美、横田佑哉、小林政文、林直人

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県牛久市結束町 535 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

対象病虫害発生状況 多→甚発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:浅黄系九条 播種:2020年3月12日 定植:4月15日 栽植距離:畝間100cm×株間15cm 条間20cm 2条植え

露地栽培 施肥等は現地慣行に準じた。土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区 3.2 m² (3.2×1.0m) 42株 3連制

試験区の構成

1-I	4-I	2-II		3-III	
2-I		3-II			
3-I					5-III
			5-II	4-III	1-III
	5-I	4-II	1-II		2-III

1:トクチオン乳剤

2:トランスフォームフロアブル

3:マッチ乳剤

4:ハチハチ乳剤

5:無処理

I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年5月26日

(処理時の作物のステージ) 草丈約30cm

(処理方法) 供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、282L/10a量で葉が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。展着剤はマイリノーを5000倍希釈になるように添加した。

(処理前後の降雨影響) 処理当日の降雨は18時以降の降雨であり、処理は14時に行い、乾いていることを確認したため影響はないと思われる。

試験期間中の気象条件

月日	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9
平均気温(℃)	20.2	20.6	19.5	20.2	21.2	20.5	20.1	22.3	22.8	23	24.5	22.9	20.6	21.9	24.4
降水量(mm)	1.5	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0

アメダスデータ(観測地点:茨城県龍ケ崎市)より引用

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 散布前(5月26日)、同3日後(5月29日)、同7日後(6月2日)、同14日後(6月9日)

(調査方法) 散布前、同3日後および同7日後は区中央付近の10株全体を、散布14日後は区中央付近10株の株当たり3葉(合計30葉)を対象に、生息する虫数を幼虫・成虫別に調査した。

薬害は、茎葉を対象に肉眼により薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ :重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対象病虫害名・学名 アザミウマ類(ネギアザミウマ *Thrips tabaci*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

3. 試験成績

< 幼虫・成虫数 >

供試薬剤	処理方法	連制	10株あたりの生息虫数									30葉あたりの生息虫数		
			散布前			同3日後			同7日後			同14日後		
			5/26			5/29			6/2			6/9		
			幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計
57) トクチオン乳剤 プロチオホス45.0% Lot.No.22.10 8XS2001	1000倍 散布	I	342	368	710	6	23	29	21	209	230	432	103	535
		II	49	292	341	23	108	131	207	164	371	402	56	458
		III	227	71	298	19	87	106	112	170	282	575	57	632
		計	618	731	1349	48	218	266	340	543	883	1409	216	1625
		(補正密度指数)				(6.5)		(19.3)	(22.6)		(39.0)	(61.2)		(55.3)
59) トランスフォームフロアブル スルホキサフロル9.5% Lot.No.143A30	1000倍 散布	I	236	155	391	37	139	176	123	217	340	660	64	724
		II	118	396	514	19	37	56	196	117	313	454	59	513
		III	136	67	203	2	48	50	137	141	278	639	47	686
		計	490	618	1108	58	224	282	456	475	931	1753	170	1923
		(補正密度指数)				(9.9)		(24.9)	(38.3)		(50.0)	(96.1)		(79.7)
84) マッチ乳剤 ルフェスロン5.0% Lot.No.22.10KYN8A19	2000倍 散布	I	196	63	259	99	114	213	70	186	256	742	20	762
		II	209	105	314	133	321	454	102	159	261	350	124	474
		III	83	255	338	41	30	71	51	120	171	388	87	475
		計	488	423	911	273	465	738	223	465	688	1480	231	1711
		(補正密度指数)				(46.7)		(79.3)	(18.8)		(45.0)	(81.5)		(86.3)
対) ハチハチ乳剤 トルフェンビダト15.0%	1000倍 散布	I	283	498	781	4	38	42	65	125	190	592	94	686
		II	134	383	517	94	56	150	207	134	341	240	83	323
		III	232	30	262	95	84	179	125	102	227	239	77	316
		計	649	911	1560	193	178	371	397	361	758	1071	254	1325
		(補正密度指数)				(24.8)		(23.3)	(25.2)		(28.9)	(44.3)		(39.0)
無 処 理	—	I	210	401	611	416	125	541	923	184	1107	1081	97	1178
		II	236	79	315	92	163	255	583	155	738	848	47	895
		III	279	107	386	361	183	544	256	103	359	770	13	783
		計	725	587	1312	869	471	1340	1762	442	2204	2699	157	2856
		(補正密度指数)				(100)		(100)	(100)		(100)	(100)		(100)

(補正密度指数 左:幼虫のみ、右:幼虫・成虫の合計)

< 薬害 >

供試薬剤	処理方法	連制	薬害		
			散布3日後	同7日後	同14日後
			5/29	6/2	6/9
57) トクチオン乳剤	1000倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
59) トランスフォームフロアブル	1000倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
84) マッチ乳剤	2000倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
対) ハチハチ乳剤	1000倍 散布	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—
無 処 理	—	I	—	—	—
		II	—	—	—
		III	—	—	—

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 アザミウマ類(ネギアザミウマ *Thrips tabaci*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

4. 考 察

本試験における実用性の判定は、成虫の密度が高かったことを考慮し、散布 3、7 日後の幼虫の補正密度指数を重視して行った。

57) トクチオン乳剤 1000 倍散布 ABB-

本薬剤 1000 倍散布は、対照薬剤のハチハチ乳剤 1000 倍散布と比べ、速効性で優る防除効果が認められた。無処理と比較して、効果はあった。実用性はあると考えられる。

葉害は認められなかった。

59) トランスフォームフロアブル 1000 倍散布 BBB-

本薬剤 1000 倍散布は、対照薬剤のハチハチ乳剤 1000 倍散布と比べ、同等の防除効果が認められた。無処理と比較して、効果はあった。実用性はあると考えられる。

葉害は認められなかった。

84) マッチ乳剤 2000 倍散布 CCC-

本薬剤 2000 倍散布は、対照薬剤のハチハチ乳剤 1000 倍散布と比べ、やや劣る防除効果が認められた。無処理と比較して、効果は認められるがその程度はやや低かった。効果はやや低い実用性はあると考えられる。

葉害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ネキリムシ類(カブラヤガ*Agrotis segetum*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

担当者氏名 小林希美、横田佑哉、小林政文、林 直人

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県牛久市結束町 535 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

対象病害虫発生状況 多発生(放虫、一部自然発生)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:浅黄系九条 播種:2020年7月17日 定植:9月25日 栽植距離:畝間150cm×株間25cm×条間25cm 3条植え

1ヶ所あたり4本植え 露地栽培(枠内試験) 施肥等は現地慣行に準じた。土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

供試虫の逃亡を防ぐため、波板を用いて試験区を区画した。

区制・面積 1区 3.0 m² (1.5×2.0m) 21株(84本) 3連制

試験区の構成

1-I	3-I	2-II	4-II	3-III	1-III
2-I	4-I	3-II	1-II	4-III	2-III

1:アディオン乳剤(4000倍) 2:アディオン乳剤(8000倍) 3:ガードベイトA 4:無処理 I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日)2020年9月29日 (処理時の作物のステージ) 本葉3葉期

(処理方法) 供試薬剤は、所定量をジョロを用いて株元に散布した。参考薬剤のガードベイトAは所定量を株元に手で散布した。

(処理前後の降雨影響)処理前後に降雨はなく、影響はないと考える。

試験期間中の気象条件

月日	9/29	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9
平均気温(°C)	18.3	18.4	17.8	18.3	20	20.7	20.2	18.6	17.1	14.5	15.5
降水量(mm)	0	0	2	0	0	0	0.5	0	4.5	32	17.5

アメダスデータ(観測地点:茨城県龍ケ崎市)より引用

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理前(9月29日:被害のみ)、同1日後(9月30日)、同3日後(10月2日)、同7日後(10月6日)、
同10日後(10月9日)(調査方法) 虫数調査:各区地上部の苦悶および死亡虫数を調査した(苦悶は死亡を含む)。死亡虫は調査後、区外へ除去した。
被害調査:各区の被害を下記のとおり被害程度別に分けて調査し、下記の式で被害度を算出した。

被害度=(3a+b)/3N×100

a:株元が切断された本数、b:株元は切断されていないが被害のある本数、c:健全本数、N:調査本数

被害は茎葉を対象に各調査日に肉眼で被害症状を以下の内容で観察した。

-:被害を認めない。+:軽微な被害症状を認める。++:中程度の被害症状を認める。

+++ :重度の被害症状を認める。

その他 処理8時間前(9月29日、午前9時頃)にカブラヤガ3齢幼虫(日植防茨城飼育群、2019年所内キャベツ圃場より採集)を
区あたり10頭放虫した。処理前に被害が認められた株は、区外へ除去し、その後の調査から除外した。

3. 試験成績

末尾に記載

対 象 病 害 虫 名 ネキリムシ類(カブラヤガ *Agrotis segetum*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

4. 考 察

実用性の判定は、処理 10 日後の被害度の対無処理比で行った。

20) アディオン乳剤 生育期 0.5L/m² 株元灌注処理 4000 倍、8000 倍 両濃度とも(A)AA-

本薬剤は、参考薬剤ガードベイト A 3kg/10a 株元散布と比較して効果が優り、無処理区と比較して防除効果は高かった。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

3. 試 験 成 績

< 累積死亡虫数 >

供試薬剤	処理方法	連制	放虫数	1区あたりの累積死亡虫数				薬害 (9/30、 10/2、6、9)
				処理1日後	同3日後	同7日後	同10日後	
				9月30日	10月2日	10月6日	10月9日	
20) アディオン乳剤 ヘルメリン20% Lot.No.23.10 DAO24F	4000倍 生育期 0.5L/m ² 株元灌注	I	10	4	5	5	5	-
		II	10	2	3	3	3	-
		III	10	1	2	2	2	-
		合計	30	7	10	10	10	
	8000倍 生育期 0.5L/m ² 株元灌注	I	10	3	4	4	4	-
		II	10	6	6	6	6	-
		III	10	7	9	9	9	-
		合計	30	16	19	19	19	
参考) ガードベイトA ヘルメリン0.1%	3kg/10a 株元散布	I	10	1	1	1	1	-
		II	10	2	3	3	3	-
		III	10	2	4	4	4	-
		合計	30	5	8	8	8	
無処理	—	I	10	0	0	0	0	-
		II	10	0	0	0	0	-
		III	10	0	0	0	0	-
		合計	30	0	0	0	0	

対 象 病 害 虫 名 ネキリムシ類(カブラヤガ *Agrotis segetum*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

3. 試 験 成 績

<被害程度>

供試薬剤	処理方法	連制	処理前(9月29日)					同1日後 (9月30日)					同3日後 (10月2日)							
			調査 本数	被害程度			被害度 *	対無処 理比	調査 本数	被害程度			被害度 *	対無処 理比	調査 本数	被害程度			被害度 *	対無処 理比
				a	b	c				a	b	c				a	b	c		
20) アディオン乳剤	4000倍 生育期 0.5L/㎡ 株元灌注	I	84	0	0	84	0		84	0	1	83	0.4		84	0	1	83	0.4	
		II	84	0	3	81	1.2		81	0	1	80	0.4		81	0	1	80	0.4	
		III	84	0	3	81	1.2		81	0	0	81	0		81	0	0	81	0	
		合計	252	0	6	246	0.8	200.0	246	0	2	244	0.3	15.0	246	0	2	244	0.3	6.8
	8000倍 生育期 0.5L/㎡ 株元灌注	I	84	0	1	83	0.4		83	0	0	83	0		83	0	1	82	0.4	
		II	84	0	2	82	0.8		82	0	2	80	0.8		82	0	3	79	1.2	
		III	84	0	2	82	0.8		82	0	0	82	0		82	0	0	82	0	
		合計	252	0	5	247	0.7	175.0	247	0	2	245	0.3	15.0	247	0	4	243	0.5	11.4
	参考) ガードベイトA	I	84	0	1	83	0.4		83	0	2	81	0.8		83	0	3	80	1.2	
		II	84	0	2	82	0.8		82	0	2	80	0.8		82	1	2	79	2.0	
		III	84	0	0	84	0		84	0	2	82	0.8		84	1	2	81	2.0	
		合計	252	0	3	249	0.4	100.0	249	0	6	243	0.8	40.0	249	2	7	240	1.7	38.6
無処理	—	I	84	0	1	83	0.4		83	0	4	79	1.6		83	0	6	77	2.4	
		II	84	0	2	82	0.8		82	0	8	74	3.3		82	1	10	71	5.3	
		III	84	0	0	84	0		84	0	3	81	1.2		84	1	11	72	5.6	
		合計	252	0	3	249	0.4	100	249	0	15	234	2.0	100	249	2	27	220	4.4	100

供試薬剤	処理方法	連制	同7日後 (10月6日)					同10日後 (10月9日)						
			調査 本数	被害程度			被害度 *	対無処 理比	調査 本数	被害程度			被害度 *	対無処 理比
				a	b	c				a	b	c		
20) アディオン乳剤	4000倍 生育期 0.5L/㎡ 株元灌注	I	84	0	1	83	0.4		84	0	1	83	0.4	
		II	81	0	1	80	0.4		81	0	2	79	0.8	
		III	81	0	2	79	0.8		81	0	5	76	2.1	
		合計	246	0	4	242	0.5	4.8	246	0	8	238	1.1	6.5
	8000倍 生育期 0.5L/㎡ 株元灌注	I	83	0	3	80	1.2		83	0	4	79	1.6	
		II	82	0	4	78	1.6		82	0	8	74	3.3	
		III	82	0	0	82	0		82	0	3	79	1.2	
		合計	247	0	7	240	0.9	11.4	247	0	15	232	2.0	8.7
	参考) ガードベイトA	I	83	0	4	79	1.6		83	0	5	78	2.0	
		II	82	1	3	78	2.4		82	1	5	76	3.3	
		III	84	1	3	80	2.4		84	1	10	73	5.2	
		合計	249	2	10	237	2.1	20.2	249	2	20	227	3.5	20.7
無処理	—	I	83	0	12	71	4.8		83	3	15	65	9.6	
		II	82	2	25	55	12.6		82	6	33	43	20.7	
		III	84	6	17	61	13.9		84	7	30	47	20.2	
		合計	249	8	54	187	10.4	100	249	16	78	155	16.9	100

* 被害度=(3a+b)/3N×100

斜字は合計より算出

a:株元が切断された本数、 b:株元は切断されていないが被害のある本数、 c:健全本数、 N:調査本数

対象病虫害名・学名 ネキリムシ類 (カブラヤガ *Agrotis segetum*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会山梨試験場 担当者氏名 宮川直也、秋山空隆、丸山直哉、坂野真平、中西秀明

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 山梨県笛吹市石和町小石和 日植防山梨借り上げ圃場

対象病虫害発生状況 多発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:森の奏で 購入苗 定植日:2020年5月19日 露地栽培(枠内試験) 2条植

栽植距離:畝間120cm 条間60cm 株間15cm

施肥:2020年3月19日 高度化成(14-14-14) 164kg/10a 土性:砂壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

供試虫の逃亡を防ぐため、波板を用いて試験区を区画した。

区制・面積・試験区の構成 1区 2.4 m²(2.0m×1.2m) 14株 3連制

1-Ⅲ 2-Ⅲ 3-Ⅲ

2-I 3-I 1-I 2-II 1-II 3-II

1:アディオソ乳剤、2:ガードベイト A、3:無処理 I、II、IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年5月21日(生育期・定植2日後)

(処理方法) 試験薬剤は所定の濃度に希釈し、所定量(0.5L/m²)を株元にジョロを用いて灌注した。

対照薬剤は所定量(3kg/10a)を株元に散布した。

(処理前後の降雨) 降雨による試験への影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29
平均気温(℃)	19.5	18.9	15.7	18.8	20.9	21.8	22.0	21.0	23.6	21.1	19.9
降水量(mm)	37.0	3.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0

山梨県甲府アメダスデータより

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:5月22日(処理1日後)、5月23日(処理2日後)、5月25日(処理4日後)、5月27日(処理6日後)、5月29日(処理8日後)

被害試験:5月22日(処理1日後)、5月23日(処理2日後)、5月25日(処理4日後)、5月27日(処理6日後)、5月29日(処理8日後)

(調査方法・調査基準) 各区内の全株における被害を下記の通り被害程度別に分けて調査し、下記の式で被害度を算出した。

a:株元が切断された株数、b:株元は切断されていないが被害のある株数、c:健全株数、N:調査株数

被害度 = (3a+b)/3N × 100

被害は、茎葉を対象に調査時に肉眼により観察し、被害症状を下記の基準に従って程度別に調査した。

-:被害を認めない。+:軽微な被害症状を認める。++:中程度の被害症状を認める。+++ :重度の被害を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

5月21日(処理後)にカブラヤガ4齢幼虫(日植防茨城提供虫:2019年所内キャベツ圃場より採集し累代飼育した個体群)を区当たり10頭放虫した。鳥類による補食を防ぐため試験区上部を防風網(4mm目合い)で被覆した。

対象病害虫名・学名 ネキリムシ類 (カブラヤガ *A. segetum*) 試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会山梨試験場

3. 試験成績

薬効調査(被害度)

供試薬剤	処理方法	連制	処理1日後(5/22)					対無処理比	処理2日後(5/23)					対無処理比	処理4日後(5/25)					対無処理比
			調査株数	被害程度			被害度		調査株数	被害程度			被害度		調査株数	被害程度			被害度	
				a	b	c				a	b	c				a	b	c		
20) アディオン乳剤 ベルマトリン 20%	8000倍	I	26	0	0	26	0		26	0	0	26	0		26	0	0	26	0	
	生育期	II	26	0	0	26	0		26	0	0	26	0		26	0	0	26	0	
	0.5L/㎡	III	26	0	0	26	0		26	0	0	26	0		26	0	0	26	0	
	株元灌注	合計	78	0	0	78	0	0	78	0	0	78	0	0	78	0	0	78	0	0
対) ガードベイトA ベルマトリン 0.1%		I	26	0	0	26	0		26	0	0	26	0		26	0	0	26	0	
	3kg/10a	II	26	0	0	26	0		26	0	0	26	0		26	0	0	26	0	
	株元散布	III	26	0	0	26	0		26	0	0	26	0		26	0	0	26	0	
		合計	78	0	0	78	0	0	78	0	0	78	0	0	78	0	0	78	0	0
無処理		I	26	0	0	26	0		26	0	3	23	3.8		26	3	1	22	12.8	
	-	II	26	0	1	25	1.3		26	0	3	23	3.8		26	2	3	21	11.5	
		III	26	0	0	26	0		26	1	1	24	5.1		26	1	2	23	6.4	
		合計	78	0	1	77	0.4	100	78	1	7	70	4.2	100	78	6	6	66	10.2	100

供試薬剤	処理方法	連制	処理6日後(5/27)						処理8日後(5/29)						被害程度 5/22,23, 25,27,29
			調査 株数	被害程度			被害度	対無処 理比	調査 株数	被害程度			被害度	対無処 理比	
				a	b	c				a	b	c			
20) アディオン乳剤	8000倍	I	26	0	0	26	0		26	0	0	26	0		—
	生育期	II	26	0	0	26	0		26	0	0	26	0		—
	0.5L/㎡	III	26	0	0	26	0		26	0	0	26	0		—
	株元灌注	合計	78	0	0	78	0	0	78	0	0	78	0	0	
対) ガードベイトA		I	26	0	0	26	0		26	0	1	25	1.3		—
	3kg/10a	II	26	0	0	26	0		26	0	0	26	0		—
	株元散布	III	26	0	0	26	0		26	0	0	26	0		—
		合計	78	0	0	78	0	0	78	0	1	77	0.4	1.6	
無処理		I	26	4	1	21	16.7		26	7	3	16	30.8		—
	-	II	26	2	2	22	10.3		26	8	0	18	30.8		—
		III	26	2	1	23	9.0		26	3	0	23	11.5		—
		合計	78	8	4	66	12.0	100	78	18	3	57	24.4	100	

薬効調査(死亡虫数)

供試薬剤	処理方法	連制	放虫数	処理1日後		処理2日後		処理4日後		処理6日後		処理8日後	
				5/22		5/23		5/25		5/27		5/29	
				苦悶	死亡*	苦悶	死亡*	苦悶	死亡*	苦悶	死亡*	苦悶	死亡*
20) アディオン乳剤	8000倍	I	10	2	0	0	6	0	7	0	7	0	7
	生育期	II	10	6	0	0	8	0	8	0	8	0	8
	0.5L/㎡	III	10	8	0	0	10	0	10	0	10	0	10
	株元灌注	合計	30	16	0	0	24	0	25	0	25	0	25
		死虫率			0		80.0		83.3		83.3		83.3
対) ガードベイトA		I	10	3	0	0	2	0	6	0	7	0	7
	3kg/10a	II	10	1	0	3	0	0	3	0	5	0	5
	株元散布	III	10	1	0	0	1	0	4	0	5	0	5
		合計	30	5	0	3	3	0	13	0	17	0	17
		死虫率			0		10.0		43.3		56.7		56.7
無処理		I	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-	II	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		III	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		死虫率			0		0		0		0		0

*死亡虫数は累積値

4. 考察 (判定した時期、判定記号を記載)

効果の判定は処理8日後の被害度の対無処理比で行った。

20) アディオン乳剤 8000倍 生育期 0.5L/㎡株元灌注 BAAー

本剤の8000倍生育期0.5L/㎡株元灌注は、対照のガードベイトA 3kg/10a株元散布と比較してほぼ同等、無処理区と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

本剤処理による薬害症状は認められなかった。

対象病虫害名・学名 シロイチモジヨトウ *Spodoptera exigua*

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

担当者氏名 小林政文、横田佑哉、小林希美、林 直人

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県牛久市結束町 535 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

対象病虫害発生状況 少発生(放虫)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:浅黄系九条 播種:2020年4月7日 定植:5月25日 栽植距離:畝間 100 cm×株間 15 cm 条間 25 cm 2条植え

露地栽培 施肥等は現地慣行に準じた。土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積 1区 3.6 m² (1.0×3.6m) 48株 3連積

試験区の構成

2-I	1-II	3-II	2-III	3-III	1:ジャックポット顆粒水和剤
1-I	3-I	2-II	1-III		2:ゼンターリ顆粒水和剤
					3:無処理

I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日)2020年7月28日

(処理方法) 供試薬剤は所定の希釈倍数に調製し、137L/10aの割合で葉が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。展着剤マイリノールを10000倍になるように添加した。

(処理前後の降雨影響)処理当日の降雨は夜間からあり、処理から10時間以上後の降雨であったため、降雨による影響はない。

試験期間中の気象条件

月日	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5
平均気温(℃)	24.0	25.0	25.6	26.1	26.0	21.6	21.6	23.2	24.3	24.5	25.7	27.0	27.7
降水量(mm)	0	16.0	10.5	0.5	1.0	0	1.0	1.0	0	0	0	0	0

アメダスデータ(観測地点:茨城県龍ヶ崎市)より引用

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 散布前(7月28日)、散布3日後(7月31日)、散布8日後(8月5日)

(調査方法) 各区中央付近の30株について、生息幼虫数を若・中・老齢別に調査した。全調査日外部からの観察で計数したが、散布8日後のみは外部調査後に葉をすべて解体し、内部に生存する幼虫数も計数した。

被害は茎葉を対象に被害症状を以下の内容で肉眼により観察した。

-:被害を認めない。+:軽微な被害症状を認める。++:中程度の被害症状を認める。

+++ :重度の被害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

7月24日(散布4日前)に各区中央付近の株にシロイチモジヨトウ(高知系統2013年1月より累代飼育)の卵塊を8卵塊/区接種した。接種した卵から孵化した幼虫がやや少ない印象であったため、7月27日に若齢幼虫を約100頭/区の割合で放虫した。7月28日に放虫した幼虫が摂食および区全体に移動をはじめたので試験を始めた。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 シロイチモジヨトウ *Spodoptera exigua* 試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

3. 試 験 成 績

供試薬剤		処理方法	連制	30株あたりの生息虫数												葉害 (7/31, 8/5)
				散布前(外部調査のみ)				同3日後(外部調査のみ)				同8日後(外部・解体調査)				
				7月28日				7月31日				8月5日				
				若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計	若齢	中齢	老齢	合計	
41)	ジャックポット顆粒水和剤	1000倍 散布	I	163	0	0	163	0	0	0	0	0	3	0	3	—
	バチルス チューリンゲンシス		II	72	0	0	72	0	0	0	0	6(4)	3(2)	0	9	—
	菌の生芽胞及び産生結晶毒		III	39	0	0	39	0	0	0	0	0	1	0	1	—
	素 10.0%		合計	274	0	0	274	0	0	0	0	6	7	0	13	
	Lot.20.08 SGI-01T		補正密度指数	—				—				17.6				
対照	ゼンターリ顆粒水和剤	1000倍 散布	I	72	0	0	72	1	0	0	1	0	1	0	1	—
	バチルス・チューリンゲンシス		II	65	0	0	65	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	菌の生芽胞および産生結晶		III	93	0	0	93	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	毒素10.0%		合計	230	0	0	230	1	0	0	1	0	1	0	1	
			補正密度指数	—				—				1.6				
無処理	—	I	101	0	0	101	0	0	0	0	0	24(6)	0	24	—	
		II	70	0	0	70	0	0	0	0	0	29(10)	0	29	—	
		III	85	0	0	85	0	0	0	0	3	13(2)	0	13	—	
		合計	256	0	0	256	0	0	0	0	3	66	0	69		
		補正密度指数	—				—				100					

()内数値は解体時に内部に生息していた虫数

4. 考 察

実用性の判定は、処理 8 日後の幼虫の補正密度指数で行った。

41) ジャックポット顆粒水和剤 1000 倍散布 CBB-

本剤 1000 倍散布は、対照薬剤のゼンターリ顆粒水和剤 1000 倍散布と比べ、やや劣る防除効果であった。無処理と比べ、防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。

葉害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

担当者氏名 小林政文、横田佑哉、小林希美、林 直人

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県牛久市結束町 535 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

対象病害虫発生状況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:夏扇4号 播種:2020年4月17日 定植:6月15日 栽植距離:畝間 120cm×株間 20cm 条間 40cm 2条植え

露地栽培 施肥等は現地慣行に準じた。土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:なし 200穴セルトレイ使用

区制・面積 1区 7.2 m² (1.2×6.0m) 60株 3連制

試験区の構成

2-I	3-II	1-III	1:アドマイヤーフロアブル
1-I	2-II	3-III	2:キックオフ顆粒水和剤
3-I	1-II	2-III	3:無処理

I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日)2020年6月15日

(処理方法) 試験薬剤は所定濃度および量を、200穴のセルトレイに育苗した苗に如雨露を用いて灌注処理を行った。

(処理前後の降雨影響)灌注処理は屋内で実施したため、気象による影響はない。

試験期間中の気象条件

月日	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29
平均気温(℃)	26.3	24.6	22.1	21.4	18.8	22.3	20.7	18.8	20.9	19.9	18.8	22.5	23.7	21.7	23.8
降水量(mm)	0	0	0	1.5	33.0	0	0.5	27.5	5.5	0	9.5	0	0	32.5	0

月日	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14
平均気温(℃)	24.2	25.1	25.0	22.0	24.2	24.0	24.7	26.8	25.7	24.1	25.5	27.0	23.8	20.1	21.7
降水量(mm)	9.0	20.5	18.5	4.0	34.0	3.5	42.0	0	0	7.5	0	0	1.0	4.5	9.0

月日	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30
平均気温(℃)	19.3	19.3	18.8	20.0	23.8	22.7	23.6	24.9	22.7	24.0	25.0	25.6	26.1	26.0	21.6	21.6
降水量(mm)	3.0	0.5	13.5	24.5	0	0	4.0	31.0	7.5	0	16.0	10.5	0.5	1.0	0	1.0

アメダスデータ(観測地点:茨城県龍ヶ崎市)より引用

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 定植17日後(7月2日:薬害のみ)、同31日後(7月16日)、同39日後(7月24日)、同45日後(7月30日)

(調査方法) 各区全域の株元周辺に生息する成虫を計数した。

幼虫調査は、10株の株を掘り取り、バットに広げ丁寧に見取り調査を行い、土塊に隠れている本種幼虫は70%アルコールをハンドスプレーで散布して抽出した。

薬害は、茎葉を対象に調査時に肉眼により観察し、薬害症状を以下の内容で観察した。

ー:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ :重度の薬害症状を認める。

その他 7月2日に成虫の発生を確認したが、幼虫は確認出来なかった。そのため、同日にナタネ油粕を50ml/m²程度の割合で畝面全体に撒き、散水した。その時、畝面に近隣の雑草などの残渣も条間に移動させた。7月3日に畝全体を覆うように寒冷紗を被覆し、毎日灌水した。7月16日に成虫および幼虫が肉眼で観察できたため、調査を開始した。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

3. 試 験 成 績

供試薬剤		処理方法	連制	10株あたりの生息虫数(↑成虫は試験区全域)												薬害 (7/16, 7/24, 7/30)
				定植31日後				定植39日後				定植45日後				
				7月16日				7月24日				7月30日				
				成虫↑	幼虫			成虫↑	幼虫			成虫↑	幼虫			
土壌中	株上	合計*	土壌中		株上	合計*	土壌中		株上	合計*						
21) アドマイヤーフロアブル ミダ'クロプラト'20.0% Lot.PD17J00004002308	200倍	I	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	
	0.5L/トレイ	II	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	—	
	定植当日	III	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	—	
	セルトレイ灌注	合計	2	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0		
	密度指数*					0				0				0		
33) キックオフ顆粒水和剤 クロラントラニプロール4.0% ジノテフラン15.0% Lot.23.10 91D30001	100倍	I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	
	500ml/トレイ	II	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	
	定植当日	III	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	—	
	セルトレイ灌注	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		
	密度指数*					0				0				0		
無処理	—	I	3	6	9	15	2	9	11	20	5	3	2	5	—	
		II	1	4	11	15	0	10	8	18	2	2	2	4	—	
		III	3	5	13	18	0	3	7	10	0	8	6	14	—	
		合計	7	15	33	48	2	22	26	48	7	13	10	23		
		密度指数*				100				100				100		

* 幼虫数で計算

4. 考 察

実用性の判定は、定植 31、39、45 日後の幼虫の密度指数で行った。降雨が続き、湿潤状態を保つことが出来たが、成虫の飛来が少なく、全体的な発生量も少なかった。

21) アドマイヤーフロアブル 200 倍 0.5L/トレイ 定植当日 セルトレイ灌注 -AA-

本剤 200 倍 0.5L/トレイ 定植当日 セルトレイ灌注は、無処理と比べ、高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。被害は認められなかった。

33) キックオフ顆粒水和剤 100 倍 500ml/トレイ 定植当日 セルトレイ灌注 -AA-

本剤 100 倍 500ml/トレイ 定植当日 セルトレイ灌注は、無処理と比べ、高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。被害は認められなかった。

対象病虫害名・学名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

担当者氏名 小林政文、横田佑哉、小林希美、林 直人

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県牛久市結束町 535 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

対象病虫害発生状況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種:夏扇4号 播種:2020年4月17日 定植:6月15日 栽植距離:畝間120cm×株間20cm 条間40cm 3条植え

露地栽培 施肥等は現地慣行に準じた。土性:壤土 試験期間中の防除薬剤:なし 1~2日毎にチューブ灌水

区制・面積 1区 4.8 m² (1.2×4.0m) 40株 3連制

試験区の構成

1-I	4-I	2-II	5-II	3-III	1:トクチオン乳剤
2-I	5-I	3-II	1-III	4-III	2:パダンSG水溶剤
3-I	1-II	4-II	2-III	5-III	3:ハチハチ乳剤
					4:ベストガード水溶剤
					5:無処理

I、II、IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日)2020年7月16日

(処理方法) トクチオン乳剤は所定の希釈倍数に調製し、3L/m²の割合で試験区供試作物株元に如雨露を用いて灌注した。パダンSG水溶剤、ハチハチ乳剤およびベストガード水溶剤は所定の希釈倍数に調製し、185L/10aの割合で葉が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。展着剤マイリノールを10000倍になるように添加した。

(処理前後の降雨影響) 処理当日の降雨は夜間からあり、処理から10時間以上後の降雨であったため、降雨による影響はない。

試験期間中の気象条件

月日	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30
平均気温(℃)	19.3	18.8	20.0	23.8	22.7	23.6	24.9	22.7	24.0	25.0	25.6	26.1	26.0	21.6	21.6
降水量(mm)	0.5	13.5	24.5	0	0	4.0	31.0	7.5	0	16.0	10.5	0.5	1.0	0	1.0

アメダスデータ(観測地点:茨城県龍ヶ崎市)より引用

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 処理前(7月16日)、処理3日後(7月19日:成虫のみ)、処理8日後(7月24日)、同14日後(7月30日)

(調査方法) 各区全域の株元周辺に生息する成虫を計数した。

幼虫調査は、10株の株を掘り取り、バットに広げ丁寧に見取り調査を行い、土塊に隠れている本種幼虫は70%アルコールをハンドスプレーで散布して抽出した。

薬害は、茎葉を対象に調査時に肉眼により観察し、薬害症状を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。

+++ :重度の薬害症状を認める。

その他 7月2日に成虫の発生を確認したが、幼虫は確認出来なかった。そのため、同日にナタネ油粕を50ml/m²程度の割合で畝面全体に撒き、散水した。その時、畝面に近隣の雑草などの残渣も条間に移動させた。7月3日に畝全体を覆うように寒冷紗を被覆し、毎日灌水した。7月16日に成虫および幼虫が肉眼で観察できたため、試験を開始した。

対象病害虫名・学名 クロバネキノコバエ類(チバククロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

3. 試験成績

供試薬剤	処理方法	連制	10株あたりの生息虫数(†成虫は試験区全域)								薬害 (7/19, 7/24, 7/30)
			処理前 7月16日		処理3日後 7月19日	処理8日後 7月24日		処理14日後 7月30日			
			成虫†	幼虫	成虫†	成虫†	幼虫	成虫†	幼虫		
57) トクチオン乳剤 プロチオホス45.0% Lot.22.10 8XS200	2000倍 3L/m ² 株元灌注	I	2	17	0	3	2	2	6	—	
		II	0	12	0	0	0	0	0	—	
		III	1	18	2	0	1	0	0	—	
		合計	3	47	2	3	3	2	6		
		補正密度指数*	—		—	4.9		14.1			
67) パダンSG水溶剤 カルタップ塩酸塩75% Lot.21.10 OJC648	1500倍 散布	I	1	13	0	0	0	0	0	—	
		II	4	19	0	2	0	0	0	—	
		III	2	14	0	1	0	1	0	—	
		合計	7	46	0	3	0	1	0		
		補正密度指数*	—		—	0		0			
69) ハチハチ乳剤 トルフェンバド15.0% Lot.22.10 8C78A	1000倍 散布	I	1	15	0	0	1	1	0	—	
		II	3	19	1	0	1	1	0	—	
		III	2	12	0	1	0	1	2	—	
		合計	6	46	1	1	2	3	2		
		補正密度指数*	—		—	3.4		4.8			
対照 ベストガード水溶剤 ニテンピラム10%	2000倍 散布	I	0	11	5	0	0	3	0	—	
		II	4	15	0	2	0	0	0	—	
		III	2	6	0	0	0	0	0	—	
		合計	6	32	5	2	0	3	0		
		補正密度指数*	—		—	0		0			
無処理	—	I	1	11	3	1	13	7	8	—	
		II	2	9	3	0	10	2	11	—	
		III	0	11	2	3	17	0	9	—	
		合計	3	31	8	4	40	9	28		
		補正密度指数*	—		—	100		100			

* 幼虫数で計算

4. 考察

実用性の判定は、処理 8、14 日後の幼虫の補正密度指数で行った。降雨が続き、湿潤状態を保つことが出来たが、成虫の飛来が少なく、全体的な発生量も少なかった。

57) トクチオン乳剤 2000 倍 3L/m² 株元灌注 CAA-

本剤 2000 倍 3L/m² 株元灌注は、対照薬剤のベストガード水溶剤 2000 倍散布と比べ、やや劣る防除効果であった。無処理と比べ、高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

67) パダン SG 水溶剤 1500 倍散布 BAA-

本剤 1500 倍散布は、対照薬剤のベストガード水溶剤 2000 倍散布と比べ、同等の防除効果が認められた。無処理と比べ、高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

69) ハチハチ乳剤 1000 倍散布 BAA-

本剤 1000 倍散布は、対照薬剤のベストガード水溶剤 2000 倍散布と比べ、同等の防除効果が認められた。無処理と比べ、高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

対象病害虫名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

試験場名 静岡大学

担当者氏名 田上 陽介

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 静岡県静岡市駿河区大谷 静岡大学構内圃場

対象病害虫発生状況 少発生(放虫)

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

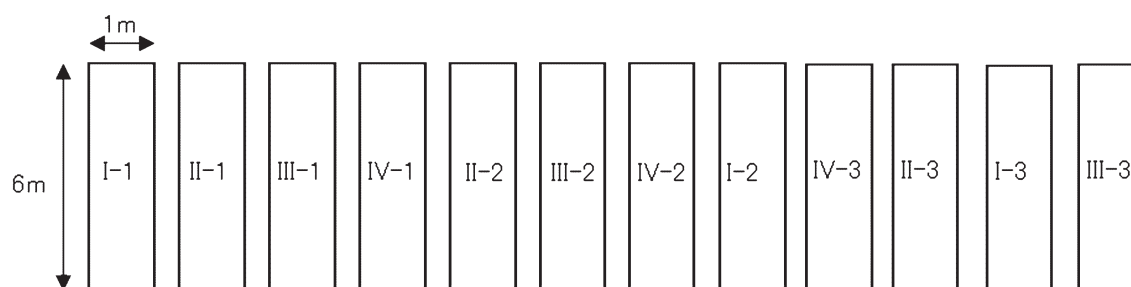
品種: 九条ネギ(浅黄系) 播種日: 4月3日 定植日: 6月24日 栽植距離: 畝幅 150cm×株間 20cm 1条植え 土性: 砂土 栽培条件: 主枝 2本 96穴トレイ 露地栽培

試験期間中の防除薬剤: なし

施肥その他一般管理は慣行に準じた。ただし処理14日前に、各畝に240g程度油かすを撒いた。

区制・面積 1区 9.0 m² (6m×1.5m) 30株 3連制

圃場配置図



Iはアドマイヤーフロアブル、IIはキックオフ顆粒水和剤、IIIはスタークル顆粒水溶剤、IVは無処理、1、2、3は連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 令和2年6月24日 (作物のステージ) 生育期

(処理方法) アドマイヤーフロアブル 200倍、キックオフ顆粒水和剤 100倍は定植時 0.5l/トレイ灌注し、対照のスタークル顆粒水和剤 1000倍希釈は 1L/m²灌注処理した。

試験期間中の気象条件

2020年6月24日～7月15日までの降雨及び気温(露地)

月日	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8
平均気温(°C)	24.9	24.3	28.1	27.3	23.2	24.8	24.2	24.4	25.8	22.9	25.2	25	25.2	27.2	25.2
降水量(mm)	4.5	25.5	0.5	0	68.5	0	71	91	0	21.5	88	34.5	77	2.5	22
月日	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15								
平均気温(°C)	24.2	24.5	27.2	27.8	22.5	23.9	24.9								
降水量(mm)	30.5	27.5	28	0	5	26	0								

アメダスデータ(観測地点: 静岡県静岡市)

調査月日・方法

(調査月日) 散布前(6月24日)、処理7日後(7月1日)、処理14日後(7月8日)、処理21日後(7月15日)

(調査方法) 各区7株から株元の50gの土と一緒に取り、根及び土の中の幼虫、成虫数を調査した。

被害は茎葉 被害状況を以下の基準により肉眼で観察した。

-: 被害を認めない。+: 軽微な被害症状を認める。++: 中程度の被害症状を認める。+++ : 重度の被害症状を認める。

その他(放虫方法) 2018年6月静岡大学で採集し随時追加増殖したチバクロバネキノコバエが寄生した里芋を細かく切り(各畝1000頭程度の卵・幼虫・蛹)、6月21日に各畝に少量の土とともに埋めた。

対 象 病 害 虫 名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

3. 試 験 成 績

供試薬剤 有効成分名・量 Lot No.	使用条件 希釈倍数	連制	各試験区7株あたりの生息幼虫・成虫数								薬害
			処理前		7日後		14日後		21日後		
			幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
21) アドマイヤーフロアブル イミダクロプ・リト 20% PD17J00004	200倍 0.5L/トレイ 定植当日灌注	1	33	0	6	1	0	0	4	0	
		2	19	0	4	0	8	0	0	0	-
		3	10	0	10	0	0	0	4	0	-
		合計	62	0	20	1	8	0	8	0	
		補正密度指数			30.4		17.8		11.6		
33) キックオフ顆粒水和剤 クロラントリニブ・ロール 4.0% ジ・ノテフラン 15.0% 91D300001	100倍 0.5L/トレイ 定植時灌注	1	18	0	21	0	2	0	4	0	-
		2	10	0	6	0	2	0	3	0	-
		3	22	0	12	0	3	0	2	0	-
		合計	50	0	39	0	7	0	9	0	
		補正密度指数			73.4		19.3		16.2		
対) スタークル顆粒水溶剤 ジ・ノテフラン 20% 無処理	1000 倍 1L/㎡ 灌注	1	31	0	12	0	3	0	3	0	-
		2	20	0	10	0	1	0	4	0	-
		3	6	0	11	0	0	0	2	0	-
		合計	57	0	33	0	4	0	9	0	
		補正密度指数			54.5		9.7		14.2		
無処理	—	1	10	1	24	0	10	0	25	0	
		2	44	0	26	0	21	0	20	0	
		3	26	0	35	0	27	0	44	0	
		合計	80	1	85	0	58	0	89	0	
		補正密度指数	100		100		100		100		

4. 考 察

実用性の判定は処理 14 日、21 日後の寄生幼虫数の補正密度指数を総合し行った。

21) アドマイヤーフロアブル 200 倍 定植当日灌注 0.5L/トレイ BBB-

本処理は、対照処理と比較して効果が同等であり、無処理と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。試験期間を通して葉害は認められなかった。

33) キックオフ顆粒水和剤 100 倍 定植当日灌注 500mL/トレイ BBB-

本処理は、対照処理と比較して効果が同等であり、無処理と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。試験期間を通して葉害は認められなかった。

対象病害虫名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

試験場名 静岡大学

担当者氏名 田上 陽介

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 静岡県静岡市駿河区大谷 静岡大学構内圃場

対象病害虫発生状況 少発生(放虫)

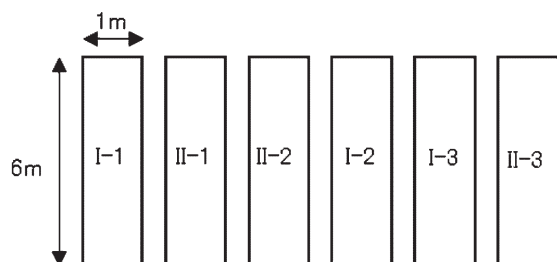
耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:九条ネギ(浅黄系) 播種日:5月14日 栽植距離:畝幅 150cm×株間 30cm 1条植え 土性: 砂土
露地栽培 試験期間中の防除薬剤: なし

施肥その他一般管理は慣行に準じた。ただし播種14日前に、各畝に240g程度油かすを撒いた。

区制・面積 1区 9.0 m² (6m×1.5m) 32株 3連制

圃場配置図



Iはダントツ粒剤、IIは無処理、1、2、3は連制

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 令和2年5月14日 (作物のステージ) 播種時

(処理方法) ダントツ粒剤は3kg/10a 播種時作条土壌混和処理をした。

試験期間中の気象条件

2020年5月14日～6月10日までの降雨及び気温(露地)

月日	5/14	5/15	5/16	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28
平均気温(°C)	19.8	19.6	17.2	20.6	21.5	19.8	18.9	16.3	19.1	20.4	21.9	21.7	21.9	25.6	22.1
降水量(mm)	0	0	35	0	5.5	49.5	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0

アメダスデータ(観測地点: 静岡県静岡市)

月日	5/29	5/30	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10
平均気温(°C)	20.7	21.7	20.9	21	23.3	23.2	24	24.1	24.1	23.8	23.6	24.7	22.4
降水量(mm)	0.5	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	0	0	25

アメダスデータ(観測地点: 静岡県静岡市)

調査月日・方法

(調査月日) 処理4日後(5月18日)、処理7日後(5月21日)、処理18日後(6月1日)、処理27日後(6月10日)

(調査方法) 各区7地点から50gの土を取り、芽及び土の中の幼虫と、各地点の土表面または株付近の成虫数を調査した。

被害は茎葉を対象に肉眼で症状の有無を以下の基準により肉眼で観察した。

-: 被害を認めない。+: 軽微な被害症状を認める。++: 中程度の被害症状を認める。+++: 重度の被害症状を認める。

その他(放虫方法) 2018年6月静岡大学で採集し随時追加し増殖したチバクロバネキノコバエが寄生した里芋を細かく切り(各畝1000頭程度の卵・幼虫・蛹)、播種3日後(5月17日)に各区の30地点の根元に少量の土とともに埋めた。

対 象 病 害 虫 名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

3. 試 験 成 績

供試薬剤 有効成分名・ Lot No.	使用条件 希釈倍数	連制	各試験区7地点あたりの生息幼虫・成虫数				各試験区7株あたりの生息幼虫・成虫数				6/1、 6/10 薬 害
			処理4日後		7日後		18日後		27日後		
			幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
51)ダントツ粒剤 クロチアジメ0.5%	3kg/10a 播種時作 条土壌混 和	1	9	1	2	0	4	0	7	0	-
		2	27	0	6	0	6	0	7	0	-
		3	5	2	10	0	4	1	9	0	-
		合計	41	3	18	0	14	1	23	0	
		密度指数	87.2		35.3		21.5		35.4		
EAC150											
無処理	—	1	23	0	41	0	49	0	20	0	
		2	12	2	10	0	12	0	21	0	
		3	12	0	0	0	4	0	24	0	
		合計	47	2	51	0	65	0	65	0	
		密度指数	100		100		100		100		

4. 考 察

実用性の判定は処理 18、27 日後の寄生幼虫数の密度指数により行った。

51) ダントツ粒剤 播種時作条土壌混和 3kg/10a -BB-

本処理は、無処理と比較して効果が認められた。実用性はあると考えられる。発芽後(6/1,6/10)、薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

試験場名 静岡大学

担当者氏名 田上 陽介

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 静岡県静岡市駿河区大谷 静岡大学構内圃場

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 少発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

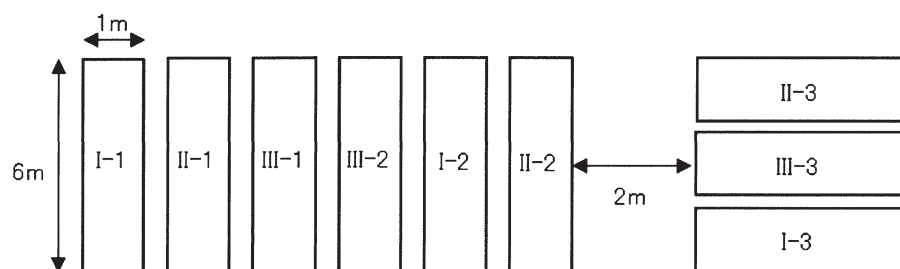
品種: 九条ネギ 播種日: 5月14日 栽植距離: 畝幅 150cm×株間 18cm 1条植え 土性: 砂土

栽培条件: 主枝 2~4本 露地栽培 試験期間中の防除薬剤: なし

施肥その他一般管理は慣行に準じた。ただし6/19, 6/26に、各畝に320g程度油かすを撒いた。

区制・面積 1区 9 m² (6m×1.5m) 32株 3連制

圃場配置図



Iはトクチオン乳剤、IIはスタークル顆粒水溶剤、IIIは無処理、1、2、3は連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 令和2年7月3日 (作物のステージ) 生育期

(処理方法) トクチオン乳剤 2000 倍は 3L/m² 株元灌注、スタークル顆粒水溶剤 1000 倍は 1L/m² 灌注処理をした。

試験期間中の気象条件

2020年7月3日~7月19日までの降雨及び気温(露地)

月日	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19
平均気温 (°C)	22.9	25.2	25	25.2	27.2	25.2	24.2	24.5	27.2	27.8	22.5	23.9	24.9	23.6	21.6	23.5	25.1
降水量 (mm)	21.5	88	34.5	77	2.5	22	30.5	27.5	28	0	5	26	0	0	52	69	0

アメダスデータ(観測地点: 静岡県静岡市)

調査月日・方法

(調査月日) 処理前(7月3日)、処理4日後(7月7日)、処理7日後(7月10日)、処理16日後(7月19日)

(調査方法) 各区7株から株元の50gの土と一緒に取り土の中の幼虫数、調査株付近の成虫数を調査した。

薬害は茎葉を対象に肉眼で症状の有無を以下の基準により肉眼で観察した。

-: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。+++: 重度の薬害症状を認める。

その他

対 象 病 害 虫 名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

3. 試 験 成 績

供試薬剤 有効成分名・量 Lot No.	使用条件 希釈倍数	連制	各試験区7株あたりの生息幼虫・成虫数								薬害
			処理前		4日後		7日後		16日後		
			幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
57) トクチオン乳剤 プロチオス 45% 8XS2001	×2000 3L/m ² 株元 灌注	1	10	2	2	2	2	0	0	0	—
		2	16	3	4	0	2	1	3	0	—
		3	21	0	9	0	2	1	0	1	—
		合計	47	5	15	2	6	2	3	1	
		補正密度指数			35.6		30.9		9.7		
対) スターカル顆粒水溶剤 ジノテラン 20%	×1000 1L/m ²	1	7	1	4	1	7	0	0	1	—
		2	15	1	4	0	0	0	4	0	—
		3	19	0	3	0	0	0	1	1	—
		合計	41	2	11	1	7	0	5	2	
		補正密度指数			29.9		41.3		18.6		
無処理	—	1	26	0	18	0	10	0	8	1	
		2	12	4	16	2	4	2	15	0	
		3	20	2	18	3	10	2	15	0	
		合計	58	6	52	5	24	4	38	1	
		補正密度指数	100		100		100		100		

4. 考 察

実用性の判定は16日後の寄生幼虫数の補正密度指数により行った。

57) トクチオン乳剤 2000 倍 3L/m² 灌注 AAA-

本処理は対照処理と比較して効果が高く、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。試験期間を通して薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

試験場名 静岡大学

担当者氏名 田上 陽介

1. 試 験 目 的 (依 頼 事 項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 静岡県静岡市駿河区大谷 静岡大学構内圃場

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 少発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:九条ネギ 播種日:5月14日 定植日:令和2年6月10日 栽植距離:畝幅 50cm×株間 18cm 1条植え 土

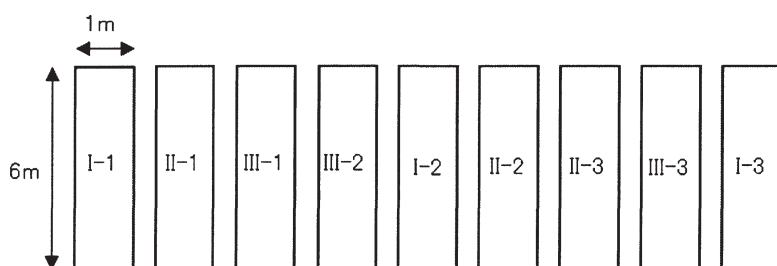
性:砂土 栽培条件:主枝 2本 露地栽培

試験期間中の防除薬剤:なし

施肥その他一般管理は慣行に準じた。ただし播種14日、6日前に、各畝に240g程度油かすを撒いた。

区制・面積 1区9㎡ (6m×1.5m) 32株3連制

圃場配置図



IIはパダンSG水溶剤、IIIはベストガード水溶剤、IIIは無処理、1、2、3は連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 令和2年6月24日 (作物のステージ) 生育期

(処理方法) パダン SG 水溶剤 1500 倍、250L/10a、対照のベストガード水溶剤は 1000 倍、250L/10a を肩掛け式散布機で散布した。

試験期間中の気象条件

2020年6月24日～7月8日までの降雨及び気温 (露地)

月日	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8
平均気温 (°C)	24.9	24.3	28.1	27.3	23.2	24.8	24.2	24.4	25.8	22.9	25.2	25	25.2	27.2	25.2
降水量 (mm)	4.5	25.5	0.5	0	68.5	0	71	91	0	21.5	88	34.5	77	2.5	22

アメダスデータ (観測地点: 静岡県静岡市)

調査月日・方法

(調査月日) 散布前(6月24日)、処理7日後(7月1日)、処理14日後(7月8日)

(調査方法) 各区7株から株元の50gの土と一緒に取り、根及び土の中の幼虫、蛹数を調査した。

薬害は茎葉を対象に症状の有無を以下の基準により肉眼で観察した。

-: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。+++: 重度の薬害症状を認める。

その他

対 象 病 害 虫 名 クロバネキノコバエ類(チバクロバネキノコバエ *Bradysia impatiens*)

3. 試 験 成 績

供試薬剤 有効成分名・量 Lot No.	使用条件	連制	各試験区7株あたりの生息幼虫・成虫数								薬害
			処理前		3日後		7日後		14日後		
			幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
67) ハ゜ﾀﾞﾝSG水溶剤 カルタップ 塩酸塩75% 0JC648	1500倍	1	11	2	4	0	2	2	0	3	－
		2	23	0	10	0	1	1	5	7	－
		3	10	0	1	0	10	1	3	3	－
		合計	44	2	15	0	13	4	8	13	
		補正密度指数			35.0		24.9		12.1		
対) ベ゜ｽﾀﾞｰﾄ゛水溶剤 ニテンピラム 10%	1000倍	1	13	3	3	3	6	4	1	2	－
		2	29	2	4	2	4	0	0	2	－
		3	13	2	3	0	4	1	2	2	－
		合計	55	7	10	5	14	5	3	6	
		補正密度指数			18.7		21.5		3.6		
無処理	－	1	10	1	10	2	15	3	26	0	
		2	12	2	11	0	13	0	14	2	
		3	16	2	16	0	17	0	17	3	
		合計	38	5	37	2	45	3	57	5	
		補正密度指数	100		100		100		100		

4. 考 察

実用性の判定は7、14日後の寄生幼虫数の密度指数により行った。

67) パダン SG 水溶剤 1500 倍 250L/10a 散布 CBB-

本処理は対照処理と比較して効果がやや劣り、無処理と比較して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。試験期間を通して薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ネダニ類 (ロビンネダニ *Rhizoglyphus robini*)

試験場名 長野県野菜花き試験場

担当者氏名 岩田直樹

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 長野県塩尻市大字宗賀字床尾 1066-1 長野県野菜花き試験場 圃場

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:「夏扇パワー」 播種:2020年3月15日(チェーンポット CP303 使用) 定植:5月18日 露地栽培

栽植距離:畝間 100 cm×株間約5cm 施肥その他一般管理は慣行に準じて行った。土性:埴壤土 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区4m² (1m×4m) 80株 3連制

北	1-Ⅲ	3-Ⅲ	2-Ⅲ	1:SYJ-295DC 2:対) フォース粒剤 3:無処理 なお、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは連制を示す
	2-Ⅱ	1-Ⅱ	3-Ⅰ	
	3-Ⅰ	2-Ⅰ	1-Ⅰ	

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2020年5月18日 (作物ステージ) 定植期

(処理方法) 所定濃度に希釈した薬液をセルトレイ(チェーンポット)1枚あたり0.5Lをジョウロで灌注した。対照薬剤のフォース粒剤は、9 kg/10a 相当量を作条土壌混和した。

(処理前後の降雨影響) 処理日および翌日に降雨があったものの影響は無いと考えられる。

月/日	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7
平均気温 (°C)	18.1	17.8	15.7	13.7	15.9	17.8	19.2	20.2	18.1	18.7	15.9	15.1	16.2	14.6	18.7	21.5	20.6	21.5	22.7	20.3	19.3
降雨量 (mm)	4	32	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	6.5	0.5	0	0	0	0	0	0	0

6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27
20.8	22.7	23.1	21.8	21	19.2	21.5	23.8	21	20.4	18	15.7	18	19.8	17.7	20.9	22.7	23.4	25	23.4
0	0	0	36.5	0	65	18.5	0.5	0	0	9	31	0	0	1.5	0	0	0	0	0

(長野県野菜花き試験場内 気象観測データ)

調査月日・方法

(調査月日) 処理3日前(5月15日)、処理10日後(5月28日)、20日後(6月7日)、30日後(6月17日)、40日後(6月27日)

(調査方法) 1区あたりねぎ5株(盤茎上部5cm以上は切除)と、土壌 500g(深さ15cm程度まで)をスコップで採取し、ツルグレン装置で48時間処理して抽出されたロビンネダニを、実体顕微鏡下で幼・若虫、成虫別に計数した。薬害は茎葉を対象に、調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。 -: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

3. 試験成績

供試薬剤	処理量 処理方法	連 制	5株および土壌500gあたりのロビンネダニ個体数															薬害	
			処理3日前(5/15)			10日後(5/28)			20日後(6/7)			30日後(6/17)			40日後(6/27)			5/28,6/7, 6/17,6/27	
			幼・若虫	成虫	合計	幼・若虫	成虫	合計	幼・若虫	成虫	合計	幼・若虫	成虫	合計	幼・若虫	成虫	合計		
12) SYJ-295DC 新規化合物100g/L Lot No. HWI002 -041-002	×500 0.5L/ トレイ 灌注	I	5	4	9	9	2	11	3	1	4	3	6	9	4	1	5	—	
		II	17	2	19	8	0	8	7	0	7	3	0	3	2	1	3	—	
		III	7	1	8	5	6	11	4	1	5	2	0	2	2	0	2	—	
		計	29	7	36	22	8	30	14	2	16	8	6	14	8	2	10		
		(補正密度指数)				(41.7)			(10.8)			(2.1)			(1.4)				
対) フォース粒剤 テフルトリン0.5%	9kg/10a 作条土壌 混和	I	19	2	21	4	2	6	4	5	9	6	2	8	58	58	116	—	
		II	6	8	14	6	2	8	3	5	8	0	3	3	9	89	98	—	
		III	2	4	6	2	1	3	3	6	9	13	38	51	41	143	184	—	
		計	27	14	41	12	5	17	10	16	26	19	43	62	108	290	398		
		(補正密度指数)				(20.7)			(15.4)			(8.1)			(47.9)				
無処理		I	5	4	9	17	15	32	22	7	29	80	265	345	81	117	198		
		II	20	2	22	18	14	32	36	67	103	15	172	187	79	154	233		
		III	2	8	10	10	8	18	28	9	37	46	185	231	87	313	400		
		計	27	14	41	45	37	82	86	83	169	141	622	763	247	584	831		

4. 考察

防除効果の判定は、処理20、30、40日後の補正密度指数により行った。

12) SYJ-295DC (×500 0.5L/トレイ 定植前灌注) AAA-

本剤はねぎのネダニ類(ロビンネダニ)に対し、対照のフォース粒剤(9kg/10a 作条土壌混和)と比較しまさる効果が認められた。無処理と比較して高い効果が認められ、実用性が高いと考えられる。薬害は認められなかった。